第52回定例会

南部町議会会議録
(決算特別委員会)

平成25年8月30日 開会
平成25年9月5日 閉会

南部町議会

第52回南部町議会 決算特別委員会会議録目次

第 1 号（8月30日）

○出席委員	1
○欠席委員	1
○説明のため出席した者の職氏名	1
○職務のため出席した者の職氏名	2
○臨時委員長紹介	3
○開会及び開議の宣告	3
○委員長の互選	3
○副委員長の互選	4
○散会の宣告	5

第 2 号（9月4日）

○出席委員	7
○欠席委員	7
○説明のため出席した者の職氏名	7
○職務のため出席した者の職氏名	8
○開議の宣告	9
○代表監査委員の審査意見報告	9
○議案第82号の上程、説明、質疑、討論、採決	11
○散会の宣告	64

第 3 号（9月5日）

○出席委員	65
○欠席委員	65
○説明のため出席した者の職氏名	65

○職務のため出席した者の職氏名	66
○開議の宣告	67
○議案第83号の上程、説明、質疑、討論、採決	67
○議案第84号の上程、説明、質疑、討論、採決	73
○議案第85号の上程、説明、質疑、討論、採決	76
○議案第86号の上程、説明、質疑、討論、採決	78
○議案第87号の上程、説明、質疑、討論、採決	87
○議案第88号の上程、説明、質疑、討論、採決	96
○議案第89号の上程、説明、質疑、討論、採決	98
○議案第90号の上程、説明、質疑、討論、採決	102
○議案第91号から議案第93号の上程、説明、質疑、討論、採決	109
○議案第94号の上程、説明、質疑、討論、採決	115
○議案第95号の上程、説明、質疑、討論、採決	121
○議案第96号の上程、説明、質疑、討論、採決	127
○議案第97号から議案第101号の上程、説明、質疑、討論、採決	135
○閉会の宣告	140
○署名	141

平成25年8月30日（金曜日）

第52回南部町議会 決算特別委員会会議録

（第1号）

南部町議会決算特別委員会会議録（第1号）

平成25年8月30日（金）

出席委員（17名）

1番	山田賢司君	2番	八木田憲司君
3番	中舘文雄君	4番	工藤正孝君
5番	夏堀文孝君	6番	沼畑俊一君
7番	根市勲君	8番	河門前正彦君
9番	川井健雄君	10番	中村善一君
11番	佐々木勝見君	13番	馬場又彦君
14番	立花寛子君	15番	川守田稔君
16番	工藤久夫君	17番	坂本正紀君
18番	東寿一君		

欠席委員（1名）

12番 工藤幸子君

説明のため出席した者の職氏名

町長	工藤祐直君	副町長	坂本勝二君
総務課長	小萩沢孝一君	企画調整課長	坂本與志美君
財政課長	小笠原覚君	税務課長	谷内恭介君
住民生活課長	極檀義昭君	健康福祉課長	高森正義君
農林課長	川守田貢君	農村交流推進課長	西村幸作君
商工観光課長	福田修君	建設課長	工藤良夫君
会計管理者	若本勝則君	名川病院事務長	佐藤正彦君
老健なんぶ事務長	麦沢正実君	市場長	工藤敏彦君
教育長	山田義雄君	学務課長	夏堀常美君
社会教育課長	西村久君	農業委員会事務局長	北山哲君
代表監査委員	山口裕貢君		

職務のため出席した者の職氏名

事務局 長 根 市 良 典 主 幹 留 目 日出子
主 査 留 目 成 人

◎臨時委員長紹介

○事務局長（根市良典君） 本委員会は、先ほどの本会議において設置され、最初の決算特別委員会です。委員長が互選されるまでの間、委員会条例第10条第2項の規定によって、年長委員が臨時に委員長の職務を行うことになっております。

出席委員の中で東寿一委員が年長の委員でありますのでご紹介いたします。東寿一委員は臨時委員長席までお願いします。

（臨時委員長 東寿一君 臨時委員長席に着く）

○臨時委員長（東寿一君） ただいまご紹介をいただきました東寿一でございます。

本日招集されました決算特別委員会の開会に当たり、委員会条例第10条第2項の規定により、私が臨時委員長の職務を行うことになりました。委員長が互選されるまでの限られた時間ではありますが、委員各位のご協力をよろしくお願いいたします。

◎開会及び開議の宣告

○臨時委員長（東寿一君） これより決算特別委員会を開会いたします。

（午前10時41分）

◎委員長の互選

○臨時委員長（東寿一君） これより委員長の互選を行います。

お諮りいたします。互選の方法は指名推選にいたしたいと思っております。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○臨時委員長（東寿一君） ご異議なしと認めます。

互選方法は指名推選により行うことに決定しました。

お諮りいたします。指名の方法は年長委員である私が指名することにしたいと思います。ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○臨時委員長（東寿一君） ご異議なしと認めます。

よって、年長委員である私が指名することに決定しました。

指名します。決算特別委員会委員長に馬場又彦君を指名します。

お諮りいたします。ただいま指名しました馬場又彦君を決算特別委員会委員長に選任することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○臨時委員長（東寿一君） ご異議なしと認めます。

よって、決算特別委員会委員長に馬場又彦君が選任されました。

ただいま決算特別委員会委員長に選任されました馬場又彦君が本委員会に出席されておりますので、本席から当選の告知をします。

以上をもちまして私の職務は終わりました。

委員長と交代をいたします。ご協力まことにありがとうございました。馬場又彦君は委員長席にお願いいたします。

(馬場又彦君 委員長席に着く)

○委員長（馬場又彦君） ひと言、ごあいさつ申し上げます。今回、はかなからずも不肖、私、皆様方のご推挙によりまして、委員長の職に就くことになりました。まことに不慣れで、皆様方にご迷惑をおかけすることが多々あると存じますが、皆様方のご協力をいただき任務を全うしたいと思っております。どうか皆様、よろしくお願いいたします。

◎副委員長の互選

○委員長（馬場又彦君） これより副委員長の互選を行います。

お諮りします。互選の方法は指名推選にいたしたいと思います。ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(馬場又彦君) 異議なしと認めます。

よって、互選方法は指名推選により行うことに決定いたしました。

お諮りいたします。指名の方法は小職委員長が指名することにしたいと思います。ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(馬場又彦君) 異議なしと認めます。

小職が指名することに決定しました。

指名します。決算特別委員会副委員長に川守田稔君を指名します。

お諮りいたします。ただいま指名しました川守田稔君を決算特別委員会副委員長に選任することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(馬場又彦君) 異議なしと認めます。

決算特別委員会副委員長に川守田稔君が選任されました。

ただいま決算特別委員会副委員長に選任されました川守田稔君が本委員会に出席されておりますので、本席から当選の告知をします。

◎散会の宣告

○委員長(馬場又彦君) お諮りします。

本日はこの程度にとどめ、散会したいと思います。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(馬場又彦君) 異議なしと認めます。

本日はこれで散会することに決定しました。

なお、本委員会は9月4日、午前10時から再開します。

本日はこれにて散会いたします。ご苦労さまでございました。

(午前10時44分)

平成25年9月4日（水曜日）

第52回南部町議会 決算特別委員会会議録

（第2号）

南部町議会決算特別委員会会議録（第2号）

平成25年9月4日（水）

出席委員（17名）

1番	山田賢司君	2番	八木田憲司君
3番	中舘文雄君	4番	工藤正孝君
5番	夏堀文孝君	6番	沼畑俊一君
7番	根市勲君	9番	川井健雄君
10番	中村善一君	11番	佐々木勝見君
12番	工藤幸子君	13番	馬場又彦君
14番	立花寛子君	15番	川守田稔君
16番	工藤久夫君	17番	坂本正紀君
18番	東寿一君		

欠席委員（1名）

8番 河門前正彦君

説明のため出席した者の職氏名

町長	工藤祐直君	副町長	坂本勝二君
総務課長	小萩沢孝一君	企画調整課長	坂本與志美君
財政課長	小笠原覚君	税務課長	谷内恭介君
住民生活課長	極檀義昭君	健康福祉課長	高森正義君
農林課長	川守田貢君	農村交流推進課長	西村幸作君
商工観光課長	福田修君	建設課長	工藤良夫君
会計管理者	若本勝則君	名川病院事務長	佐藤正彦君
老健なんぶ事務長	麦沢正実君	市場長	工藤敏彦君
教育長	山田義雄君	学務課長	夏堀常美君
社会教育課長	西村久君	農業委員会事務局長	北山哲君
代表監査委員	山口裕貢君		

.....

◎開議の宣告

○委員長（馬場又彦君） これより決算特別委員会を再開いたします。
直ちに本日の会議を開きます。

（午前10時00分）

.....

○委員長（馬場又彦君） 本委員会に付託されました、議案第82号から議案第101号までの平成24年度南部町一般会計及び特別会計歳入歳出決算認定についてを議題とします。

.....

◎代表監査委員の審査意見報告

○委員長（馬場又彦君） ここで代表監査委員から決算審査の意見を求めます。代表監査委員、山口裕貢君。

（代表監査委員 山口裕貢君 登壇）

○代表監査委員（山口裕貢君） ただいまご指名をいただきました山口裕貢です。決算審査意見報告の前に、ひと言、監査委員就任のあいさつをいたします。

地方自治における監査の重要性をよく考えまして、今後、微力ながら誠実に公正に職務を行っていきたく存じておりますので、何卒、よろしくご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。大変、簡単でございますがあいさつといたします。また、一日の第21回青森県民駅伝競走大会において町の部3回目の優勝、おめでとうございます。皆さんと一緒に喜びたいと思います。

それでは、平成24年度南部町各会計歳入歳出決算等の審査結果を報告申し上げます。

決算における審査対象は、平成24年4月から平成25年3月までの各会計の決算であります。審査の期間は、平成25年8月1日、2日、5日、6日の4日間実施いたしました。

審査に当たりましては、各会計歳入歳出決算書、決算事項別明細書、実質収支調書、財産に関する調書及び基金の運用状況を示す書類について、関係法令に準拠して作成されているか、その内容及び計数が関係諸帳簿、証拠書類と符合し、かつ適正であるかに主眼を置いて実施いたしま

した。

それでは、決算特別委員会の審査に当たり、決算の概要及び意見を申し上げます。

一般会計は歳入総額105億1,471万5,217円、歳出総額101億7,578万7,645円で歳入歳出差引額は3億3,892万7,572円の黒字であります。翌年度へ繰り越すべき一般財源が1億2,809万4,000円ありますので、実質収支額は2億1,803万3,572円となり、そのうち減債基金へ1,800万円、財政調整基金へ1億円を積み立てしております。

歳入における収入未済額は、町民税、固定資産税、保育料が特に多く、このことは善良なる納税者、負担義務者との不均衡を生ずることとなりますので、収納状況等を定期的にチェックするなど滞納の解消に最大限の努力をお願いするところでございます。

また、不納欠損についても安易な処理にとどまらず、厳しい対応を求めるものであります。

歳出は、決算と予算の比較差が5億1,526万5,355円あります。翌年度繰越額3億1,295万2,000円を除いた実質の不用額は2億2,031万3,355円であり、実質の予算執行率は98.05%となっております。基金の運用状況は、全般的に順当な運用管理がなされております。平成24年度末の現金現在高は、23年度末に比較して11億3,028万9,000円の増となっております。

次に、特別会計でございますが、各特別会計歳入総額92億8,444万575円、歳出総額91億471万2,278円で、歳入歳出差引総額1億7,972万8,297円となり、堅実な予算執行により黒字決算となっております。また、国民健康保険名川病院事業会計につきましても、収益的収支において黒字決算となっており、収入面、支出面においても経営の健全化が図られて適正に予算執行されております。

なお、国保、介護保険、後期高齢者医療、農業集落排水事業の各会計収入未済額については、徴収計画を再吟味するなど、未納解消に期待するものであります。

全会計決算の詳細につきましては、皆様のお手元に配布しております意見書のとおりでございますので、説明は省略させていただきます。

決算審査の結果につきまして、審査に付された決算書等は関係法令に準拠して作成されており、かつ、その計数は関係諸帳簿及び証拠書類と符合し、正確であると認められました。当該年度においても、全面的に緊縮財政にもかかわらず経費節減に取り組んでおり、町当局の努力を評価するものであります。

今後とも行財政運営に当たっては、費用対効果を念頭に置き、さらなる合理化と効率化に努め、財政基盤を強化し、町民サービスのなお一層の向上を図られるようご期待を申し上げまして、平成24年度各会計歳入歳出決算審査に関する報告を終わります。

○委員長（馬場又彦君） 代表監査委員の報告が終わりました。

審査に当たり、委員長より各委員及び説明員にお願い申し上げます。

質疑及び答弁を行う場合は挙手をして、委員長の許可を得てから行うようにしてください。質問事項につきましては、決算書または決算資料のページを告げてから質問を行ってください。質疑及び答弁は、要点を簡潔明瞭に発言してください。

なお、新年度予算に踏み込むような質疑、議題外に渡る事、または範囲を超える質疑は避けてください。

議事進行につきましては、各位のご協力をよろしくお願します。

それでは、審査を行います。

.....

◎議案第82号の上程、説明、質疑、討論、採決

○委員長（馬場又彦君） 議案第82号、平成24年度南部町一般会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

本案について説明を求めます。会計管理者。

○会計管理者（若本勝則君） おはようございます。

それでは、私から議案第82号、平成24年度南部町一般会計歳入歳出決算認定につきまして、お手元に配付しております資料により、その概要をご説明申し上げます。資料の1ページをごらんください。

まず、最後の行の歳入合計欄であります。予算現額106億9,105万3,000円、調定額108億9,262万9,247円に対し、収入済額は105億1,471万5,217円であり、不納欠損額は2,042万152円、収入未済額は3億5,749万3,878円となり、予算現額と収入済額との比較では、1億7,633万7,783円の減となり、歳入全体の執行率は98.35%となりました。

前年度との比較であります。主に国庫支出金、地方特例交付金等の収入減により、4.70%の減となっております。

それでは、歳入で主な項目についてご説明いたします。

1款、町税であります。予算現額14億2,862万4,000円、構成比率は13.36%であります。調

定額15億7,878万9,974円に対し、収入済額は14億3,474万203円となり、その内訳は、町民税の5億4,119万8,475円、固定資産税の7億3,695万3,480円、軽自動車税の5,123万6,163円、市町村たばこ税の1億535万2,085円であり、不納欠損額は2,042万152円、収入未済額は1億2,362万9,619円であり、執行率は100.43%となっております。

9款、地方交付税であります。予算現額58億6,380万9,000円、構成比率は54.85%であり、収入済額は58億6,380万9,000円で執行率は100.00%となっております。

11款、分担金及び負担金であります。予算現額9,529万9,000円、調定額の1億2,411万1,656円に対し収入済額は9,980万727円となり、主なものは、児童福祉費負担金であります。収入未済額の2,431万929円は、主に保育料であり、執行率は104.72%となっております。

12款、使用料及び手数料であります。予算現額1億724万1,000円、調定額1億1,686万9,820円に対し収入済額は1億525万6,040円となり、主なものは、町営住宅使用料となっております。収入未済額の1,161万3,780円は主に町営住宅使用料であり、執行率は98.15%となっております。

13款、国庫支出金であります。予算現額7億3,378万5,000円、構成比率は6.86%であり、調定額7億3,618万1,897円に対し、収入済額は5億8,755万6,897円となり、主なものは、児童手当交付金、障害福祉サービス介護給付費負担金であります。収入未済額の1億4,862万5,000円は、公営住宅整備事業、災害復旧事業費補助金でいずれも翌年度へ繰り越しとなることから、執行率は80.07%となっております。

14款、県支出金であります。予算現額6億8,167万9,000円、構成比率は6.38%であり、調定額6億8,411万1,716円に対し、収入済額は6億8,411万1,716円となり、主なものは、保険基盤安定事業費負担金、中山間地域総合整備事業用地事務委託金、緊急雇用創出事業補助金であり、執行率は100.36%となっております。

19款、諸収入であります。予算現額2億9,495万1,000円、調定額の3億1,434万5,839円に対し収入済額は2億9,903万1,289円となり、主なものは、原子燃料サイクル事業推進特別対策事業費補助金、奨学資金貸付金収入であります。収入未済額の1,531万4,550円は地上デジタル放送受信対策事業、奨学資金貸付金であり、地上デジタル放送受信対策事業分の1,088万1,000円は、翌年度へ繰り越しとなり、執行率は101.38%となっております。

20款、町債であります。予算現額9億2,340万円、構成比率は8.64%であり、調定額の9億2,260万円に対し、収入済額は8億8,860万円となり、主なものは、臨時財政対策債、合併特例債、過疎地域自立促進特別事業債であります。収入未済額の3,400万円は、災害復旧事業債で翌年度へ繰り越しとなることから、執行率は96.23%となっております。

続きまして、2ページをごらんください。歳出であります。

まず、最後の行の歳出合計欄であります。予算現額106億9,105万3,000円に対し、支出済額は101億7,578万7,645円で、翌年度への繰越額は3億1,295万2,000円であり、不用額は2億231万3,355円、予算現額と支出済額との比較では5億1,526万5,355円の減となり、歳出全体の執行率は95.18%となっております。

前年度との比較であります。きめ細かな交付金事業費の減、デジタル移動系防災行政無線整備工事費の減、観光案内番組制作事業費の減等であり、5.33%の減となっております。実質収支に関しましては、欄外となりますが、①の歳入歳出差引残額は3億3,892万7,572円のうち、②の翌年度へ繰り越す一般財源の額は、1億2,089万4,000円であります。③の実質収支額は、2億1,803万3,572円となり、うち④の地方自治法第233条の2の規定による基金への繰入額は、1億1,800万円でその内訳であります。財政調整基金へ1億円、減債基金へは1,800万円を積み立てております。以上により、⑤翌年度への実質の繰越額は、1億3万3,572円となります。

それでは、歳出で主なもの、及び翌年度への繰越額のある項目について説明いたします。

2款、総務費であります。予算現額22億4,912万6,000円に対し、支出済額は21億6,757万5,000円で主なものは、地域交通対策費、減債基金積立金、公共施設整備基金積立金であります。翌年度への繰越額は、地上デジタル放送受信対策事業の1,088万1,000円と過疎集落等自立再生緊急対策事業の2,547万1,000円となっております。不用額は4,519万9,000円となり、執行率96.37%となっております。

3款、民生費であります。予算現額24億3,325万1,000円に対し、支出済額は23億6,604万4,441円で主なものは、障害者福祉扶助費、児童手当であります。不用額は6,720万6,559円となり執行率は97.24%となっております。

6款、農林水産業費であります。予算現額7億6,084万8,000円に対し、支出済額は7億5,347万9,846円で主なものは、中山間地域総合整備事業、経営体育成基盤整備事業であります。不用額は736万8,154円となり、執行率は99.03%となっております。

8款、土木費であります。予算現額6億4,284万1,000円に対し、支出済額は4億6,427万2,132円で主なものは、除雪費、道路維持工事費、公営住宅建設工事費であります。翌年度の繰越額は、橋りょう補修事業の2,900万円と、公営住宅整備事業の1億3,650万円で、1億6,550万円となっております。不用額は1,306万8,868円となり、執行率は72.22%となっております。

10款、教育費であります。予算現額8億624万7,000円に対し、支出済額は7億6,925万7,298円で主なものは、旧剣吉中学校解体工事、町民体育館改修工事、中学校改修工事費であります。翌

年度への繰越額は、小・中学校の理科教育設備整備事業の600万円となっております。不用額は3,098万9,702円となり、執行率は95.41%となっております。

11款、災害復旧費であります。予算現額2億2,106万1,000円に対し、支出済額は1億1,407万8,952円で、主なものは農林水産業施設災害復旧費、公共土木施設災害復旧費であります。翌年度への繰越額は、1億510万円でありその内訳は、公共土木施設災害復旧費の1億510万円となっております。不用額は188万2,048円となり、執行率は51.61%となっております。

最後に、12款、公債費であります。予算現額19億1,519万3,000円に対し、支出済額は19億1,169万1,150円で、不用額は350万1,850円となり、執行率は99.82%となっております。

また、財産に関する調書につきましては、別にご配布の「平成24年度南部町決算書」の131ページから136ページまで掲載しておりますので、よろしくお願いたします。

なお、決算書各項目の詳細につきましては、ご質問に応じ、担当課長からご説明申し上げます。

以上、簡単ではありますが、平成24年度南部町一般会計歳入歳出決算の概要説明を終わらせていただきます。

○委員長（馬場又彦君） 説明が終わりました。

これより質疑を行います。歳入については一括で行います。また、歳出については、1款から13款まで各款ごとに順次質疑を行います。

これより、決算書の12ページから37ページまでの歳入の質疑を行います。質疑ありませんか。14番、立花寛子君。

○14番（立花寛子君） まず、成果報告書なんですが、成果報告書は17ページの児童手当（子ども手当）のところですか。

決算書は、20ページの13款国庫支出金、1項国庫負担金、1目民生費国庫負担金で、4節、5節について。さまざま書いてありますが、被用者子ども手当負担金とか、被用者子ども手当交付金など。また、14款の県支出金、1項県負担金、1目民生費県負担金の5節、6節も関係あると思いますが、この児童手当が成果報告書にありますとおり、大変複雑な流れをしておるようですが、これはどういう事なのかまず一つご説明願います。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 児童手当のご質問ですが、ご承知のとおり民主党政権になったときに「子ども手当」ということで、23年度についてはその子ども手当を支給するためにつなぎ法というものを作っております。よって、23年度については始まる前と後ろでは若干変わってるというのが一つ。24年度、自民党が政権になったときに、子ども手当の名称から内容まで児童手当という名称に変えて、内容を変えてありますので、かなり、支給額については若干、変わっていますし、中身についてもかなり細分化された状況で支給になっております。結果的には23年度に想定した額よりは若干低い支給額となっているのが24年度の結果となっています。

25年度につきましては、24年度途中から制度が変わっておりましたので、24年度後半の支給状況のまま行くと思います。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 14番立花君。

○14番（立花寛子君） この子ども手当とか児童手当は、良い方向に進めば良く使えるわけですが、私はこの充実を求めての発言なんですけども。ところで、昨年24年6月から所得制限が導入されたと記憶しております。さらに、年少扶養控除廃止で増税になっている世帯があると認識しておりますが、実態はどのようになっておるのでしょうか。年収500万円で子ども二人のサラリーマン世帯の場合、相当な増収になったのではないかと聞いておりますが、いかがでしょうか。この子ども手当のほかに、様々所得税とか復興増税などに関わる税金で相当税金として支払っていると考えておりますが、実際はどのようになっておるのかお聞きします。

○委員長（馬場又彦君） 税務課長。

○税務課長（谷内恭介君） ただ今の質問でございますけども、年少扶養控除が廃止になりまして、確かに増税という形にはなっております。ただ、その分につきましては、子ども手当、児童手当の方へ一般財源として向けられているという認識でございます。また今、例で挙げいただきました、年収500万円の子ども二人、サラリーマン世帯では、どのような増税になっているのかというご質問でございますけども、住民税で言いますと単純に計算して6万6,000円ほど、所得税で3万8,000円ということで、10万ちょっと位の増税となっております。以上でございます。

○委員長（馬場又彦君） 立花君。

○14番（立花寛子君） このように、一見、政府では子ども手当などで良い施策を行っていると思わせて、大変増税になっているということがありますので、実際、これは政府の施政に対する訴えなのですが、良い意味での子ども子育て応援になるように、町長の方からもお力をいただければと思っております。町でも、大変、子どもに対する施策もふえておりますので、評価しているところは、評価しておるところです。以上で終わります。

○委員長（馬場又彦君） ほかに。15番川守田稔君。

○15番（川守田稔君） 地方特例交付金ですね、これがいわゆる「特交」ってやつなのでしょうか。まず、使い道を教えていただきたいと思います。

○委員長（馬場又彦君） 財政課長。

○財政課長（小笠原覚君） ただいまのご質問でございますけども、歳入の14ページですね。下のほう、8款地方特例交付金。地方特例交付金は特別地方交付金ではございません。（「違うんですか」の声あり）はい。特別地方交付税は9款の2の地方交付税に、普通交付税と特別交付税、別個の欄についてございますけど、こちらの方に入っております。

ちなみに、地方特例交付金はですね。23年度までは、地方公務員の子ども手当の財源分を国が負担していた。その分が、地方公務員の子ども手当の分が地方特例交付金で入ってきていたのと、住宅を建築したときに借り入れした、借入額の1%減税やってますね。その分の地方補てんの分がこの地方特例交付金で入ってきているということでございます。

○委員長（馬場又彦君） 15番川守田君。

○15番（川守田稔君） すみませんでした。何を聞きたいかと言うと。この前、全員協議会の時にですね、8割方がいわゆる交付税云々という件があったじゃないですか。ある病院の件に関して。その時、課長申されたんですけど、「本当にその金額が入ってきているのかが分からないですよ」とおっしゃった。「入ってるのかもしれないけども、他を削られているのかもしれない

ない。」そういうニュアンスの話をおっしゃったんですよ。「あら、面白いな」と思いましてね。こういったのは、明細が書かれて入ってくるわけではないということですので、それでいて、「何かそのように感じます」っておっしゃいましたよね。そういうのはですね。事務業務をなさっているとですね。ことに触れて何か感じるようなことがあるからそういったお話をポロっとしたのかなと勝手に考えてました。そういった経験があるのであれば、その辺のことをですね、ざっくばらんなお話として伺いたいなと思っていました。よろしくをお願いします。

○委員長（馬場又彦君） 財政課長。

○財政課長（小笠原覚君） 先だつての全協でお話しをさせていただきました。普通交付税については、算定は明々白々でございます。ばっちり分かっております。特別交付税はまったくわかりません。一切、その内容については市町村には開示されておられません。ただ、算定の方式は特別交付税に関する省令ですべて決まっています。「それを見れば、分かるのではないか」と、国の方やら県の方からはそういうふうなことは言われておりますが、実際に数字で「この項目にいくらいくら入っていますよ」というのは分からないというのが実情でございます。また、それを問い合せるということもなかなか難しいというふうに認識しております。

○委員長（馬場又彦君） 川守田君。

○15番（川守田稔君） そうするとですね。「特交、特交」と呼んでらっしゃいましたけども、そうすると例えばですよ、100万使いたいので80万分その特交だと、そうすると80万もらったつもりで100万使いますよとそうするともしその80万分が入っていないとどこかにしわ寄せが行きますよね。ですよ。そうですね。そうするとですね。そういったことってのはどういうふうに調整なさりますか。だとするとですね。あまりむやみにカテゴリーのお金ってのはもらうと、どこかにしわ寄せが来るだろうと。どこかを絞らなければならないとかですね。そういったことを単純に考えるわけですよ。その辺はどうですか。

○委員長（馬場又彦君） 財政課長。

○財政課長（小笠原覚君） 予算はですね。歳入と歳出の帳尻を合わせて行くわけですけども、

特別交付税に関してははっきりとこれこれ入ってきているということが分からないので、ある項目については、「どっかにしわ寄せが行ってるのではないか」と言われればそういうところも若干あるかもしれませんが、（「かもしれない」との声あり）ええ。かもしれませんが、そこは歳入全体の中で調整するなり、仮に基金も積んでおりますので、余裕は持っておりますので、調整をしてやっているふうな状況でございます。（「わかりました」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 副町長。

○副町長（坂本勝二君） 補足説明させていただきます。歳入で入って来ない分、例えばさっき、80%あげます。20%となりますとその分については一般財源をあてがって行くこととなります。以上です。

○委員長（馬場又彦君） ほかに。3番中舘文雄君。

○3番（中舘文雄君） 歳入の中に、不納欠損額、収入未済額というのが出てきました。その中でも、特にそれは各項目ごと内容、理由、説明いただきます。それから、今年度の中にそうしたものが欠損額として発生しております。これは、特例なことと思います。24年度中に出たものを即、そこで欠損額として計上するのは特別な理由があったらうと思いますけども、その辺の理由。どうしてそういう処理をしたかというのですね。収入について各項目の中に未収、それから不納欠損額といったかたちで出ているところ、全て理由を説明してください。

○委員長（馬場又彦君） 税務課長。

○税務課長（谷内恭介君） 決算書の13ページになりますけども、町税についての不納欠損、収入未済額の件でございますけども、1項の町民税でございますけども、人数的に申しますと現年度分一人が不納欠損3,000円ですね。滞納繰越分で506万4,618円。人数が75名となっております。これにつきまして、理由等はですね。「5年間時効」というのがありまして、それぞれ説明すると長いんですけど、全体で不納欠損の全人数というのが244名の方、町民税から軽自動車、固定資産等合わせましてですね。244名の方が不納欠損者になってございまして、そのうち、地方税法の18条の中に「時効」というのがあって、5年間納める傾向がなければ時効とするという

のがございまして、それから、執行停止後の欠損ということで、これは調査いたしまして、押さえる財産等が全然無い。相続人がいない。または、納税義務者が老齢または病気によりまして取れる状況ではないというような方々。生活保護に切り替えになった方。死亡した方。というふうな区分がございまして、即欠損という部分になりますと生活保護に切り替えになったため、見込みが無いから5年待たないでその時点で欠損として落としますよというふうな感じの方等でございます。その方々が総計で244名というふうになってございます。それから法人につきましては、ございませぬけども25万600円これが滞納繰越分でございますけども、この部分では5事業所がございまして。

それから、固定資産税の方の現年度分で34万2,400円これは二人。それから、滞納繰越分で1,461万1,934円の不納欠損がございませぬけども、これは、134名ということになってございます。

それから、軽自動車に行きまして、現年度分で2万4,200円これは5人です。それから、滞納繰越分で12万3,400円ここが22名というふうになってございます。以上でございませぬけども、よろしいでしょうか。

○委員長（馬場又彦君） 発言者は決算書、または決算資料のページを告げてから発言するように。はい。3番中館君。

○3番（中館文雄君） 歳入一括ということでしたから、税務課長の方からはそれぞれ町税に関わる部分を説明いただきましたけれども、他にもですねありますよね。各課。全部載っています。歳入のところには。それを全部説明いただきたい。どういう理由で、現在未収額になっているか、欠損額にしたか。そこを知りたいのですが。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 保育料関係についてお答え申し上げます。昨年ですね、質問受けまして、内容を確認したところ、不納欠損処理は合併後行っておりませんでした。それで、督促とか内容につきましても、対応がまずい状況でした。昨年末になりますけども、滞納している全世帯に納入のお願いをしてあります。今年4月には、納付相談に応じてない人に再度、通知しまして、今後納付が無い場合は、「必要な滞納についての整理を行って行きますよ」という内容を盛り込んで送ってあります。あと、児童手当につきましては、滞納している方につきましては、

窓口払いに6月からしております。そこでは、納入のお願いをしております。5か月経ちますけど、今後については悪質というか、支払い能力のある方については、それなりの必要な事務手続きをとって行きたいと考えております。

○委員長（馬場又彦君） ほかに質疑ございませんか。中舘君。

○3番（中舘文雄君） ありますでしょ。各課。順次お願いします。

○委員長（馬場又彦君） 建設課長。

○建設課長（工藤良夫君） 19ページお願いします。土木使用料、2節の住宅使用料ですけども、収入未済額が363万870円ですけども、全住宅の56世帯分の未収になってございます。事情といたしましては、個人の所得等の減によるものと考えられますけども、また、3節の繰越分の方ですけども、これは金額が723万8,520円であります。これは、世帯で言いますと34世帯分の方の未収入分になってございます。これも理由といたしましては、個人の理由で、経済的に納められない方が多くなっていることと思います。これにつきましては、督促を出しまして、滞納者への戸別訪問で徴収に努めたいと考えております。以上でございます。

○委員長（馬場又彦君） 住民生活課長。

○住民生活課長（極檀義昭君） 19ページでございます。3目衛生使用料で3節に墓地使用料がございまして、収入済額が16万150円、福地共同墓地の管理料、長谷霊園の管理料、永代使用料の収入がここに入っております。6,300円の使用料の未納がございまして、一人の方が23年、24年分2カ年分の管理料を未収でございまして、この方、墓地の条例に反しまして、別の方に譲ったということでございまして、これはできないことではございますので、この使用許可を受けている方に今年も3カ年分の請求をいたしたところであります。

○委員長（馬場又彦君） 学務課長。

○学務課長（夏堀常美君） 23ページでございますが、4目教育費国庫補助金、未収がございます。1節の小学校費補助金、2節の中学校費補助金、それぞれ200万と100万がございます。これは、理科教育の振興の補助金でございます、年度末に交付決定が来てございまして、25年度に実施するというふうなことで、補助金が入ってないものでございます。続きまして、33ページでございますが、19款の3項2目教育費の貸付金収入、奨学金関係でございます。これが176万5,800円、現年分が13人分で償還がされていない分でございます、2節の滞納繰越分の方も411万5,750円というふうなことで、償還がされていない分でございます。以上でございます。

○委員長（馬場又彦君） 建設課長。

○建設課長（工藤良夫君） 19ページをもう一度、お願いします。12款、3目、2節の排水施設使用料でございます。金額が、未収入額13万9,830円。これは、団地排水のあかね・東あかね団地の排水使用料となっております。2か月に1件の請求をしております、40軒分の請求額になってございます。5節ですけれども、滞納繰越分23万1,260円。これも同じくあかね・東あかね団地の排水使用料となっております。これも2か月に1件請求しますので、42軒分の滞納額となっております。これも督促、個別訪問等実施いたしまして、徴収に努めたいと考えております。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 企画調整課長。

○企画調整課長（坂本與志美君） 35ページでございます。雑入のところで、943万3,000円未収がございます。これは、地上デジタル放送の繰越分の未収入でございます。デジサポからの助成金になってございます。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 中館君。

○3番（中館文雄君） 町税については、昨年の決算のときも滞納者に対しては、縣市町村税滞納整理機構に依頼して徴収アップに図る。監査委員の報告でも二・何%のアップになってるという報告は出てましたので、それが効果あるのか、それとも、税務課職員が足を運んでアップしたのか分かりませんが、こうした滞納繰越金、昨年も法律で処理するというのは聞いてます。

何年経てば、処理するというのは聞いてましたからそれは、そのほかになると思いますけども、こうした金額がですね、それでは今、個々で決算書に出てきた数字の中にもですね、来年になればまた、もう分かるはずですよ。5年っていう法律のなかでそうしていくのであれば。来年はこれぐらいの金額が滞納決算額の不納欠損額として計上、そういう数値はつかんでますか。特に税務課の方では。ほかのですね、各担当者の方のやつは今、繰越になる分とか色々あります。ただ、住宅、その中に現年度発生した分の繰越を上げているのと、それから、前年度からの繰越をあげたものは同じ人ですか。同じ人。その中にはありますか。繰越の中の上がっている人数と新たに発生する人数。同じ人がそういう繰り返した状態になっている。それは、どういう形で、町税その他は法に基づいて5年という決まりのなかで、欠損額に出すということですけども、こういう使用料とかですね、給食もそうだと思いますけども、保育園。繰り返し、繰り返しって5年経ってただになるっていえば、みんなそれ、やりかねませんよ。その辺の処理の仕方、どういうふうにするつもりなのか、説明をお願いします。

○委員長（馬場又彦君） 税務課長。

○税務課長（谷内恭介君） ただ今の件でございますけども、県の方の滞納整理機構というのが昨年4月から設立されまして、昨年度、24年度は南部町の方で478人分1億9,500万ほどお願いしてございます。そして、徴収になりました部分は、2,308万円ほどでございまして、その中で128名の方が完納という形で納めていただいております。

5年間というのがございますけども、その中で、税務課の方でなんとか納めてくださいという交渉で、「じゃあ、分納で納めます」というのがあれば、5年間が伸びるわけございまして、人数的にはそういうふうな交渉を進めまして、いくらでも税務課の方では納めていただきたいというふうなことで進めてございますけども、滞納分を少なくするためには、現年分からですね、現年分を納めてもらうということで、繰り越させないという形で、現年度分を徴収しようということで、今、職員一丸となって進めてございますので、一つ、よろしくご理解いただきたいと思っております。

○委員長（馬場又彦君） 建設課長。

○建設課長（工藤良夫君） 町営住宅の使用料ですけども、同じ人かということですけども、大

体、重複していると思いますけども、詳しい世帯については資料がございませんので、後で報告させていただきたいと思います。

また、処理の仕方ですけども、欠損額とはせず、引き続き、徴収に努めたいと考えてございます。以上でございます。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 先ほど保育料のことについて言いましたけども、保育につきましても、児童福祉法で利用希望があった場合断ることができません。保育料につきましても税金と同じ5年間ということで、5年経てば払う義務が無くなるということで、その前に、必要な整理手続きをとらなくてはいけないということがあります。

それから、それ以外のもの。例えば、学童保育等につきましても、市町村長毎に決めてやっていることになりますから、これは介護保険料と同じ、2年間というスパンが決められております。介護保険につきましても、ペナルティーは、利用する場合にペナルティーがありますけど、学童保育等の場合につきましても、利用制限して納入を即すしかないのかなど、いまの段階ではそういう考えでやっていきたいと思います。

○委員長（馬場又彦君） 副町長。

○副町長（坂本勝二君） 今、両方の課長からお話しがあったように、保育園につきましても納めないから入れないというわけにはいきませんので、入れるのは入れると、ただし、今度は、納めていただかないと、普通に納めてくれている保護者がいっぱいおりますので、公平を欠かないように、今まで色々な努力をして参りましたけども、少し強い口調でお願いをしていくことになるかと思いますが、色々、今までの経過を見ながら、そしてまた、今後どのようにしていけば良いかということを考えて行きたいと思います。

住宅使用料につきましても、住宅に入っている方について、納めないから出て行くようにということは、なかなか実際難しいところがありますので、こちらのほうで一生懸命お話しをして、納めていただくように向けて行きたいと思っております。

○委員長（馬場又彦君） 中舘君。

○3番（中舘文雄君） 誤解されれば困ると思って発言しますけども、「議会在うるさいから出て行け」とかですね、「保育園に入れない」という解釈されればこれは、困るのです。ただ、私はどういう形ですね、担当者が滞納者、それからそういう方々に接してやってるかというのを聞きたいために質問してますから、それは誤解しないでください。議会在うるさいから「入れられません」とか、「出てけ」って言うわけにはいきませんから、そこは、考えてません。そこまでは私考えてませんが、ただ、滞納者がですね、どんどんと出てくる。そうしていくと、どんなに景気良くなったって、税金が納まってこなければ、町、財政そのものが窮屈になるっていうのが、去年、前任の課長が機構に依頼して、徴収アップに凶るといような話でしたから、そういうのを期待しながらですね、待ってたんですけどね、その辺の効果がですね。ただ、さっき言ったもう一つ、課長に言ってましたけど、例えば、来年度、25年度決算額では、このまま行くと、不納欠損額で処理しなければならないという額はつかんでますか。

○委員長（馬場又彦君） 税務課長。

○税務課長（谷内恭介君） そこまでは、掴んでございません。

○委員長（馬場又彦君） 中舘君。

○3番（中舘文雄君） それは、やっぱりね。担当者とすれば、何年度はこういう金額、何年度はこういう金額というのは数字では掴んでおいていただかないと。出てきたもので答えるってのではなくて、その辺は、計画的に把握した形の執行していかなきゃない。っていうのは、「法に基づいて不納欠損にしました」それで説明して、それで済むのであれば一番簡単な方法ですけども、やはり、年度の先がですね、ずっとあるんですから、その辺のとこの数字っていうのは概算でも掴んでおく必要が私はあるだろうと思います。その辺は、監査委員からも指摘はあってるかと思いますが、その辺を特に要望して、私は、今回の質問を終わります。

○委員長（馬場又彦君） 5番夏堀文孝君。

○5番（夏堀文孝君） ページは35ページです。19款諸収入の3目雑入のなかに、原子燃料サイ

クル推進特別対策事業費助成金7,400万円。電源立地地域対策交付金700万円。これありますけれども、これをいただいてやった事業と今までやった事業を分かっただらお知らせいただきたいとおもいます。

○委員長（馬場又彦君） 企画調整課長。

○企画調整課長（坂本與志美君） 原子燃料サイクルの7,400万円につきましては、あかねの舗装、それから、福地第2分団の屯所、それからポンプ車両でございました。

今まででございますが、これは、平成6年からありまして、主なものと言いますと、平成7年度に名川地区でドライフラワーセンターの整備してございます。7年度と8年度でございます。それから、町道の整備とか、消防ポンプの車両購入、それから、平成13年度には、そばの里の整備をしております。後は、除雪のドーザーとかそういうの購入、バスの購入とかしてございます。後は、平成の17年度には福祉車両の購入、それから、18年度には行政バスの購入とかしてございます。それから平成21年度、合併してからでございますが、給食センターの配送車、給食の配送車等をしてございます。主なものはそういうところでございます。

○委員長（馬場又彦君） 夏堀君。

○5番（夏堀文孝君） いまこれを質問したのは、先日の新聞で電力のこういった寄付が打ち切られるということで、乗っておりました。こういう多岐に渡って色んな部分に使えるこの原燃関係の寄付、これは確実に無くなるのか、いま、町村会、県の方でも要望はしていると思えますけれども、そういった動向をお知らせいただきたいのと、これ、かなり無くなると痛手ですけども、そういったことに対しての見解を町長ありましたらよろしくお願いします。

○委員長（馬場又彦君） 町長。

○町長（工藤祐直君） この件に関しましては、先月、県町村会の臨時総会がございました。そこで、県町村会事務局長の方から説明があり、次年度以降については、もう、大変厳しい状況であると、いう説明でございました。当時、私も町村会長の時に、お願いに事業団の方に行って、お願いをして、継続をしていただいたわけでございますけども、一昨年3・11以降、事業主の

方々も電事連ですね、厳しい状況というのは、我々も把握できるわけでございますけども、今、町村会の方も最終的にどういう要望になって行くのかという部分までは、話になりませんでした。

ただ、「厳しい」ということは、結構言われましたので、我々今後、私もこれについて新聞社からコメントを求められました。その時も話したんですが、ある程度、歳入の確保を出来ないのは我々、非常に厳しくなっていますので、ただ、現状を考えた時に、この助成金をある程度は見込めないという中の事業計画をして行かなければならないのかなと。見込んで、「来ない」となると、大変になりますので、見込まない中で、事業をやって行って、そこで見込めるようになると良い訳でございますけれども、ここはまた町村会の現執行部、役員の方がどういう対応していくかというのが来てませんので、どこの自治体についても助成金についてはやはり、継続してほしいという気持ちは、この辺はあると思います。ただ、原燃稼働と助成金は別に考えて行かなければならないのかなと思っております。もう少し、情報を収集してからまた、提供したいなと思います。

○委員長（馬場又彦君） ほかに質疑ございませんか。16番工藤久夫君。

○16番（工藤久夫君） 2点ほど。一つは26、27ページの3目衛生費県補助金と子宮頸がんワクチンの関係ですけども、この子宮頸がんワクチンを打ったために、副作用でちょっとこう、色々事故が起きているという報道があるんですけども、自治体によっては、中止したとか止めたとか様子を見るとうふうな話がありますけども、この我が町の場合は、継続してやっているのか、止めてるのか、来年度以降はどうするのか、私はへそ曲がりなものですから、この予算が出た時に、止めた方がいいと。色々不安があると。それから、それよりも、子どもにちゃんと教えるべきだというような意見を言った経緯がありますんで、そこをまず、詳しく説明していただきたい。

それからですね、最後の36、37ページの町債の事ですけども、1目からずっとあるわけですけども、特にこの臨時財政対策債、合併特例債、過疎地域自立促進特別事業債、このあれで、私の記憶だとですね、臨時財政対策債っていうのは、起債が認められれば返済時100%交付金で措置してもらえると記憶があるんですけど、この合併特例債とか過疎地域のこの債権、これ、償還時の交付税算入の率とかその辺をちょっと、詳しく説明していただきたいというのと、この合併特例債って、合併後10年間という、平成18年1月1日合併したわけですけども、年度で行けば今年が平成25年度ですからね、26年度、27年度まで使って、後は一切認められないのかどうかと、当初合併特例債を使ってこういう事業やりましょう、ああいう事業やりましょうっていうブ

ランがあったはずなんですけどね。それで、あと計画に載っていて、実際やっていないのがどの程度あるのか、ちょっと説明してください。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 子宮頸がんの方の質問についてお答え申し上げます。子宮頸がんワクチンにつきましては、国で定期接種になる前になりますけれども、勧奨したという事があります。町では、臨時議会を開いてお願いしたわけです。その中で、説明しました。その時ですね、ワクチンについて様々な意見もらいましたけれども、一つは、高額であると。子宮頸がんにつきましては、平成に入ってから、世界的にかなりふえているがんです。ワクチン自体は、欧米で開発されて、欧米の方が罹患する子宮頸がんの型ですね。20近くあるらしいんですけど、その多い順番にワクチンを組み合わせて使っています。副反応が出ているということでしたけれども、効果を高めるために、混合しているものがあるという事でした。日本でも日本人が罹るワクチンの型に合わせて開発中ということです。ご指摘の子宮頸がんの副反応ですね、障害等が出るということで、テレビにも放映されていましたが、厚生労働省からは、今年の6月14日付けで定期停止の対応については、積極的な干渉を差し控えるようにということで、勧告になってあります。そこで、町としましては、対象者に向けて文書を発送しました。「積極的な干渉をしません」ということで、さまざまな問い合わせあったんですけども、その中で、不安のある方については、お勧めしないと、それから、中学生にやっているわけなんですけども、予防を高めるためには、通常町で行っている子宮頸がん検診があります。それと合わせれば、治癒率も高くなります。今言っている子宮頸がんにつきましても、臨時会で申し上げました通り、感染しても治癒する方がいますので、9割方治癒するということでしたので、その方も踏まえて、今の段階では国の動向の様子見しながら、判断していくしかないのかなと考えております。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 財政課長。

○財政課長（小笠原覚君） 町債のご質問にお答えしたいと思います。臨時財政対策債は、ただ今、お話しになった通り、地方交付税で100%措置されております。合併特例債と過疎債につきましては、地方交付税算入率は同じく70%でございます。合併特例債につきましては、10年間発行が認められているということでございますので、平成27年度まででございます。昨年、一昨

年東日本大震災があった関係がございまして、5年延長になっております。ですので、平成32年度まで使うことできるというふうに変更になってございます。

それから、合併特例債をですね使った事業でございますけれども、これまで、給食センターの建築、デジタル防災無線、とそれから、南部地区の公民館をこの合併特例債を使って、事業を執行して来ました。合併特例債は、合併後の市町村の一体化を促進するという事業、本当に基幹的な、大きな事業にのみ認められるという事が建前でございますので、細かい、例えば道路の整備だとかそういうのにはなかなか認められません。大きな基幹的な、あるいは根幹を成す、拠点となるものという事に認められるという性質がございまして、細かい、例えば道路の整備だとかそういうのにはなかなか認められません。大きな基幹的な、あるいは根幹を成す、拠点となるものという事に認められるという性質がございまして、市町村建設計画の中に色々事業をやっている時に、南部町で色々使える起債というのは、まあ、過疎債も合併特例債もございまして、その事業毎にですね、どの起債を申請するかというのは見極めてやっているというふうな状況でございまして、以上でございまして。

○委員長（馬場又彦君） 工藤久夫君。

○16番（工藤久夫君） 今、平成32年度まで震災の関係で特例債の期間が5年延びたっていうのを教えていただいたんですけども、これは、当初計画に載ってなくても、今からでもなんかの事業をやろうと、大きな事業でもいいんですけども、新たに当初計画してなくても新たに、「これにのせて、起債を認めて下さい」と言うとは可能なわけですか。その辺をもう少し詳しくお願いします。

○委員長（馬場又彦君） 財政課長。

○財政課長（小笠原覚君） 合併特例債が5年延びたというのは、太平洋側の被災地の合併市町村が予定していたその合併特例債を使った事業が実はできなくなった。なので、被災町村については10年延ばしたんです。「そこ以外のところは、5年認めましょう。」ということで延びたというのが一つ。

それから、5年延びて新たに計画された事業についても、適債性があれば、合併特例債を使って執行すべき事業だと認められれば可能であるという認識でございまして。

○委員長（馬場又彦君） 企画調整課長。

○企画調整課長（坂本與志美君） 先ほど夏堀委員さんに質問をいただいて、回答してないのがありましたので、申し訳ありません。35ページの電源立地地域対策交付金の700万ということでしたが、これは、火力発電所分の交付金でございまして、これは、八戸の隣接の福地地区が対象でございまして、いままでにバーデパークの改修等をやっております。以上です。

○委員長（馬場又彦君） これで歳入の質疑を終わります。ここで、11時30分まで休憩いたします。

（午前11時14分）

○委員長（馬場又彦君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

（午前11時30分）

※中村善一君 着席

○委員長（馬場又彦君） 続いて、歳出の質疑を行います。

まず、38、39ページの1款、議会費の質疑を行います。質疑ありませんか。

（「質疑なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 質疑なしと認めます。これにて1款議会費の質疑を終わります。

次に、38ページから59ページまでの2款総務費の質疑を行います。質疑ございませんか。14番、立花寛子君。

○14番（立花寛子君） ページといたしましては、47ページ。2款、1項、6目企画費、13目の委託料。備考の再生可能エネルギー導入可能性調査業務、203万7,000円についてであります。

主要施策の成果の説明、行政報告書の10ページにも書いてあるのですが、成果にはそのように書いてありますが、業者の選定方法や得られた調査結果や今後、どのようにその調査結果を活かそうとなさっておられるでしょうか。説明願います。

○委員長（馬場又彦君） 企画調整課長。

○企画調整課長（坂本與志美君） お答え申し上げます。再生可能エネルギー導入可能性調査業務でございますが、これにつきましては、業者の選定ということですので。業者につきましては、青森県土地改良事業団連合会という、土地改良事業を主にやっている団体でございます。随意契約で行いました。

この連合会は、県内各地のこのようなエネルギー関係とか改良事業とか、そういうのを請け負っている事業でございます。県の事業、県の賦存量といいますか、そういう可能性についても、調査してございますので、その連合会のほうに委託して、行いました。

それから、結果でございますが、初歩でお願いしたのは三つの資源でございました。一つは、太陽光でございます。それから二つ目は、水力でございます。三つ目は、木質バイオでございました。

太陽光につきましては、三八地区というのが県内でも太陽光発電には向いているということで、感触は良かったです。町が主体となつての太陽光発電を導入した場合の採算性といいますか、そこまで計算してもらいまして、町の施設がありますチェリウス周辺、それからバーデハウスと2カ所をサンプルとしてやっていただきまして、チェリウスの方は、20年位で採算が取れるというような結果報告。バーデの方は、22年ぐらいかかるかもしれませんが、採算が取れる。売電の価格にもよりますけども、そういうふうな結果でございました。

それから、水力発電につきましては、河川と土地改良の水路等を調査していただきましたが、落差があまり無いということで、あまり、水力については期待できないという報告でございましたが、落差が無くても、流水型水車という、流れの関係で水車をつくる。これは、マイクロ発電になるんですけども、そういうのでは、PR用としては、できる。一つは、福地土地改良の水路を利用しての、それも算定していただいております。

それから、木質バイオにつきましては、森林のほうがあるわけですけども、八戸の企業でそれを利用しての計画があるということで、そちらの方へ材料がまわるような、森林組合とかの情報があったということで、木質バイオはちょっと、難しいのではないかという結果でございます。

今後ですけども、今後は、まだ立ち上げてございませんですけども、これの結果を踏まえての検討委員会を予定してございます。今年度中に南部町の方向性と言いますか、この、自然エネルギー、再生エネルギーについての考え方の方向性を示していきたいなと思っております。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 14番、立花君。

○14番（立花寛子君） 今お聞きしましたことを自分自身、噛み砕いて、何か提言できればと思っております。そこで、大変詳しく調べられた報告書などは、どういう形で町民の皆さんにお知らせなさるでしょうか。また、水力発電に関しましては、農家の方々でも挑戦されたい方が居られるのかどうか、ぜひ、情報を広く流していただき、挑戦される方が出てくることを望みます。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 企画調整課長。

○企画調整課長（坂本與志美君） お答えします。町民への周知でございますけども、先ほど言いました検討委員会の方で、検討いたしましてから町民の方へは周知したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（馬場又彦君） ほかに。15番、川守田稔君。

○15番（川守田稔君） 立花議員と同じことについて質問いたします。土地改良が随意で契約いただいて、町直営での事業の可能性を探るといふ、そういう趣旨でもって調査を行ったと考えてよろしいのでしょうか。それが一つ。

検討会を開いてと、設けてと。そういう段取りがもうできているようです。ていうことはですね。そういう段階を踏めばですよ。国の方から予算の準備があつて、そういったことをよっぽどひどい条件のところであれば、予算措置がされて事業が進むというふうな段取りの上でそういったことがなされているのかどうか。ていうのを二点目。

それから、何でこういった太陽光発電に関して、町が直営で検討しなくてはならないのか。こういったことこそ、民間でやっていただければいい問題なんではないかと。それがこういった再生可能エネルギーというの、ことの始まりの特徴じゃなかったのかのと。そのこと三点を伺いたいです。

○委員長（馬場又彦君） 企画調整課長。

○企画調整課長（坂本與志美君） お答えします。町が主体となるという頭でやったものではご

ございません。たまたま、太陽光につきましましては町の施設を利用しての供給する場所ということで、やっていただきました。三点目の町営ではなく民間と。そのとおり、私たちも考えております。民間の方がいいと。今の検討会におきましても、直営でやるにはどうしたらいいかというふうな、その検討ではございません。町として、例えば「太陽光は、民間の方が良い」とかそういうふうな方向性付けをしたいなと思ってございます。それから、予算とかそういうのにつきましても、今の報告、先ほど言い忘れましたが、色々な補助事業がございますけれどもそれは民間のも入っております。そういうふうな情報も得ております。それをどのように周知していったらいいか。そのようなことも、検討委員会のほうで検討していきたいなというふうに考えております。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 15番、川守田君。

○15番（川守田稔君） 例えばですね、日照時間ってありますよね。太陽光に関してはですね。それは、この辺の調査では何時間というふうな前提でもってよろしかろうという、結果がでてくるのかお知らせください。

それから、私は、あえてこういう事は、町直営でやるべきではないと思ってます。適地として、チェリウス周辺とかですね、バーデ。バーデのあたりって言えば、どの辺に設置するのかよくわかりませんが、チェリウスだったら、チェリウス下の崖のあたりかなって考えます。別なところかもしれません。ですけど、太陽光パネルがですよ、ある程度の斜面が必要ですよね。その斜面をですね、太陽光パネルが覆った景色というのがですね、観光を推し進めて、町づくりという、そういった部分がある町にとってですね、どうなのかっていう疑問もございます。最初のうちは物珍しい人は、物珍しいと思って、そう思うかもしれません。ですけどですね、これが、三年過ぎ、五年も過ぎて、もっと例えばですね、これがもっと太陽光パネルが日本全土を覆い尽くすような風景が日本各地に広がったときにですね、そういった太陽光パネルを眺める観光客っていうのがどういった印象を持つのかなって考えるとですね、非常に私はよろしくないと思っています。ああいう無機質な風景ってのがですね。そういったことが慎重に進めたらいいかなものではないかと。売電してどうのこうのって、それもよろしいかと思うんですけども、もっと足元を見て計画を練るっていうようなことを忘れてるのではないのでしょうかという、この調査のとっかかりからですね、そんな感じがしてですね、一言言いたいと思います。

○委員長（馬場又彦君） 企画調整課長。

○企画調整課長（坂本與志美君） 一点目の日照時間ですけども、日照。日射量ということで出てまして、一日4キロワット、平米あたりということで出ております。（「日照時間は何時間ですか」という声あり）日照時間は今ちょっと見てましたけど、見つけたらお知らせします。（「その数値を使って、もう一回質問したいんですよ」の声あり）そうですか。ちょっと見つけられないんですよ。申し訳ありません。

もう一つのですね、パネル。チェリウスとバーデの例のこと申しましたけど。チェリウスの場合は、チェリウスの前の斜面を利用したパネル設置で、参考までに来ておりました。バーデの場合は駐車場を利用したパネル設置ということで、来ておりました。先ほども川守田委員さんがおっしゃっております「太陽光については民間」それをうちらもそのように考えておりますので、今回の検討会でも慎重に検討していきたいなと思ってございます。

日照時間、今、調べますので。申し訳ございません。（「委員長」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） はい。

○15番（川守田稔君） その日照時間のデータがあれされたら、もう一回質問したいんですけど、よろしいですか。

○委員長（馬場又彦君） 町長。

○町長（工藤祐直君） 今、企画調整課長から説明がありましたが、この調査は、3・11もあり、自然エネルギーを活用するところが町であるのかということと、どういう種類の部分を活用することができるかと。こういう部分を、まず、調査をしてみまじょうと、してみたい。ということで、今年度に予算を計上して、今、調査がでてきたわけです。それに基づいて、町が進めるということで話が進んでいるのではありません。そういう中で、民間なりに提供できるのかどうかと、そういう部分は検討委員会でも話になると思いますけども、日照時間と言いますか、その部分が直接今の調査の部分の質問と関係あれば、調べて午後にも提出したいと思いますが、今、直接関係があるかどうかという部分を確認しながら、わかれば、提供はしていきたいと思います。

○委員長（馬場又彦君） はい。川守田稔君。

○15番（川守田稔君） わかりました。数値いいです。また改めて別の機会にということでやります。ですけどですね、町長。こういったパターンなんですよね。先ほどわたしが申したあれってのは。調査会ということで、協議会ということで、検討会みたいなあれがあって、設けて、予めまだ公表されてないけども、そういう予算措置の案は。予算措置があってという。そういったこと繰り返してですね、地方がいままでどつたらに国の言うとおりにやっていますね、煮え湯を飲まされてきたでことしょうという、というような私は印象があるものですから、それにその、私が日照時間と言ったのはですね。例えば気象庁から発表されているあれがあります。それは、100%。例えば、1,500時間あるとするじゃないですか。そうするとですね、往々にして調査の段階では1,500時間っていうふうな数値を使って算定するわけですよ。ところがですね。ところがですよ、実際設置して発電してみると、「その6割とか7割とか、いいとこ8割とか。そのくらいの発電効率しか無いんですよ」っていう。そういった話を直接、ある人から聞きました。そんなことがあってですね、そこを確認してですね、という意図でありました。そういったことですので、誤解の無いようによろしくお願いします。

○委員長（馬場又彦君） 町長。

○町長（工藤祐直君） ご心配いただいてありがとうございます。風力なんかでもよく、大丈夫だと思って実際やったら、採算がまったく合わない。太陽光の場合も当然、そういう可能性があると思います。出た数字そのままに本当がいいのかという部分もあると思いますので、一つだけお詫びを申し上げるのは、そういう調査をして、当然、太陽光という話しが出てきているわけですので、そこで、事務局の方なり、日照時間も把握していないという部分は少し、事務的にはまずいなという部分は、申し訳ないなと思っております。

○委員長（馬場又彦君） ほかに質疑ございませんか。2番、八木田憲司君。

○2番（八木田憲司君） ページ数、43ページ。2款総務費の4目財政管理費の中の内ですね、ごめんなさい。5目の財産管理費の中の11節、需用費。この中に高熱水費が計上されておりますが、この中で特に電気料のことについておうかがいしたいのですが、これ建物ごとに電気料様々か

かっている中で管理は多分、その担当している課が管理しているのかなと思いますけども、今回、9月1日から一般電気料が9%弱値上がりになりました。

それで、役場に対しても電気料金に関して、何%上がるのか。時期がいつ上がるのか。それに対してこれから対策として何か検討していく事があるのか。これは、代表して総務課でも結構です。色んな課ごとにまたがっていく部分あると思いますので、その辺、ちょっとお考えがありましたらお聞かせ願いたいと思います。

○委員長（馬場又彦君） 総務課長。

○総務課長（小萩沢孝一君） 2、1、5の財産管理費でございますけども、そのこの部分につきましては、総務課で所管しているのは本庁舎の管理費と。その中には、2、1、5に関しましては基本的に名川、南部それぞれの庁舎の分も入っております。決算額はですね。今、電気料のことで今年から上がると。この間からですね、9月からでしたか。ということで、前もって東北電力の方から説明がありまして、大ざっぱですけども、南部町全部で今年度中に約750万。全部ですね。ということで、説明を受けてございます。ですので、基本的にはこれから、今年度の話ですけども、予算が間に合わなくなれば、補正対応ということもございますけども、3・11依頼、基本的には電気の消費をなるべく抑えるということでやってきておりますので、決算額につきましても、基本的には電気代は少し抑えられてきているのが実情でございます。全部、電気、照明を使っておられませんし、基本的にはエアコンもあるんですけども、特別な場合に限りしか使わないというような状況で節電にこれからも努めながら、この電気代、料金上がるものをなるべく抑えていくという方向性でいきたいというふうに思っております。

○委員長（馬場又彦君） 2番、八木田君。

○2番（八木田憲司君） 節電に努めていくということですけども。今、省エネ電球、LEDとか替えていくケースもあると思うんですが、そういう部分に関して、値上がり分とそういう、省エネ器具に変えていく中でのそういう試算みたいなものをこれから検討していくとかはまだ考えていらっしやらないのかな。そこをちょっとお聞かせ願います。

○委員長（馬場又彦君） 総務課長。

○総務課長（小萩沢孝一君） LED化につきましては、電気料上がる前から色々、施設の中では考えてきました。新設のあるいは、集会場なんかでもできれば、全部はLED化できないですけども、常夜灯みたいにつけておく、例えば消防車両が入っている車庫では夜間全部つけておりますので、ああいうのは全部LED化していくということで、大規模改修なり、新設の場合はなるべくそういうものを考えていきたいというふうにやっておりますし、また、本庁舎に関しましても、一回、全部これをやればどのくらいかかるかということで計算した覚えがあります。福地庁舎蛍光灯100本以上ありますので、それをやっていくとやっぱり、100万単位になるということで、費用対効果考えた場合、どうするかというのもまだ結論は出ておりませんでしたけども、まだ、やるという方向もそのまま出しておりませんでした。でも、今後はそういう方向性も考えながら、庁舎管理に努めていきたいというふうに思っております。

○委員長（馬場又彦君） ほかにございませんか。3番、中舘文雄君。

○3番（中舘文雄君） 数点あります。ページ数って言えば41ページですね、1目9節の旅費、ここで職員の研修費が支払われたということで、行政報告書の中にもそれぞれの施設に研修に行ったということですけども、簡単にですね、この研修、どういう趣旨の研修か説明をお願いします。昨年より、今年度は基本研修には人数少なく行ってるんですけども、どういう研修をどういう目的でなされているのか、職員の資質向上のためには必要だと思いますけども、その辺の内容をお願いいたします。

それから、42ページ、43ページですけども、4目ですね、財政管理費が途中で補正予算を組んでました、で見ましたら不用額として、これは偶然かもしれませんが、ここに不用額として同じような数字が、不用額として載ってます。各節の使い方によってこういう偶然的数字が出たのかもしれませんが、この内容をお願いします。

それからですね、需用費もですね、各、すべてのところに需用費というのは不用額、不用額と相当な数字が出てきます。予算の組み方に問題があるのか、それとも節約してここまで残ってきたのかわかりません。その辺は、説明と言ってもなかなか全部に渡っていますから難しいと思います。その辺の予算の組み方っていうのは一つ、研究する必要があるだろうというふうに私は思いました。

それからですね、53ページですね、税務総務費の方だと思いますけど、この中で申告する時

に町内何カ所かに渡って相談、申告の相談にやっってるっていうような報告書の中にも11ページに報告あります。ただしですね、23年度より倍額の金使ってるんですよ。ここで。申告作業に。何がそれだけ倍額の費用が使われたのか、報告書見ましたら、昨年度の報告書は二百何万というような数字でいました。今年度は四百何万、約五百万の数字をここで使った。というような内容になっております。なぜ、そのところがそこまで跳ね上がったか、その辺、説明をお願いします。

○委員長（馬場又彦君） 総務課長。

○総務課長（小萩沢孝一君） まず最初に研修のことでございますけども、研修につきましては、青森県自治研修所並びに東北自治研修所、自治大学校というふうに、ある程度そういう3か所を基本にしております。県、東北、自治大学校は東京ですので。それぞれ、基本研修的なものがございます。自治研修所でやる基本研修につきましては新採用時から職名が変わるたび、例えば、主査から主任主査、あるいは課長級になった場合と。課長級の研修がございます。また、補佐級になった場合も補佐級のそれぞれの研修がございます。その都度、ある程度管理者になった場合と新採用の場合の基本研修というのがそれぞれございます。また、専門研修につきましては、例えば法令を特化した、例えば2泊3日の短期の研修、そういうのがございます。危機管理、こまいところで言うと接遇とかそうところまで入ります。そういうものもございます。基本的には基本研修につきましては、職名が変わった際にもう強制的に「あなた行ってください」というふうにこちらの指示に基づいて行ってもらうと。専門研修につきましては、こういう研修があるということで、年度始めにその内容を全職員に通知します。それで、希望制でございます。ある程度予算もございますので、ある程度の人数の中でそういう希望者を募って出してやると。こちらで指示してもいいのですが、やはり積極的な研修をさせたいと。やっぱり「行きたい」というふうな人に行かせてやりたいというのが専門研修でございます。

また先ほど、2、1、5の補正の話してございましたけども、財産管理費でよろしいのですよね。補正の話は。これは、三角の200万なんですけども。2、1、4の話。私の方は不用額の話もございましたけども、2、1、5に関しましては先ほど申し上げましたように本庁舎、名川、南部それぞれの庁舎の管理費及びそれぞれの公用車の管理もここから全部出ておりますので、基本的には不用額を出さないようにというふうにしてございますけども、細節に渡って分かれてございますので、そういうことも含めながら今後もあまり不用の無いような執務をして行きたいと考えております。

○委員長（馬場又彦君） 財政課長。

○財政課長（小笠原覚君） 先ほど2、1、4 財政管理費の補正予算額と不用額がたまたま似たような数字で挙がっておりますが、主にですね15節の工事請負費は、これは麦沢小学校の解体工事費でございますが、入札率が低くて不用額が出たと。13節については、測量業務それから設計管理業務、これも見込んだほどかからなかったというふうなことでございます。

予算全体で言いますと、一般論になりますけれども事務的な経費について、先ほど節電の話もございました。なるべく節約できるところは節約すると、事務用品なんかもなるべく節約してというふうなことで、私どもの方でも各課にお願いはしてございます。それから、工事なんかの関係ですと、どうしても設計価格、つまり予定価格以上の予算が無いと発注できませんので、必ず設計価格以上の予算を見積もるわけですね。それで、実際に入札すると、例えば、80%、85%、まず落ちるということで、そこで大きな不用額が出れば、最終の補正、3月補正になりますけど、落とすわけですね。でも、最終の補正も実は、取りまとめは1月の末、2月のはじめ位で早いものですから、あまりきれいに落とすと、今度、どうしても3月に入って突発的な何かが必要になれば、ある程度そこに余裕幅を持っておかないと困るということもありますので、そこは、なかなかきれいに落とすわけにいかないのです、どうしても若干、不用額は残ると。こういうことでございます。

○委員長（馬場又彦君） 税務課長。

○税務課長（谷内恭介君） 町内4カ所で申告受付をしてございまして、24年度におきましては100名の方々が増となってございまして、申告していただいております。510万480円の中身ということでございますけれども、申告会場における受け付けする機械等のリースで行ってございまして、若干その台数とかですね、あと保守点検等含めてございまして、その分で増となっている部分でございまして、よろしく願いいたします。

○委員長（馬場又彦君） ほかにございませぬか。質疑なしと認めます。これで、2款総務費の質疑を終わります。ここで昼食のため、1時まで休憩いたします。

（午後0時04分）

○委員長（馬場又彦君） それでは、休憩を解きまして、会議を再開いたします。

（午後 1 時00分）

○委員長（馬場又彦君） ここで、再度お願いいたします。質疑をする際には、必ず何ページ何款、何項、何目と告げてから質疑を行うようにしてください。よろしくをお願いします。

それでは、58ページから71ページまでの3款、民生費の質疑を行います。

質疑ありませんか。質疑なしと認めます。これで、3款、民生費の質疑を終わります。

次に、71ページから81ページまでの4款、衛生費の質疑を行います。

質疑ありませんか。14番、立花寛子君。

○14番（立花寛子君） まずは、ページ数ですけれども、75ページです。75ページの4款1項3目予防費の13節、委託料、備考にあります各種予防接種3,851万6,688円についてであります。行政報告書の27ページ。予防接種、定期予防接種とか任意予防接種と詳しく、具体的な措置は書いてあるのですが、現在、その予防接種を受ける家庭の皆さん方は、どのような考えから判断して、様々な予防接種を受けられているのか、現在の動向をお知らせしていただき、また、予防接種に対する要望などは届けられているのでしょうか。まず、一点目、質問するものであります。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） ただいまのご質問ですけれど、予防接種の動向についてです。予防接種の接種率でよろしいでしょうか。接種率につきましては、個別のワクチンによって違いがあります。昨年は、ポリオが集団、個別とやり方が変わりましたので、これにつきましては従来、60%から若干下回る傾向がありましたけれども、親の接種の控えが、「控える」というのがあったと思います。昨年はですね、個別の方が50%、集団、けっこう摂取の方が38%ですので、90%近くなってるので、改善はしてあります。

それから、BCGにつきましても96%、三種混合につきましても72%、MR混合、風疹、麻疹になります。これは今、4回接種になっておりますけれども、昨年度は14%の接種率。日本脳炎につきましては、これは接種率が悪くて52%。それから、二種混合、ジフテリア、破傷風につき

ましては97%。個別四種混合ですね、昨年できた予防接種になるのですが、82%接種しております。

それから、これについて今後ということは、今年度夏前に風疹のことが話題になったことを指しているのですか。（「はい」の声あり）風疹につきましては、夏の手前あたりに流行するというワクチンであります。これがですね、法律で定められた定期予防接種になっているのが、昭和52年、中学校2年生の女子に接種するということから始まっております。そこから考えると、接種していない女の人数というのは49歳以上になるかと思えます。

それから、平成6年に個別接種に切り替わって、1歳から7歳までに行っております。今現在行われている接種は、平成18年から、1歳から高校生まで4回に渡って接種すれば、この風疹とかの抗体性が保たれるということで、4回接種に切り替わっております。春先問題になったのはですね、できる子ども、妊娠中の子どもに病気が出るということで、重症化した病気になるということで騒がれました。最終的には1万人を超える患者になったかと思えます。8月21日現在のもらった資料ですと、1万3,747人。これの流行状況は厚生労働省の方から確認取ってましたけども、都市部で発生しています。この人数につきましては、流行するかもしれない一歩手前の数だと思います。東北の方にはあまり発生してません。この段階で、県内の市町村で無償でやるといったことがありましたけど、ワクチン数から言って接種を考えると7倍程度の量が必要になってきますので、当然、足りないということで接種制限が加わることもありますし、どだい間に合はずがありませんでした。今年度は、もう夏過ぎますので、下火になるかと思えます。来年度は若干の流行は考えられますけれども、来年度につきましてはその予防接種のワクチンも多少は数は揃うかと思えますけども、これまでの県内なり国内の市町村でやってる内容を見ましても、男女別年齢別でもかなりのばらつきあります。それから接種している、していないに関わらずやったり、やなかったり。そのことにつきましては、1回あたりの接種料金が1万以上かかるということと、男性の場合、夫婦ですね、できる子どもが罹患しないためには、夫婦ともどもやんなくてはならないということで、厚生労働省では「事前に抗体が有るか無いか確認してから接種するように指導してください」ということがありましたので、来年度につきましては、流行の程度ですね考慮しながら、ワクチンの生産量もありますし、そのことで、検討していきたいと思っております。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 14番、立花寛子君。

○14番（立花寛子君） 丁寧なご答弁でございました。ところで、現在では東北では発生していないということでしたけれども、秋田の方では自治体として風疹ワクチンの助成をいち早く取り入れていたと記憶しておりますが、日本感染症学会などでは「流行のピークは過ぎたとは言え、安心せず風疹の予防啓発の継続を」と呼び掛けた提言が出されております。そして、風疹の流行は二・三年連続することが多いことから、「来年も流行が再び繰り返されるのでは」と懸念されておまして、成人へのワクチン接種の継続推進が望まれると言われております。ですので、この地域ではまだ流行が無いと安心せずに、是非とも、風疹ワクチンへの助成を考えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 先ほども申しましたとおり、恐らく、来年も再来年も若干は流行の兆しは出てくるものと思います。これにつきましては、流行する、しないかと言う判断が関わって来ますけれども、もし、近隣ですね、当町であっても一人でも発生すれば当然、妊婦の方々については、最優先で接種してもらおう、家族の方にも接種してもらおうというのがありますし、これから子どもができるという世帯についても同じような対応が必要だと思います。それについて助成する場合ですね、さかのぼってすることもできますし、そういうことでは、なってみないとわからないんですけども。これについては、やはり春先ですね5月、6月に厚生労働省で取りまとめている風疹の流行状況が地域別にできますので、そのことを確認しながら検討していきたいと思います。以上です。

○委員長（馬場又彦君） ほかに質疑ありませんか。質疑なしと認めます。これで、4款、衛生費の質疑を終わります。

次に、80、81ページの5款、労働費の質疑を行います。質疑ありませんか。2番、八木田憲司君。

○2番（八木田憲司君） 81ページ、労働費、1項、1目、13節、委託料の中に地域活性化及び総合振興事業とあります。284万。これ委託料ですけども、どういう内容で使われたのか説明をお願いします。

○委員長（馬場又彦君） 商工観光課長。

○商工観光課長（福田修君） 地域活性化及び総合振興事業の委託料の内訳でございますけども、ここの労働諸費の部分でございますけども、これは緊急雇用対策という形で100%県から補助をいただいております。これはですね、要は商工会の方に一人、緊急雇用で職員を採用してもらって商工会の事業をお手伝いしてもらっている分で、委託料という形になってございます。

○委員長（馬場又彦君） ほかに質疑ありませんか。質疑なしと認めます。これで、5款、労働費の質疑を終わります。

次に、80ページから93ページまでの6款、農林水産業費の質疑を行います。質疑ありませんか。9番、川井健雄君。

○9番（川井健雄君） 85ページ、3目、農業振興費の19節の一番下なんですが、農地・水・環境保全向上対策、769万いくらですが、これは予算よりもかなり減額になっておりますが、理由をお知らせください。

○委員長（馬場又彦君） 農林課長。

○農林課長（川守田貢君） 農地・水・環境保全向上対策ということで、769万1,406円でございます。これは、県の分と町の方を足したものがこの分の金額となっております。それで、共同活動が602万226円、向上が83万5,590円でございます。以上ですけども、ほとんど変わってございませんけども。よろしく申し上げます。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。9番、川井健雄君。

○9番（川井健雄君） 去年の、前年度の決算書見ると、936万いくらになってるんですよ。かなり、百六十数万の減になってますが、これは、団体数の減少なのか、面積が減少したのか、その辺わかりましたらお願いします。

○委員長（馬場又彦君） 農林課長。

○農林課長（川守田貢君） 23年度の実績について、今手元に資料がございませんので、23年度分の実績を基にまた後日ですね、ご説明したいと思います。よろしくをお願いします。

○委員長（馬場又彦君） ほかにございませんか。15番、川守田君。

○15番（川守田稔君） 83ページをお開きください。13節ですね。委託料。農地情報総合管理システム保守業務ですね、地図化システム整備業務。これの内容をとりあえず説明いただきたいと思います。

○委員長（馬場又彦君） 農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（北山哲君） ただ今のご質問でございますけども、農地情報総合管理システム保守業務ですけども、これは農地基本台帳のことでございまして、その機械の管理料でございます。

それと、地図化システム整備業務の方でございますけども、これは、今やっております人・農地プランとの関係で、農地利用円滑化事業と言いまして、ただいま言いました農地基本台帳を地図化するためのものございまして、今まではその基本台帳は表になって農地を管理してましたけども、それを地図に表せるようにシステムをそこに入れたものございまして。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 15番、川守田君。

○15番（川守田稔君） 農地の集約化とかですね、遊休地のあっせんとかですね、そういったことに国が予算措置するとかですね、そういった情報があったんですけど。あれはいつのことでしたか、これでしょうか。というあれなんですけど、これは従来のあれですよ。従来からやられてる事業ですよ。24年度始まった事業ですか。これは。まあ、いいんですけど。

何が言いたいかというとはですね、例えば遊休地ですとか、遊休農地ですとかそういったのを集約化してですね、あっせんするとかそういったことを進めないと、多分、沼畑俊一議員もおっしゃってましたけども、後継者ですとかそういったことには繋がらないんだと思うんですよ。どうということかと言うと、結局、大規模、それなりの規模拡大を図って行かないと、農業は様々な

要因でもって5年後、10年後には後継者は残らないだろうという状況になるんだと思うんですよ。ただ、その規模がですねどの程度の規模になると專業農家で成立するかということは、今の時点では申しませんが、例えば、進めて行かざるを得ない。結局、農家の戸数が減れば、結局は規模拡大っていうような方向性でもって今、動いてるんだろと私は理解してるんですが、その点について国からの何か予算措置の情報でもあれば、教えていただければと思います。

○委員長（馬場又彦君） 農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（北山哲君） ただ今の質問でございますけども、農地情報総合システムというのは、これは元来から、ずっと前からやっているものでございまして、地図化システムの方に関しては、24年度から始まりました。先ほど言いました人・農地プラン、要するに農地の集約化に関しての事業で、これは100%国からの補助で、このシステムは入れたものでございまして、今までだと、表にだけで、「誰々が、どこ何処に、何番地に田んぼがある」とかなるので、場所的な把握ができないので、地図にそれを色別で表しますと、いろんなばらつきの農地の保有がわかりますので、それを集約するためのシステムでございます。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。15番、川守田君。

○15番（川守田稔君） すみません。的外れな質問をして。答えづらいのはわかってますけど。農地の集約化が始まったら、いいだろうなって思うんですよ。具体的に。例えば、「ここさある農地とここの農地を交換する」とかですね。そういったことが進んでいくと非常に、作業のあれとか、規模拡大もされやすくなったりですね、そういった興味的なこともあって、ある程度そういったことが進めばですね、ましてや国の肝いりですよ。そういう集約化っていう国が予算措置して。そういったことがある程度まで進めばですね、想像なんですけどね。自民党さんが政権取ってればですね、今度はほ場整備みたいなことってのは進むんだと思うんですよ。そうなるんですね。公共工事一つできるじゃないですか。ていうような物の見方もしたりしてですね、是非進めてもらいたいと思って発言しました。よろしく申し上げます。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。ほかに質疑ありませんか。質疑なしと認めます。これで、6款、農林水産業費の質疑を終わります。

次に、92ページから97ページまでの7款、商工費の質疑を行います。質疑ありませんか。4番、工藤正孝君。

○4番（工藤正孝君） 95ページ、2目、13節、委託料、観光イベント費1,500万。この中の、この委託料が今まで行われました祭りとか、今後行われるイベント、祭りの費用かなというふうに詳細な区分が無いので、ここかなというふうに思ってますけどよろしいでしょうか。課長。ここですか。それでですね、大きな数字ではなくて、関連的な部分で申し訳ございません。

先般、終了いたしましたなんぶサマーフェスティバル。8月に行われました。そこである町民、女性の方からご指摘がありました。それは、去年も私、実は言われたんですが、まつりが終了していたため確認できずにおりました。というのは、三戸駅に大きな大名行列のポスター、看板なるものが設置されております。サマーフェスティバル、大名行列が終了してから女性にお怒りを受けたのは、その「大名行列に乗っている大名、町長さんが二本木町長さんだ。」と。これは、旧南部町時代の二本木憲一町長さんは大分前の方でして、今の町長さんはそれをご存じかもしれませんが、「大変、失礼ではないかと」というふうにご指摘をいただきました。私、確認をできなかったために、去年のこの、決算委員会、そしてまた予算委員会には言うことができませんでした。そしてまた、ここではなく、開催したまつり協議会なる団体に確認をしてしゃべればいいのかではございますが、委託している。1,500万以上という委託をしている商工観光課も少し、確認をしながらですね、こういったミスがあったらですね、ご指摘しながら祭りを盛り上げていけばいいのではないかなと思います。直接、その実行委員なりに言うと「予算がありません」とかなんとかという話しになってしまうのかなと思ひまして、この場でお話しをさせていただきました。

それで私、今年また大名行列に参加しまして、しっかり確認をしました。そしたらまた、二本木町長さんの、前町長さんの写真が大きくですね、ちっちゃいといいんですけど、大きくですね掲載されておりますので。またその女性と実は本当に会ったんです今年も。すごい目線で見られましたけども、違う汗がどっと出ましてね。忘れないうちに本日言った次第でございます。何かその点でご答弁ありましたらお願いします。

○委員長（馬場又彦君） 商工観光課長。

○商工観光課長（福田修君） 貴重なご意見、本当にありがとうございます。私たちも、実行委

員会の方にポスター図案等全部お示しして、決めてもらってはいましたけども、写真につきましては私も大変申しわけありません。今、言われるまで私自身も気づきませんでした。本当に私たち職員、観光協会の事務局員として本当に恥ずかしいことだと思います。これからは、そういうことが無いように、十分、私たちがポスターの図柄、それから写真、そういうふうな部分で厳密にチェックを入れまして二度と無いようにやりたいと思います。大変申しわけありませんでした。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。5番、夏堀文孝君。

○4番（工藤正孝君） 97ページになります。3目、観光施設費、13節、委託料の指定管理者。バーデハウスの件に関して質問いたします。今、指定管理の公募をしているところだと思いますけれども、現在どういう状況になっているのか、どういった業種の方々が何軒ぐらい申し込みに見えられているのかをお尋ねします。

○委員長（馬場又彦君） 商工観光課長。

○商工観光課長（福田修君） それでは、南部町健康増進センターの指定管理の関係でのご質問でございますけども、26年度以降の指定管理者は公募という形で進めるということで皆さんにもご説明しておりました。7月31日期限で公募をいたしました。そうしまして、今時点で五つの法人から申請が出ております。内容といたしましては、町内が3法人、八戸地区が1法人、三戸町が1法人という五つの法人から申請が上がっております。

これにつきましては、今後、選定委員会を設置いたしまして、選定することとしておりますので、選定委員の方はですね、外部3人、それから内部2人という形で、5人体勢で審査をしていただくこととしております。内部につきましては、健康増進公社の理事の方々もおりますので、その方々は除いた人選をさせていただいております。5名によりまして、この五つの法人を、これから五つの中から一つを選ぶわけですけども、それぞれ専門家がございますので、それぞれの意見が出てくると思います。私自体は、事務局として説明する側にまわりますので、選定には加わらないというような形になっております。とにかく、公平に選んで行くということを今、考えております。

業種ですけれども、一つは清掃とか、今まで他の施設の指定管理を受けてる方がございます。それから、地元ですと物販、そういう形で法人を設立している方がございます。後はですね、調理

業務とか色んな指定管理、他の施設の指定管理なんかを受けている業種もございます。後は、医療関係で健康づくりとか、医療との地域連携とかそういう業種の方もございます。一応、そういう形で受付しております。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。5番、夏堀君。

○4番（工藤正孝君） 公平にというのは、当たり前の話しですけども、各法人申し込んでる中で、バーデハウスをどのような方向性で運営していくのか、どういった形の施設としてやっていくのかということも、具体的な部分でも出てるわけですか。

○委員長（馬場又彦君） 商工観光課長。

○商工観光課長（福田修君） 申し込みを受ける段階で、色んなことを問いかけておりますので、あそこの健康増進センター自体は、健康づくりの施設ということが、まず一つ大きな目的があって造られておりますので、「その機能も活かしてください」というような形で提案させてもらっております。

それから、あそこの一つの特徴であります厚生労働大臣の指定施設というその部分につきましては、特段、限定はしておりませんでした。「外れてもいいですよ」と。「ただし、スーパー銭湯みたいな、ただのレジャー施設ではございませんよ」ということをまず、前面に出しておりますので、その辺の計画に沿って出てきている部分がございますので、その辺は審査の方々がどう判断していくかということになるかと思っておりますけども、一応まず、最初作ったその健康増進施設を前面には出して、公募をかけているところです。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。ほかに質疑ございませんか。3番、中舘文雄君。

○3番（中舘文雄君） 同じページ数のこの委託料にかかって、バーデハウスではありません。私が質問するのは、もっと小規模なチェリリン村の中にセンターハウス。これも指定管理者制度利用した施設だと理解しておりますけども、ここは中々話題にあがりません。色んな問題でですね。ただ、ここも、指定管理者制度を取っている以上は町として維持管理だとかそういうものに対して、どのように考えているか、決算書は数字的には出てきませんからですね。ただ、報告書

の中ではそれなりに指定管理者やって上手く行っているという文書になってますけれども、なかなか、センターハウスの話題が出てきませんので、この施設に対して、町としてどういう維持管理、考え方で進めているか質問します。

○委員長（馬場又彦君） 商工観光課長。

○商工観光課長（福田修君） 名川センターハウスの指定管理の件でございますけれども、前に一度お話ししたかとは思いますが、センターハウスにつきましては今年度中に譲渡、今、指定管理を受けているところに譲渡する形でお話を進めて行きたいというふうに考えております。今、指定管理料は48万4,000円だったと思いますが、指定管理料自体も少なく大変だというお話しもいただいておりましたが、以前からそういう形でできておりましたので、お願いしてきております。施設も老朽化してきており、大変、今、大きく改修は無いんですけども、前、若干2,000万ほどかけて改修したような記憶がございますけれども、今自体はそんなに大規模な改修は予定しておりませんが、今後、お話しの中でどういう形で出てくるかはわかりませんが、町としてはあくまでも譲渡という形で進めて行きたいということで話し合いを進めて行きたいと思っております。

○委員長（馬場又彦君） 3番、中館君。

○3番（中館文雄君） 今、課長も認めたようにですね、大分老朽化してるそうです。たまたま、受けてる方からもですね、このままで譲渡されても恐らく大変だと、改修にですね。という話しもちろっと聞いたものですから、ある程度改修した上で譲渡とか考えるのか、それとも今の現状でですね、「さあどうぞ、買ってください」と言っても恐らく資産価値が有ると判断するのか、無いと判断するのかってぐらいその、だいぶ苦労しているという話し聞いたものですから、その辺をですねもうちょっと、町としても施設として十二分に利用できるものであればいいでしょうけれども。ただ、今管理受けてる方に「買え」と言ってもなかなか、その辺が大分金をかけなければ、実際に売り込む施設としてやるのは難しいような話だったものですから、今改めて聞きました。では、今のところは、今の状態で売りに出す。譲渡、「買って欲しくないか」と言う折衝するという事で、その辺はもう少し検討する必要があるかと思っ、まあその辺は方針は方針ですから相手がそれでいいってことであればね、譲渡が一番いいかと思っております。ただ、今の状態です

と施設の痛みが大分きてるという話しですから、その辺は十分に考慮した上で一つ、処理して頂きたいと思います。以上です。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。ほかに質疑ございませんか。質疑なしと認めます。これで、7款、商工費の質疑を終わります。

次に、96ページから103ページまでの8款、土木費の質疑を行います。質疑ありませんか。14番、立花寛子君。

○14番（立花寛子君） ページは103ページ、103ページの8款、5項、1目、19節、住宅新築支援事業219万2,000円。住宅リフォーム促進事業449万円についての質問です。

新築、リフォーム助成は住宅に限り施行されています。その効果は、より多くの分野の業者に良い経済効果をもたらし、喜ばれております。そこで、具体的な数字を上げて、経済効果など、また、申請数はどのような数字までであったのか。行政報告書の48ページには、新築6件、リフォーム37件とありますが、予算が足りなくらいの申請者があったのかどうか具体的な内容をお知らせください。

○委員長（馬場又彦君） 建設課長。

○建設課長（工藤良夫君） 19節負担金補助及び交付金、新築リフォーム事業についてのお答えをいたします。この事業は、24年度から実施しております。事業状況につきましては、新築6件、リフォーム37件、合計で43件実施しております。金額にいたしましては、合計で668万2,000円を補助してございます。

申し込みですけれども、予算を消化しましてから二・三件の申し込みがありました。その説明につきましては、今年度末の事業が予算的に終了したということで了解をいただいております。効果につきましては、住宅の整備環境の促進、また、地域の経済の活性化に繋がったと考えております。以上でございます。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。14番、立花寛子君。

○14番（立花寛子君） 大変申し込みの高い事業だなということが改めてわかるわけでありませ

が、是非、予算消化後に申し込まれた方が今年度でもやられたのかどうか、期待するところでありありますが、この事業であります。今は住宅に限りの申請申し込みなのですが、この事業を商店にも広げることができないかとある関係者から要望されております。現在、町には街並景観整備条例などこういう関連する条例があったと思います。町の活性化を考えますと、制度充実のためには関係機関の皆さんから実態調査などを汲み上げていただき、より良い制度充実のために、ご苦労していただきたいと思いますがいかがでしょうか。

○委員長（馬場又彦君） 建設課長。

○建設課長（工藤良夫君） 事業の拡大ということで、この事業の目的は一般の個人の住宅ということで進めてございます。今のところ、この一般の住宅ということで継続して進めたいと考えておりますが、事業の拡大につきましては、他の事業があるか今後検討していきたいと考えております。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。14番、立花君。

○14番（立花寛子君） 積極的なご答弁だとは思いますが、お店を張っている皆さん方は今の不況の中でも一生懸命頑張っておられる現実があるわけです。でも、もう少し余裕があれば店先とか周辺を整備したいという声も聞かれておりますので、是非とも積極的なご配慮をお願いしたいと思います。この点は終わります。

同じ土木費、8款、5項、2目、15節、同じ103ページになりますが、住宅費の住宅建設費についての質問です。公営住宅建設工事についての繰越明許費1億3,000万円についてのご説明をお願いいたします。

○委員長（馬場又彦君） 建設課長。

○建設課長（工藤良夫君） 15節、工事請負費1億3,000万円の繰り越しについての回答いたします。当初この事業は平成25年度建設用に計画しておりました。24年度、国の経済対策による大型補正がありまして、前倒しして実施、繰越した予算でございます。

内容につきましては、継続事業でありますひろば台団地の継続、内容で3棟12戸、1棟は4戸

入ります。12戸分の建設事業でございます。それぞれ、3棟分の建築、設備、電気について工事を発注してございます。以上でございます。

○委員長（馬場又彦君） 14番、立花君。

○14番（立花寛子君） 要するにこの1億3,000万円で現在、12戸分の建設をしている。決算でするので、現在使った金額がただここに載っているということですね。

○委員長（馬場又彦君） 建設課長。

○建設課長（工藤良夫君） 25年ですけども、先ほど申しました建設の内容の事業費が1億3,000万円ということでございます。

○委員長（馬場又彦君） 16番、工藤久夫君。

○16番（工藤久夫君） 同じこの、住宅新築とかリフォームの支援とか促進事業の件で伺いますけども。実は私も「ちょこっと」リフォームするのに申請して、6月の末頃終わったんですけども。この間、大工さんから聞いたら、「7月でほぼ予定の枠は消化した。しそうだ。」とかってこう聞いてたんですけども。多分、今、来春消費税が上がるだろうとか、またその今の予想で行けば一年半後にまた上がるかもわからないと。これが落ち着くまでは、結構、駆け込み的に需要がふえるんじゃないかなと思うんですけども、この申し込みが枠いっぱいになったからこれで終わりっていう方針なのか、あんまりにも問い合わせとか申し込みがあるから補正を考える予定なのか、その辺ちょっと伺っておきたいと思います。

○委員長（馬場又彦君） 建設課長。

○建設課長（工藤良夫君） 昨年度は、事業が終わってから二・三件の申し込みがありまして、今年度はそれを踏まえて、1,000万円の事業で実施しております。また、申請者がふえた場合ですけどもその申請者のですね状況を判断いたしまして、今後それも補正ができるかどうかというのは検討していきたいと思います。以上です。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。ほかに質疑ございませんか。質疑なしと認めます。これで、8款、土木費の質疑を終わります。

次に、102ページから107ページまでの9款、消防費の質疑を行います。質疑ありませんか。4番、工藤正孝君。

○4番（工藤正孝君） 105ページ、2目、非常備消防費の15節、工事請負費、消防団拠点施設新築工事、いわゆる屯所だと思えますが。大分、屯所整備は進められてきたと思えますが、あるいは、南部地区においては旧南部町時代は意外と消防屯所の設備は進んでいなく、先般、町長さんの配慮で五つの消防団屯所が新築されたわけですが、今後その屯所の整備についてはどの位残っていて、どのぐらいの計画で進めて行くのかということをお伺いしたいと思います。

というのは、先般、8月29日に防災に関する地域懇談会というものを町主催で開催していただきました。南部地区5区、6区町内会、いわゆる水害があった町内でございますが、大変、前向きな防災計画と今後の対策等々、あるいはまた、一般質問でも数名の方が今後の対策についてお話しをして、前向きなお話しをしてきたわけですが。その中で、「8月29日にこの話を聞きに行きたかったんだけど、日中の開催のため行けなかったんだ」という方が後で、私のところに来てまして色々な「どんな話があったのか」とかというように聞かれたのでですね、若干、お話しをしましたが、その消防、いわゆる、何を申し上げたいかと申しますれば、災害が発生すれば消防団は集合ということで屯所待機ということでかかりますが、ご存知のように南部地区2分団の屯所は、すぐ裏のそのコミュニティーセンター、いわゆる町内会館として使用している施設とくっついておりましてですね、駐車場が狭い。避難してくるということで、「ある程度の荷物を軽トラに積んで、足の悪いかかをようやく乗せて避難しに行ったら、消防団の車ばかりで、避難する駐車場が無かった。入れなかった」と、したがって「また戻って来たんだ」という話しをしながら、世間話程度だったので、是非、やっぱりそういった避難場所というものの駐車場の完備ですとか、やはり、町長さんも消防担当もご存じ、認識していることと思えます。2分団の周りは問題があるということは、ご理解いただいていると思えますが、それを踏まえてですね、詳しい計画等々ありましたら、今、お話ししていただければ、多分、またこの議会が終了と同時に町内の方々から色々なお話しを「どうだったのか」とか聞かれると思えます。発言できる程度でお願いします。

○委員長（馬場又彦君） 総務課長。

○総務課長（小萩沢孝一君） 屯所の整備等につきましては、従来からお話しさせていただいてるところもございますけども、基本的には古い順番からということで消防団とは確認をしてきているわけでございます。その都度、各隊、福地、名川、南部の方からまた、それぞれの「屯所の方を早く」ということであれば、ちょっと古い、新しいを逆転してやっている順番もございますが、基本的には古い順番からということでございます。屯所の整備も合併以来かなり進めて来ておりますけども、名川地区については一応、整備がある程度終わってきてございます。また、福地地区につきましても、1分団、2分団今やりまして、残っているのと言うか、かなり古い昭和の時代というのがまだ、法師岡、垵渡、後は南部地区は2分団の大向が一番古い。相内の屯所がまだ古いんですけど、これにつきましてはまた、リフォームで対応するのか、新築で行くのかという議論もございます。そういうことも含めて、バランスも含めながらあちらの地区をやった後はこちらということに当然、なっていくかと思っておりますが、今、総務課では集会場の新築も進めてございまして、集会所もこれからかなりの部分でスピードアップして進めて行かなければならないという部分もございまして、今年度、ご承知のように諏訪の平、剣吉は荒町、福地は旧の1分団をちょっと改修しましてという形で集会場の整備を進めているわけでございます。今年度は、25年度につきましては屯所の整備は無いということで。隔年でやっていければいいのかなということも今、考えてございます。集会場やったら次は屯所かということになりますと、じゃあ南部を進めるか、福地を進めるかというのは議論をしながら進めて行きたいわけでございますけども、2分団の、南部2分団の場所もかなり、場所的には。この間、懇談会私も行きましたけども、非常にベストな場所では絶対ないというのは、誰が見ても分かっているわけでございますので、今後とも消防団と相談しながら進めて参りたいという考えでおりますので、よろしくお願いたします。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。4番、工藤正孝君。

○4番（工藤正孝君） ありがとうございます。しかしながらですね、やっぱり今回、一般質問された議員さんも含めて、災害はいつ起こるか分からない。まさしく、一昨年9月だったわけでございます。現在も台風17号というものが急接近して、今日ここに来る時ですね、増水が

見られておりますので、また氾濫がある。あるいは、食い止めたとしても町民の方々、まず、水没を経験された方は、豊を上げるとか準備をされると思います。そういったことも踏まえると、やはり、緊急なる事項というものは、年度計画もありますが、緊急な計画が必要なのではないかなと私は強く思うのでございます。したがって、予算様々、計画等もあるでしょうけども、是非、町長始め担当課の方々には緊急を要する物件についていち早く、進めていただきたいなどというふうに要望しておきます。以上です。

○委員長（馬場又彦君） ほかに。5番、夏堀文孝君

※東寿一君 退席

○5番（夏堀文孝君） 105ページ、2目、非常備消防費、1節、報酬ですね。消防団の関係についてお訪ねします。先般、消防団員の減少を食い止めるために、企業、学校にも努力義務を課すというような、自民党のほうから法案が出るみたいですけども。南部町でも、何年か前に消防団協力事業所と言うものをいち早く取り入れてございます。その加盟、加入している事業所がどれくらい、今現在あるのかちょっと教えてください。

○委員長（馬場又彦君） 総務課長。

○総務課長（小萩沢孝一君） 協力事業所は1カ所でございます。

○委員長（馬場又彦君） 5番、夏堀君。

○5番（夏堀文孝君） プレートをお配りしたやつ、1カ所。うち方もなってるんですけど。何か所かあるはずですよ。ですよ。せっかく、いい制度を作って消防団をどんどんと事業所にも協力していただいて、活動していただくというような、施策をとったわけでございます。結局、加盟する事業所がそれからふえてないと思っておりますけれども、何らかのメリットが無ければ、こういった努力義務を課しても、率先して事業所が「じゃあうちの従業員を団活動にだそうか」と言うそういう形になってこない。直接的に増員に繋がらないと思いますけれども、なんかこう、そういったことに対する対策。メリットと言いますか、そういった事は何か考えてますか。

○委員長（馬場又彦君） 総務課長。

○総務課長（小萩沢孝一君） 協力事業所に直接のメリットということになりますと、どういう形がいいのかというのは非常に難しいかなと。全国的に私も例題を見つけてるんですけども、消防団員。団員の方そのものに対してのメリット。というのをまず、進めて行きたいなというのがまず、今考えてるところでございます。消防団員になればやっぱり、「こういうことが。メリットが有るんだ。」と。具体的に今すぐ申し上げられませんが、全国的にはそういう例題もございます。商品券と言いますか。町内のある事業所で買い物をすると、消防団員だと少しメリットがあるようなやり方をしている消防団が全国的には今、あります。

ですので、商工会さんの方とも「ちょっとそういうこともあるよ」と言うことでちょっとご紹介させていただきましてけども。事業所に関しましては、今、経審の点数がちょっとそれが点数が違うというのがございますけども、今、具体的に言えるのはそれくらいで、これは県の方のあれでございますので、町として、もう少しこういうところが協力事業所で、消防団に協力いただいているんだということをもう少し、PRさせていただきながら、やっぱり協力事業所も増やしていくということをして行かなければならないのかなというふうに思っております。

○委員長（馬場又彦君） 5番、夏堀君

○5番（夏堀文孝君） 前向きに検討してくださるということですがけれども、災害、火災、そういった場合だけでなく、様々な訓練があるわけです。その際に、やっぱり事業所が、やっぱり聞いておきますと、「仕事が大切なのか、消防が大切なのか」って会社に言われて「やはり出れません」って言う。そういった答えが帰ってくる場合が本当に多いです。ですので、やはり町内の業者に関わらず、八戸市内で働いてる方、町外で働いてる方、たくさんいますので、そういったところの事業所にもやはり、「できるだけ協力してください」という申し入れはしていくべきではないかなと思いますので、その部分もよろしく願いして質問を終わります。

※東寿一君 着席

○委員長（馬場又彦君） ほかにございませんか。2番、八木田憲司君

○2番（八木田憲司君） 今の夏堀議員との関連になりますけども、8節、報償費についてですね。消防団員のことについておうかがいいたします。今現在、定員数が、町で決めている定員があると思いますけども、その枠内での定員不足なのか、いっぱいなのか、その状況と。そして、もし足りない、いっぱいだったとしても町としてこれから、方針として消防団員をこれから増やしていきたいのか。先般の新聞紙上の報道みますと、全国的に団員不足で「とにかく団員を増やさなければならない」という「災害対策のために」ってこともあったので、今南部町自体の状況をうかがいながらその辺、お願いいたします。

○委員長（馬場又彦君） 総務課長。

○総務課長（小萩沢孝一君） 今、条例上の定員は741名でございます。基本的決算時、平成24年につきましては695名でありましたけども、平成25年には691名、4名減ってございます。

これは、4月1日の人数でござまして、年度途中で何人か入ったり、やめたりしている感じでございます。合併以来、平成18年度においては662名でございましたけども、今現在、691と30名ほどふえているという状況でございます。これにつきましては、女性団員の確保、あるいはOB団員の確保等々を進めて来ているというところもございます。

また、役場の職員につきましては、合併以来、新採用の職員については基本的には消防団員になっていただくということで勧誘してございまして、ほとんどの職員が今、入ってございます。

また、ちょっと声掛けが遅れて入っていなかった職員も先週ですか、全員、うちの職員がまわりまして、加入するという答えをいただいております。そういうことで、また団員数もふえるのではないかなというふうに思っております。

将来的に団員をどうする方向になるのかということになりますと、基本的には分団編成をどうしていくのかと、本団の体勢をどうしていくのかという全般的な話を進めながら、定員というものを考えていかなければならないと。全国的にはもちろん、消防団員減ってございますので、当町におきましても減らしていきたいというふうには思っておりません。ある程度、稼働率、三分の一と考えてございますので、火災の場合はやはり100人、150人体勢が、緊急時には600人、700人体勢でいっぱいでございます。ですので、これ以上減らすとやはり、また緊急時には減るということもございますので、なるべく今の体制を維持しつつ、分団、本団の体制も検討しつつ、確保を進めていきたいというふうに思っております。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。ほかにございませんか。3番、中舘文雄君。

○3番（中舘文雄君） 決算書の内容とですね、行政報告書の内容が整合性がなければならないという立場から、質問いたします。

105ページですね、工事請負、15節の中で工事費が支払われたという数字が報告され、報告書の中にも福田第2分団を建設したという文書になっております。ただし、成果のところ、まるっきり整合性のない文書がここに掲げられております。ていうのは、104号線に面し、緊急時の出勤に対応したという文書です。これは、私調べましたら、23年度の決算の時に報告書の中に入れた文書と一字一句違ってません。これはやはり、正式にですね決算書に添付資料として出すにはあまりにも愚かな措置だというふうに思いますので、この辺はどうして福田地区の文書ができたのが、104号線の緊急時の出入りに解消されることになったという文書にしたのかまず一点、質問します。

それからですね、次に107ページの防災費の方で、報告書の中ですね、「各団体と協定を結んだ」とこれは、大変いいことだと思いますけども、私の勘違いかも、この辺は確認しながらの質問ですけども、災害が起きた時に緊急性を、「すぐ」ということになるとうしても、災害発生した現場に対する対応、これがどうしても必要になります。そうすると、ほかの自治体等全部調べますと、地元の建設業者に対して協力・協定を結びながら、それに対応するというのが実情ですね。水道企業団でも全区域の中で三戸方面は恐らく南部町の業者の中にもそういうひとありますけども、その中に、体制作りの中に入ってます。で、緊急時にはその業者がいち早く対応に出るということで、現地対応するというのが基本として今までずっと国でも県でもやっていますけれども、南部町の場合ですね、たまたまその一時期ですね、そういうことしていると談合との業者が協会なり、そうした組合を作っていると、談合に結び付くということで、大分指摘されながら、解散したところもあるし、その後、そういう組織を作っていないところもあることは事実だと思います。ただし、公正取引委員会から聞くとですね、役所が一業者にお願いして借りを作るのが一番、談合に結びつく。官制談合の一番の大きな原因になってる。ですから、これは団体と協力体制を結んで、団体の指示でもって各業者が動くということをしなないと、どうしても、電話しやすいところに頼んでやると、「そこに借り作ってるからこの工事はそこ」というようなことあるってこと、これは厳正にやられてます。ですから、各自治体とも組織を作っていただいて、そこを相手にして協定書を結んで、その指示で動くというのが、やっていますけど。南部町の場合

はどこ調べてもそうした協定書が無かったものですから、これは改めてですね防災計画を立てる中では、地元の建設業者とあらゆる面検討しながら協定を結ぶ、そういうことも検討していかなければならないと思います。ですから、協会、任意団体の組織を作るかそれは自由ですけど、そういう形にしていかないと、公取からやっぱり一業者と結託して復旧その他やってるということになれば、一種のですね、談合の元になるということを指摘されますから、その辺についてどういう考えを持っているか質問します。

○委員長（馬場又彦君） 総務課長。

○総務課長（小萩沢孝一君） まずは、報告書の4ページの成果の部分の文言につきましては、まったくこれはご指摘のとおりでございまして、うちの方の間違いということで、そのままを載せてしまったということでございます。この場をお借りしてお詫び申し上げたいと思います。今後、このようなことが無いように努めてまいりたいというふうに思います。

二点目の応援協定につきましては、ここに載せているのは昨年度、応援協定を結んだという内容のものでございまして、建設業者の皆さんとは商工会という全体の枠の中で協定を結んでいるという中身でございまして、ご理解を賜りたいというふうに思います。

○委員長（馬場又彦君） 3番、中舘文雄君。

○3番（中舘文雄君） それは現在もそういう形で、振興会ですか。（「商工業会」の声あり）あっ、商工会。（「商工業会という」の声あり）商工業会と。（「またお知らせします」の声あり）はい。ですからあの、何でその建設事業者とかそういう事業所と契約をするかと。災害発生した時には現地に入って、二次災害起きた時には一番、問題があるってことなんですよ。建設業者であれば、重機、車両、作業員、全部労働保険に入った作業員が行った場合、事故あってもそこに労災で対応できるんですけども。町民だとかそういうのがそこに行った場合には、二次災害起きた時に誰が保障するかという問題が起きるので、どうしても、企業とそういう団体との契約ってのが重要になりますから、もう一度、その辺をですね、ちょっと精査した上で、この防災協定というのを見直し、締結していただきたいと思います。要望しておきます。

○委員長（馬場又彦君） ほかに質疑ございませんか。質疑なしと認めます。これで、9款、消

防費の質疑を終わります。ここで、2時25分まで休憩いたします。

(午後2時08分)

○委員長（馬場又彦君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

※工藤正孝君 退席

(午後2時25分)

○委員長（馬場又彦君） 次に、106ページから127ページまでの10款、教育費の質疑を行います。質疑ありませんか。15番、川守田稔君。

○15番（川守田稔君） ええとですね。ちょっと待ってください。120ページです。文化財保護費。ちょっと待ってください。正寿寺のですね、これからの発掘の予定といたしますか、予算措置とかが必要だと思うんですが、本当は予算委員会で伺うようなことなのかもしれませんけども、今後の予定とですね、今までどういった成果が出てるのかお伺いしたいと思います。

それとですね、幼稚園に関して幼保一体化ということですね、これも関連としてうかがいたいのですけども、先般の研修旅行でですね、保育所がどういうふうになるのかということは何となくわかるんですが。しからば、幼稚園というのがこれからどういうふうな感じで幼保一体化というの、新しい制度に乗って行くのか、段取りみたいなことをですねちょっとご説明いただきたいと思うんですよ。

○委員長（馬場又彦君） 社会教育課長。

○社会教育課長（西村久君） 発掘の予定について説明させていただきます。発掘につきましては、現在までに公有化というものとですね、発掘調査というもので事業の中では2本の柱で進めておるわけなんですけども、全体が8万4,000ヘクタールを買収する中で、今までに、去年までになりますけども2万2,320平方メートルを買い上げしております。この中で、平成の26年3月31日までにこれを基にいたしまして、基本計画を策定しようとしております。この時にですけども、

具体的な計画案がまとまることになっております。

それと、今までの成果についてのことにつきまして、説明いたします。調査したところには、土塁部分とかですね、竪穴というものがございまして、土の盛った跡ですとかあるいは、柱の立った跡ですね、そのようなものが現地の方から出ております。それで、そのほかにはいわゆる茶碗のかけらですとかですね、そういうふうなものも出てございまして、発掘の中で出てきたものについては、町の方で借りにですけれども、展示場所を作っております、そちらの方でストックしている状況でございます。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 学務課長。

○学務課長（夏堀常美君） 幼保一体ということで、「幼稚園の今後も」と言うご質問です。先日、議員さん方と一緒に視察してまいりましたけれども、公立の幼稚園自体が今現在、県内では少なくなってきてございます。そういう部分で、公立の幼稚園という部分では非常に今後厳しいだろうというふうに考えてございます。

ご存知のように、保育園の方は「保育ができない」と言う、まあ就労というようなことでできない保護者の方がお預けになります、幼稚園はそういう規制と言いますか、条件がございませんで、そういう部分ではかなりの部分で一体的な部分と言いますか、幼稚園のみでの運営と言う部分は難しくなるだろうというふうに考えてございます。よろしくお願ひします。

○委員長（馬場又彦君） 15番、川守田君。

○15番（川守田稔君） 幼保の方からちょっと。そうすると、私よくわからないんですよ。イメージが湧かないと言いますか、どうなんでしょうか。結局、保育所は保育所側から、幼稚園は幼稚園の方からして、どちらも同じ内容になるのがこの幼保一体なのかなというちょっと思い込みがあったんですけども。どうやら何か違うようですし、かといってその厚労省、文科省の管轄を離れて何かまた新しい省庁みたいのができて、その傘下に入るというような説明でもありました。そうするとですね、結局その公立の保育所、幼稚園、その「民営化」と言ってもですね、保育所の方はいいんだと思うんですよ。結局、幼稚園の方をどうするかということが大きな課題になると思うんですけど、保育所と幼稚園と経営的なことですか、保育時間、教育時間みたいな。ああいうふうに建物として、大衡村みたいに建物として同じ敷地内にあれば、それはいいんでし

ようけど。別々なところに建ってますよね。そうするとなんか、幼稚園生が終わってからの保育の方に切り替えるとか何とかっていうような、その小回りのきいたようなことも難しくなりますよね。ですよね。ですからそういうのってどういうふうになるんでしょうか。また、幼稚園の中でお残りさん組みないのができてですよ、その2時ですか3時ですか。「以降は保育園です」みたいなそういうふうになるのでしょうか。そういうふうな運営の仕方になるのでしょうか。そうするとその、保育料というのと、いわゆる、保育園のかかる料金とですね、幼稚園のかかる料金というのは、どういうふうな整合性の取らせ方をしていくのかって言う、そういうことを今、伺ったんですよね。まあ、舌足らずなもんですから、改めて教えていただければと思います。

○委員長（馬場又彦君） 学務課長。

○学務課長（夏堀常美君） 大衡さんの一体型の子ども園というふうな部分で、ああいう形になってございますが、行った際には幼稚園の方が夏休み期間中と言うことで子どもがいなかったということでございますが。保育時間なんか幼稚園の方は9時から2時、3時で3時以降は帰ると。どうしても預けたい人は、保育園の部分に預かり保育というふうな格好になるというパターン。保育料も色々な決め方をしている市町村がございますが、施設、部門がございます。一律みたいな保育園のように所得によって段階的に決める部分もございますし、幼稚園はあくまでも一律だというふうな部分で決めているところもございます。そこは、施設の決め方だと思います。そういう部分がございます。当然、幼稚園の方は、先ほど言いましたように夏休み、冬休みという部分がどうしても残るというふうなことで、残りますので、そういう部分ではちょっと、さっき川守田議員がおっしゃったみたいに、ちょっと施設的に離れると3時以降どうするんだとか、そういう部分が出てきます。そういう部分をどういうふうにして保護者の要望に伝えていくかという部分は、これからの協議、検討だと思っております。

○委員長（馬場又彦君） 15番、川守田君。

○15番（川守田稔君） ここで聞かなくてもですね、この前の研修でですね理事長から聞こうかと思ってたんです。隣でですね議長が「時間おしてるから、おしてるから。」とか言うもんで、私も質問できなかつたんです。それで、ここで、こういう形で質問しましたが、そうすると幼保一体といえどもやはり、保育所は保育所の性質を残しながら、幼稚園は幼稚園の特色を残し

ながらということですか。それじゃ全然一体じゃないじゃないかということであれなんですけどね。そういうふうに思っちゃうんですが、これから民営化するにしても、その辺がどういうふうなところにあれするかによって、民営化っていうののあれが違ってくると思うので、うかがった次第です。

それと、遺跡の発掘に関して、8町歩位ですか。全部で。8町いくらですね。それを全部「発掘するぞ」って言う意気込みでやってるわけですか。そうでもないですか。まあいいです。それから、もしもこの前、県道の拡張に伴って私の家の前も掘って見たら出たんですね。「ここ出ねえべ」なんて言ったら、何か柱の跡とかが出て来てですねびっくりしました。なんか「掘ればどこでも出るんだな」みたいなもんでですね。そういうふうなあれからいくとですね、例えば、五日市のあたりとかですね、ああいったところも郷土史やっている人から言わせるとですね、非常に重要な場所であって「それなりの遺跡が埋まっているはずである」とかそういったことも聞きます。別に「もう正寿寺をうっちゃって、こっちゃ移れ」って言うことではないのであれなんですけど、こういったふうな発見。発見があったりしたときにですね、やはりもう少しそういったのを発掘して、この土地の古の歴史の積み重ねみたいなものをちょっと大事にしくちやなんないんだなと思いつつながら私、毎朝家の向かいの発掘現場を見てらったんですけども。そういった取り組みもしていただきたいと思います。それで、そのどの辺位まで発掘するご予定であるのか教えてください。

○委員長（馬場又彦君） 社会教育課長。

○社会教育課長（西村久君） ご質問の件につきましてですけども、約8町歩公有化の話をしていただきましたけども、そこを全部買ってから発掘という考えではなくてですね。購入と発掘が平行に作業が進んでいきます。その中で、今ですと「聖寿寺館跡」と呼んでますけど、そこのところにですね、どういう建物の跡とかですね。あとは、いわゆる「掘」と呼ばれるものがありまして、それを守っているような掘がございますので、そういうのが全部形として表れてくれば。それはそれで、調査が結果として終わったことになると思います。ただし、公有化というものはそれを含めまして、それを含めた全体の土地を表しておりますので、「一度に全部。調査と公有化が一緒に、一体に進む。」という言い方ではございません。結果を求めるのが先でございます。

それで、あとはいわゆる住民の方へのお知らせの方法となりますけども、今、3月までに基本計画を作っているというお話をいたしましたけど、そのお知らせの方法についてもですね、どう

いう建物を使ってお知らせしていくとか、展示の方法をどのようにして展示してお知らせしていくとか、それを今まさに話しあっている最中でございます。何通りかのパターンを考えておりました、他町村の例とか他県の例を含めまして「こういう例がある」ということと、「この位の予算が必要になりますよ」とかその辺を話し合いの中でもんでの最中でございます。3月31日までは方向付けを決めたいという考えでございます。以上です。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 先ほどの川守田議員の保育料の方の質問で。私も行く機会が無いと思ってましたけど、お誘いもらいまして非常にためになりました。御礼申し上げます。それで、大衡で村長が言いましたように一体化ということで、保育にきても幼稚園にきて一緒に教育、教育というか、受けるということで負担のことについても再度確認しました。保育料につきましては当町と同じような負担の仕方。幼稚園の授業料につきましては、町内の子どもについては3万円、3万円のうち1万円以上を超えない負担にすることで、2万円を補助しているそうです。ですので、村の方から大衡の方に一人あたり2万円ずつ補助金が出てることになってると思います。とうのは、どうしてそういうふうにしたかということなんですけど、保育園については保育園のままできてますけども、幼稚園につきましてはそもそも安い設定だけですから一緒になった時にあまり急に変わっても、増額になっても困るということで、補助金出してるようなやり方にしたそうです。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。ほかに質疑ございませんか。質疑なしと認めます。これで10款、教育費の質疑を終わります。次に126ページから129ページまでの11款、災害復旧費の質疑を行います。質疑ありませんか。

（「質疑なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 質疑なしと認めます。これで11款、災害復旧費の質疑を終わります。次に128、129ページの12款、公債費及び13款、予備費の質疑を行います。質疑ありませんか。

（「質疑なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 質疑なしと認めます。これで11款、12款、公債費及び13款、予備費の

質疑を終わります。

以上で、質疑は終わりました。これから、討論を行います。討論はありませんか。14番、立花寛子君。

(14番 立花寛子君 登壇)

○14番（立花寛子君） 2012年度南部町一般会計歳入歳出決算認定について討論を行います。一般会計決算書には、新規に始まりました子ども医療費の給付、新築・リフォーム事業、新規就農者支援事業や中山間地域等直接支払交付金事業など住民要求が反映され、喜ばれている項目はございます。しかしながら、介護・医療・福祉分野などにおける充実が求められております。国の制度などの面で制約はあるかと思いますが、福祉分野への思い切った助成を求め反対討論といたします。反対討論を終わります。

○委員長（馬場又彦君） ほかに討論ございませんか。

(「討論なし」の声あり)

○委員長（馬場又彦君） 討論なしと認めます。これにて討論を終わります。

議案第82号を採決します。本案は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立多数)

○委員長（馬場又彦君） ご着席願います。起立多数です。

議案第82号は原案のとおり認定されました。

◎散会の宣告

○委員長（馬場又彦君） 以上で本日の決算審査は全部終了しました。

9月5日は、午前10時から決算特別委員会を再開しますので、よろしく願いいたします。

本日は、これで散会します。ご苦労さまでございました。

(午後2時25分)

平成25年9月5日（木曜日）

第52回南部町議会 決算特別委員会会議録

（第3号）

南部町議会決算特別委員会会議録（第3号）

平成25年9月5日（木）

出席委員（17名）

1番	山田賢司君	2番	八木田憲司君
3番	中舘文雄君	4番	工藤正孝君
5番	夏堀文孝君	6番	沼畑俊一君
7番	根市勲君	9番	川井健雄君
10番	中村善一君	11番	佐々木勝見君
12番	工藤幸子君	13番	馬場又彦君
14番	立花寛子君	15番	川守田稔君
16番	工藤久夫君	17番	坂本正紀君
18番	東寿一君		

欠席委員（1名）

8番 河門前正彦君

説明のため出席した者の職氏名

町長	工藤祐直君	副町長	坂本勝二君
総務課長	小萩沢孝一君	企画調整課長	坂本與志美君
財政課長	小笠原覚君	税務課長	谷内恭介君
住民生活課長	極檀義昭君	健康福祉課長	高森正義君
農林課長	川守田貢君	農村交流推進課長	西村幸作君
商工観光課長	福田修君	建設課長	工藤良夫君
会計管理者	若本勝則君	名川病院事務長	佐藤正彦君
老健なんぶ事務長	麦沢正実君	市場長	工藤敏彦君
教育長	山田義雄君	学務課長	夏堀常美君
社会教育課長	西村久君	農業委員会事務局長	北山哲君

代表監査委員 山口裕貢君

職務のため出席した者の職氏名

事務局長 根市良典 主 幹 留 目 日出子
主 査 留 目 成人

.....

◎開議の宣告

○委員長（馬場又彦君） これより決算特別委員会を再開いたします。

（午前10時00分）

.....

○委員長（馬場又彦君） 本日は、本委員会に付託されました議案第83号から議案第101号までの平成24年度南部町各特別会計歳入歳出決算19件を審査します。

なお、各特別会計決算につきましては、歳入歳出一括で質疑を行いますのでよろしくお願いいたします。

それでは審査に入ります。

.....

◎議案第83号の上程、説明、質疑、討論、採決

○委員長（馬場又彦君） 議案第83号、平成24年度南部町学校給食センター特別会計歳入歳出決算認定についてを議題とします。

本案について説明を求めます。学務課長。

○学務課長（夏堀常美君） おはようございます。

それでは、議案第83号、平成24年度南部町学校給食センター特別会計歳入歳出決算についてご説明いたします。

138ページをお開き願います。歳入の収入済額合計は1億9,251万6,977円で、収入未済額は1項負担金の10万1,800円となっています。

続きまして、140ページをお開き願います。歳出の支出済額合計は1億9,251万6,188円で、予算執行率は99.2%でございます。

その結果、歳入歳出差引残額の789円は25年度へ繰り越しいたしております。

次に、142ページをお開き願います。歳入についてご説明いたします。1款1項1目の給食費

負担金は、児童生徒の保護者の皆さんが納入されました給食費で、収入未済額は中学生2名分のものでございます。

2款1項1目一般会計繰入金は、学校給食センターの管理運営に要する経費及び人件費などの費用を、一般会計から繰り入れたものでございます。

次の、3款1項1目繰越金は、前年度からの繰越金でございます。

4款1項1目の雑入は、消費税の還付金でございます。

続き、144ページをお開き願います。歳出についてご説明いたします。1款1項1目の給食管理費の主なものは、センターの所長と事務職員の2人分の人件費のほか、11節の需用費は、洗剤購入の消耗品費、ボイラー用の灯油購入の燃料費、電気料や水道料の光熱費でございます。12節の役務費は、各種の検査や点検の手数料でございます。13節の委託料は、調理と配送業務の委託、さらには、ごみの収集の運搬等に要した経費でございます。14節の使用料及び賃借料は、コピー機等の借上料などでございます。

次に、146ページに移りまして、1款1項2目給食費の11節の需用費でございます。給食用の賄材料の購入経費でございます。

簡単でございますが以上で説明を終わります。よろしくどうぞお願いいたします。

○委員長（馬場又彦君） 説明が終わりました。

質疑を行います。質疑ありませんか。16番工藤久夫君。

○16番（工藤久夫君） 給食センターのことで大ざっぱなこと聞きたいのですが、できた頃は大体1日2,000食位のニーズがあったと。段々、1,500人割ると。今の予測で行けば、1,500人から更に下回って、例えば1,300人とか1,200人とかってなっていく状況が容易に想像できるんですけども。そうなった時に、ある程度のボリューム作らないとコストは上がる一方ではないかと私、素人ですけど思うんです。じゃあ、今よりももうちょっとこの給食をどっかに作って売るっていうことをやってコストを下げるか。あるいはその、今の設備を使って調理して行く上ではですね、その人数が例えば2,000人あったのが1,500人分作ります。今度、1,300人分つくりますと言っても、それに見合っただけ人を減らして作れるかと言うとそれも難しいのではないと思うんですけど、その辺を大ざっぱに人がある程度減らしていくのか、それとも何かもうちょっとこの給食センターを活用して。例えば、こういう言い方すればあれですけど、一人暮らしの老人に給食を作って、

給食届けましようとか。そこらまでの考えが今の時点ですてるのかどうか。ちょっと大ざっぱに教えてください。

○委員長（馬場又彦君） 学務課長。

○学務課長（夏堀常美君） 工藤議員おっしゃるように、今後も児童生徒数は減少してまいります。今の予測では、平成30年度には児童生徒1,100人ほどになります。学校数がそのままですと、クラスも変わりませんので、先生方の人数も変わらない。プラス200人として、1,300人ほどになるという形になろうかと思えます。

そうした時に、その学校以外に給食を提供するというお話がございました。今現在、1食あたり小学生は255円というふうな形で提供してございます。これはあくまでも管理費と言いますか、運営費を除いた金額、賄材料費のみでやっているということになりますので、原価計算と言いますか。そうしますと、約倍の500円以上の給食を、値段で提供しないと運営費をもらえないということになります。その部分までしてやるかどうかというのが一つの検討課題かと思えます。そして、議員おっしゃるように人件費なりを減らしていけるのかと、その分まで減らしていけるのかというお話でございしますが、年間50人から70人ほどで、推移で減っていきます。児童生徒が減っていきます。そうした時に、200人減ったら人件費一人を減らせるかというふうになりますと、非常になかなかこれも難しいお話でございまして、限られた時間で給食を作るということになりますと、ある程度の人的労力と言いますか、それも必要だというふうになります。ただ、午後の分の食器の洗浄という部分につきましては、0.5人とか、あるいは一人とか、そういう部分では減らしていけるのではないかというふうに感じてございしますので、今後、その児童生徒の減少とともにですね、人件費あるいは高熱水費等の節減に努めていかなければならないなというふうには感じてございます。以上でございます。

○委員長（馬場又彦君） 工藤久夫君。

○16番（工藤久夫君） 例えばこの歳入の138ページを見れば、いわゆる分担金、負担金8,830万と予算減額でいけばですね。で繰入金で1億570万と。そうするとこの8,800万がだいたい材料費だと。あと1億500万が人件費とか燃料費とか電気代だと。と考えれば、この1億500万ってのが

簡単に減らせないと考えれば、人数が減れば減った分この8,800万の数字がもっと減ってくるということになるんで、学務課だけの判断ではできないことでしょうけども、何かやらないとコストは上がっていくということは目に見えてると思うんで、総合的にこの給食センターを活用する検討っていうのは今からはじめてもいいのではないかと思うんですけども、その辺を私は提案したいと思うんですよね。以上です。答弁はいりません。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。はい。ほかに質疑ございませんか。15番、川守田君。

○15番（川守田稔君） この給食センターの衛生管理というのはどういうふうな、どういうふうに行っておりますか。どういうふうなチェック項目をチェックしてとか。そういった細々した、現場の細々した項目があると思いますが、どういった管理の仕方をしているのでしょうかというのをおうかがいしたいと思います。

当初この施設を建てる時にですね、「ハサップ対応の施設にいたすのです」というようなうたい文句だったと思います。ですが、「ハサップやったら大変ですよ」という話もした記憶があります。ですが、通達か何かでですね、学校給食センターというのは、「ハサップに準じた衛生管理をなさい」というふうな通達が、もう随分前にあるはずですよ。どの程度、ハサップに準ずる衛生管理の仕方をしているのかというところをですね、ご説明いただきたい。

※工藤幸子君 着席

○委員長（馬場又彦君） 学務課長。

○学務課長（夏堀常美君） 衛生管理という部分でございます。確かに作った時には「ハサップ対応」というふうなことでなっております。今、現在食材を。毎日入ってくるわけでございますが、その受ける際にチェックと言いますか、それは行ってございます。

そして、それを洗い…。（「どういうチェックですか」の声あり）品物の現状です。状況、はい。（「目視ですか」の声あり）目視です。それで、受けますと食材の洗浄あるいは刻みとか下処理が入ってまいります。そして、いざ調理が始まりますと調理してる窯の中の中心温度という部分の、3回位計ります。というのがございます。さらには、水道水の塩素の濃度も1日に3回

ほど測って行ってございます。そういう部分できてございますし、あるいは、当然、調理員の検便とかですね。そういう部分もなっているというふうになってございます。

時々、年に2回ほど保健所が来て指導はしてございますので、きちんとした、これまで食中毒とかですねそういう部分がなくて済んでいるというふうな状況でございます。以上です。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。はい。川守田稔君。

○15番（川守田稔君） あの、わざわざこういう質問しなくてもよかったんですけど。工藤議員が今、質問しました。「ハサップ対応の施設を作りましょう」とそういう設計をした時点からですね、中々そういった作業の合理化というのは難しいはずなんですよ。前回でしたか、前々回でしたか部屋が仕切りになっていて、ハサップ対応の設計したとすればですね、原材料の流れってのは一方向にしか動かないはずであります。後戻りしてはいけないとかですね。色々面倒くさいんですよ。その辺はご自覚なさっていると思うんですよ。ということはですね、食材に対する人件費だとかそういったコストの割合っていうのはですね、人件費の方がこれからどんどん大きくなっていくだろうと。合理化出来ないんですよ。ですよ。そういうことですよ。それぞれの部屋にそれぞれの担当の人数を張り付けて。こっちの部屋にいた人がこっちの部屋に入るとなるとこれはまた大変な話しです。こっちから戻るのは汚染区域から準汚染区域、それを行き来するっていうのはですねなかなか大変なことなんです。衛生管理の観点からいくと。ですよ。ということになるとですね、非常に、そもそもこの給食センターを作った時点で固定費っていうのは高額で固定ささる。高額に固定ささるってことをですね、わかってらしたと思うんですけど、その上での設計だったはずなんですけど。そういう観点からするとですね。ちょっと、答弁として、答弁し辛いのかもしれませんが、もうそういう宿命にあるんだということを自覚なさって、そういった姿勢で学校給食センターを運営してくってという姿勢が必要なんだと思うんですよ。どうでしょうか。

○委員長（馬場又彦君） 学務課長。

○学務課長（夏堀常美君） 川守田議員おっしゃるとおり、施設の作り自体が個室化と言いますか、分かれておりまして、作業員が自由に入出入り、移動できないという部分は確かにございます。

そういう部分で、人員の削減というのは非常に厳しい部分がございますが、労働時間の短縮と申しますか、そういう部分では、この部分は今まで洗浄が3時間かかっているんですけども、例えば2時間半で済むとかですね。そういう部分での対応。あるいは先ほどおっしゃいましたんですが、水道、光熱費等のこまめな節減等でですね、いくらかでも経費を削減していくことが重要かなと考えてございます。以上です。

○委員長（馬場又彦君） はい。川守田稔君。

○15番（川守田稔君） 「わかっちゃいるけど、どうしましょう」という状況だと思うんですけど、この件に関してはそれ以上言いません。言いません。後で、明日でいいですから、衛生管理のですね、チェックシートみたいなひな形を資料としてください。当然、やってらっしゃるんだと思うんですけど、危害分析して集中管理ポイントっていうのを設定してっていうことはなさってるんでしょうから、それに対応したチェックシート等をですね、ひとそろえご用意いただければと思います。以上です。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。ほかに質疑ございませんか。

（「質疑なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

討論を行います。討論ありませんか。

（「討論なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

議案第83号を採決します。本案は原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） ご異議なしと認めます。

議案第83号は原案のとおり認定されました。

◎議案第84号の上程、説明、質疑、討論、採決

○委員長（馬場又彦君） 議案第84号、平成24年度南部町農林漁業体験実習館事業特別会計歳入歳出決算認定についてを議題とします。

本案について説明を求めます。商工観光課長。

○商工観光課長（福田修君） 149ページをお願いいたします。議案第84号、平成24年度南部町農林漁業体験実習館事業特別会計歳入歳出決算認定についてご説明申し上げます。

まず、歳入からご説明いたしますので、154ページ、155ページをお願いいたします。歳入1款、使用料及び手数料1項1目農林漁業体験実習館使用料でございます。予算現額といたしまして1節の農林漁業体験実習館使用料、1,293万円。収入済額が1,247万8,729円となっております。これは体験実習館使用料でございます。

2款財産収入、1項1目財産売払収入、1節の物品売払収入でございますけども、予算現額3,538万円、調定額が3,647万2,480円、収入済額3,647万2,480円、これは食費等の売払収入となっております。

3款繰入金、1項1目一般会計繰入金、1節の一般繰入金予算現額では2,642万1,000円、調定額で2,510万円、収入済額2,510万円、一般会計から繰入金となっております。

4款繰越金、1項1目繰越金、1節の繰越金は予算現額で9万9,000円、調定額で9万9,913円、収入済額9万9,913円、前年度からの繰越金でございます。

5款諸収入、1項1目の雑入、予算現額では1,000円を予定しておりましたけども、ゼロとなっております。

収入合計でございます。予算現額7,483万1,000円に対して、調定額7,415万1,122円、収入済み額7,415万1,122円となっております。

次のページをお願いいたします。歳出でございます。1款総務費、1項1目管理運営費でございます。予算現額7,473万1,000円、支出済額7,408万9,775円、不用額として64万1,225円となっております。7節の賃金のところでございますけども、不用額が41万2,337円となっておりますけども、これは宴会等がふえてきているということで、大型免許を所有した臨時職員を探すということをお願いしましたけども、なかなか職安等に途中で応募をかけても応募してもらえなかった

ということがございまして、不用額となって出ているものでございます。あと、需用費等はですね、館内の消耗品それから燃料費、重油等。それから高熱水費。それから修繕料、施設の老朽化に伴って修繕している部分がございます。それから、賄材料費が1,658万2,644円これは予定していた賄材料費よりも若干少なめになっております。と言うのは、レストラン、それから宴会の利用者が予想より少なかったということがございます。役務費につきましては、通信運搬費、電話・インターネット、それから各種手数料、保険料、それから一番大きいのがクリーニング料、リネンのクリーニング料となっております。委託料に関しましては、施設管理のための浄化槽、それから電気設備、機械設備、エレベーター等の管理委託でございまして、使用料及び賃借料につきましては、使用料はダスキン、それからカラオケ。ダスキンは賃借料になります。借上げになります。カラオケ著作権とか、カラオケの楽曲ですね、そういうものが入っております。借上料につきましてはダスキン、それからカラオケの機械、コピー、それからテレビの受信料そういうものがございます。負担金補助及び交付金につきましては、退職手当組合の負担金が主なものでございます。それから、公課費といたしまして、主なものは消費税でございまして、

2款の予備費、1項1目予備費、予備費として10万円予算現額でございまして、支出済額がゼロでございまして、不用額となっております。

歳出合計、7,483万1,000円の予算現額に対しまして、支出済額が7,408万9,775円、不用額合計で74万1,225円となっております。

次のページお願いいたします。実質収支に係る調書でございまして、1、歳入総額が7,415万1,000円、歳出総額が7,409万円、歳入歳出差引額が6万1,000円、実質収支額が6万1,000円ということになってございます。

ちなみに、利用状況でございまして、利用者数は23年度に比較して、ほとんど変わっておりません。15人ほど減っておりますけれども、約3万9,000人の利用者でございまして、ただ、ふえたところが、入浴者が23年度に比較して1,100人ほどふえてございます。宿泊は大体、前年度と同数となっております。それで、減ったところが、宴会が約800人ほど減っております。それから、レストランの部門で約400人ほど利用者が減っていると。トータルの利用者数は変わっておりませんが、お金が入る部分の利用者の部分が若干減っております。この入浴者のふえた部分は、一般の方もございまして、高齢者の入浴料が無料になってございます。65歳以上、70歳以上。対象人口が全町内で6,183人ございまして、使っていただいた方が大体、3,000人位です。そのほかに、送迎のための引率者、一人だけ無料で入浴させておりますので、実質は大体、

6,300人の2割位が使っていたらと。そこがふえた要因ではないかと思っております。それで、宴会の方の減った部分でございますけども、客単価が高い法事関係が約40件ほど減っております。人数的には800人位…（「聞かれたら答えろ」の声あり）…になっております。以上で説明を終わります。

○委員長（馬場又彦君） 説明が終わりました。質疑を行います。質疑ありませんか。6番、沼畑俊一君。

○6番（沼畑俊一君） 今、課長さんの方から説明がありましたけども、お客さんが減っていないというふうな、そういうことだと思いますけども。やはり、我々、利用してますと冬場っていうのが大変利用し辛いというふうな感じがします。それで、季節的なお客さんの変動とかその辺は、ありましたら教えていただきたいと思います。

○委員長（馬場又彦君） 商工観光課長。

○商工観光課長（福田修君） 季節的なものでございますけども、23年度と比較いたしまして、7月、8月が約500人ずつ位、利用者が減っております。あとは11月、12月大体、ここは宴会が入ってきてはありましたけども、若干、去年は伸びなかったというところがございます。あとはですね、1月に関しましては逆に300人ほどふえております。どういう理由かわかりませんが、若干、去年は減ってございましたけども、今年は逆に合宿等色々、体協とか学校の先生方とか色々考えてくださってございまして、合宿でかなりの数の利用者は伸びてきているところでございます。以上です。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。6番、沼畑君。

○6番（沼畑俊一君） 私、行くのは風呂だけなんですけども、やはり、イベントあるいは合宿、それから町内会等の総会等がですね、利用しているようですけども。やはり、PRと言いますか、その辺を各納税組合なり町内会その辺やればもう少しお客さんがふえるのではと思いますので、よろしく。

○委員長（馬場又彦君） 商工観光課長。

○商工観光課長（福田修君） 提言いただきましてありがとうございます。私たちもその辺は一生懸命取り組んでいきたいと思っておりますので、今後とも一つ、ご協力よろしく願いいたします。

○委員長（馬場又彦君） ほかに質疑ございませんか。

（「質疑なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。
討論を行います。討論ありませんか。

（「討論なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

議案第84号を採決します。本案は原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 異議なしと認めます。

議案第84号は原案のとおり認定されました。

◎議案第85号の上程、説明、質疑、討論、採決

○委員長（馬場又彦君） 議案第85号、平成24年度南部町ポートピア交付金事業特別会計歳入歳出決算認定についてを議題とします。

本案について説明を求めます。企画調整課長。

○企画調整課長（坂本與志美君） 159ページをお開きください。議案第85号、平成24年度南部

町ボートピア交付金事業特別会計歳入歳出決算認定について、ご説明いたします。

まず、歳入からご説明いたしますので次の160ページをお開きください。歳入であります、一番下の歳入合計欄、予算現額655万円に対しまして、調定額、収入済額とも880万7,222円で、予算現額と収入済額との比較では225万7,222円の増となっております。前年度に比較いたしまして60万2,941円、7.3%の増となっております。理由といたしましては、前年度の繰越金が304万6,039円でした。前年度に比較して46万8,221円の増となっております。それから、みどり市からの環境整備協力費として、「ボートピアなんぶ」の売り上げの伸びによりまして、前年度に比較して2.4%増の576万1,183円でありまして、金額では13万4,718円の増となっております。

次に、162ページをお開きください。歳出であります。一番下の欄の歳出合計であります、予算現額655万円に対しまして、支出済額は448万9,537円で206万463円の不用額となりました。

支出済額の主なものについては、167ページをお開きください。8節の町道清掃作業への報償費であります、41の町内会に107万9,450円、14節の町道維持管理の機械借上料に、126万8,400円、16節の町道補修材料として59万4,687円を支出して、町内の環境整備に役立てております。次の19節では、24年度実施いたしました、自主防災組織の活動助成金として、6団体に13万6,000円、19年度から実施しております笑顔あふれるまちづくり支援事業助成金として、24年度は、9団体に141万1,000円となっております。

最後になりますが、次の168ページをお開きください。実質収支に関する調書であります、歳入総額が880万7,000円。歳出総額が448万9,000円。歳入歳出差引額及び実質収支額は431万8,000円となり、この額は翌年度へ繰り越しとなります。

以上で説明といたします。よろしく願いいたします。

○委員長（馬場又彦君） 説明が終わりました。

質疑を行います。質疑ありませんか。

（「質疑なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

討論を行います。討論ありませんか。

（「討論なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

議案第85号を採決します。本案は原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 異議なしと認めます。

よって、議案第85号は原案のとおり認定されました。

◎議案第86号の上程、説明、質疑、討論、採決

○委員長（馬場又彦君） 議案第86号、平成24年度南部町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定についてを議題とします。

本案について説明を求めます。健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 169ページからになります。議案第86号、平成24年度南部町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定についてご説明いたします。

ページの172、173をお開きください。一番下段になります。歳入合計、収入済額が28億8,965万3,544円となっております。

次に、ページの176、177ページをごらんください。一番下段になりますが、歳出の合計が28億4,076万7,147円となっております。歳入歳出の差引額が4,888万6,397円。このうち、3分の1以内の額を基金に繰り入れするものであります。1,615万2,000円を基金として、残りを繰越金として平成25年度に繰入するものであります。

次に、歳入の主なものについてご説明します。次のページをごらんください。1款国民健康保険税、1項1目の一般被保険者国民健康保険税になります。国民健康保険税の総額は6億831万7,472円。平成23年度と対比しますとおよそ1,114万円程度が減額となっております。調定に対する収入済額は69.2%となっております。1目の一般被保険者国民健康保険税、1節の医療給付費分現年課税分をご説明しますと、調定額が4億3,671万8,124円に対し、収入済額が4億546万3,188円となり、92.8%の徴収率となっております。

次に、一番下段の方になりますが、3款国庫支出金、1項1目の療養給付費等負担金になりま

す。収入済額は、5億2,330万6,622円となっておりますが、内訳については次のページをごらんください。180ページ、181ページの一番上段になります。1目療養給付費等負担金の内訳は備考欄にございます。一般被保険者療養給付費等が3億6,109万5,816円。後期高齢者支援金分として1億472万2,317円。介護納付金としまして5,748万8,489円となっております。これは、療養給付費、国が負担するべき34%に相当する額となっております。

次に、3款2項1目、国庫補助金の財政調整交付金ですが、中段になります。これは、国の負担するべき療養給付費の9%に相当する額となっております。収入済額は2億3,718万1,000円となっております。内訳は、備考欄の方についており、先ほどの療養給付費国庫負担分の説明と同じような部分で、9%の負担率となっております。

次に、5款の前期高齢者交付金、1項1目の前期高齢者交付金ですが、これは、社会保険診療報酬支払基金からの歳入となるものでありまして、退職被保険者にかかわる部分でございます。4億8,395万4,086円となっております。

6款の県支出金になりますが、一番上段の1目、高額医療費共同事業負担金は、レセプトの1件当たり80万円を超える高額療養費にかかわる部分でございます。高額医療費の共同事業としまして、収入済額が1,395万2,112円となっております。

次のページをごらんください。2項県補助金、1目県財政調整交付金。国は9%の負担率ですが、県は7%の負担率となっております。療養給付費の7%の負担分が、1億4,462万6,000円となっております。

次に7款です、共同事業交付金。これは、1目と2目二つに分かれておりますが、レセプト1件当たりの80万が1目の高額医療共同事業交付金。1件当たりの30万以上の高額療養費が保険財政共同安定化事業交付金の対象額となるものであります。合わせて、3億264万9,494円の歳入となっております。

それから、下段になります。9款の繰入金、2項1目の一般会計繰入金は、2億4,588万2,997円となっております。

次のページをお開きください。184ページ、185ページになります。下段のほうにございますが、11款諸収入、2項雑入とございます。1目の一般被保険者第三者納付金としまして、279万4,539円という収入済額がございますが、これは、一般被保険者の第三者納付金3件の収入となっております。第三者行為というのは、交通事故等の加害者から支払われるものであります。

次に、歳出の主なものからご説明します。190ページ、191ページをお開きください。中段にな

ります、2款の保険給付費になります。支出済額が17億3,523万8,220円。この額は、前年度より2%ほどの減となっております。それから、1目の一般被保険者療養給付費は、支出済額が14億3,027万6,028円となっております。これは、前年度に比べ2.8%ほど減額となっております。

次の2目の退職被保険者等療養給付費は、支出済額が8,478万3,179円で、前年度に比べ276万円ほどの増となって、増額の傾向となっております。

次に、下段の2項高額療養費。こちらのほうは、支出済額が1億8,981万1,971円となっております。前年度に比べて0.7%の増額となっております。

次に、192ページ、193ページをお開きください。中段になります、3款後期高齢者支援金。これは、3億4,712万6,151円で、前年度より5.4%増額となっております。

次に、194ページ、195ページをお開きください。中段よりやや上になりますが、6款の介護納付金、1項1目介護納付金。収入済額が1億8,036万3,621円となっております。前年度比で5.7%ほどの増額となっております。

次に、その下の7款の共同事業拠出金、1項1目高額医療費共同事業拠出金。それから、2目の保険財政共同安定化事業拠出金。これは、歳入の際にご説明しました高額1件当たりの80万及び30万で区分されるものでありますが、合計で3億2,468万8,097円の支出となっております。

次に、8款保健事業費です。196ページと197ページをごらんください。2項保健事業費、2目国民健康保険保健指導事業の備品購入費ですが、58万2,750円の支出は、血管年齢測定器を1台購入したものです。3項、総合保健事業費は健康センターの整備に伴い、新たに設けた項ですが、委託料として設計管理業務221万4,960円。健康センター建設工事として、7,308万円を支出しております。

9款の基金費、1項1目の財政調整基金積立金としまして支出済額が2,728万9,330円となっております。

次の200ページをお開きください。実質収支に関する調書となります。歳入総額28億8,965万3,000円。歳出総額28億4,076万7,000円。歳入歳出の差引額が4,888万6,000円となり、実質収支額が4,845万8,000円。うち、基金の繰入額が1,615万2,000円となります。

以上で説明を終わります。

○委員長（馬場又彦君） 説明が終わりました。

質疑を行います。質疑ありませんか。14番、立花寛子君。

○14番（立花寛子君） ページは178ページ、歳入の1項目です。1款1項1目1節から6節にかけての不納欠損額と収入未済額、これらの数字は大きくなることはあっても、少なくなることは期待できないと思います。それだけ、国保税は高すぎることを意味しているのではないのでしょうか。どのようにお考えでしょうか、1点質問するものでございます。

○委員長（馬場又彦君） 税務課長。

○税務課長（谷内恭介君） 立花議員おっしゃるとおり、収入未済額、不納欠損額等の少なくなることはないだろうということでございますけれども。私たち税務課の職員といたしましては、いくらかでも徴収率を上げて。国保につきましては目的税ということになってございますので、いくらかでもそちらの方で収入を増やしてですね、そちらの方へ向けていただきたいという感じで、滞納者の方々にもお願いしながらですね、説明をして何とか納めてもらうような方向で進めてございますので。どうしてもですね、生活的な余裕部分でうちの方でも滞納者の中で「納めれない」と言う方があれば、これはもう調査して欠損という形がありますけれども、調査の段階で所得があったり、財産があるとなれば差押えというふうな形にもいきますけれどもですね。まずは、滞納している状況をきちんと把握しながら、納めていただくような説明でですね、努力を図ってまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

○委員長（馬場又彦君） 14番、立花君。

○14番（立花寛子君） これは、今のお話しのとおり国保税が高過ぎるがために、滞納されている方がふえているということもこの数字で表されていると思います。様々、ご努力されているのは存じております。ぜひ、丁寧な対応をしていただくように、生活再建の相談にも丁寧に乗っていただくようによろしくお願いいたします。

次の質問です。201ページ。財産に関する調書。財産に関する調書、基金、区分、国民健康保険特別会計財政調整基金（現金）は、決算年度末現在高3億2,296万7,000円になっております。様々な理由を述べて基金を積み上げてきたと思いますが、3億円以上の基金では取り過ぎではないのでしょうか。どのようにお考えでしょうか。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 基金の残高につきましては、昨年12月にも今現在のどの程度見込めるかということで、その時は、その前年度の基金残高をお答えしましたが。現在ですね、24年度の収支差引額で4,800万ほどのうち、1,600万積立ということで結果的には3億2,296万7,000円になっております。今、昨年度ですね、医療費全体の2%強ですね減っております。予算自体は平年並みということでやっておりました。その結果ですね、平成24年度の国・県からの交付金の返還。その分返還しなくちゃいけないわけなんですけど。それがですね、4,000万ほど見込まれます。結果的には、今の段階で24年度決算につきましては、返還金を加味すると、とんどの会計の状態です。それともう一つですね、積み立て金額が多いのではないかとということですけど、指導によって3億程度は積まなくてはならないということで、達成したわけなんです。今後については、この額が大きければ、委員がおっしゃるとおり保険料の見直し、改定が検討しなくちゃなんないかと思います。今現在、国で消費税の増税について論議されております。医療費については消費税が加味されておられません。次の増税の時にじゃあどうなることかということで論議されておりますけども、今の段階で言えることは、医療費がなるかもしれないし、診療報酬の改定に繋がるかもしれない、どちらかになると思います。その結果、どっちに転んでも医療費の増には繋がると思います。その結果、国保会計は赤字になって行きますので、3億基金がある中で、どうやって、やっていくかというのは今後ですね、国保運営協議会も含めて検討してまいりたいと思っております。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 14番、立花君。

○14番（立花寛子君） こういうやり取りは、何回もこの場でも行われてきましたけれども、他の自治体の基金状況を見ましても、大変厳しい状況の中で、住民サービスとして行っているのですので、「明らかにこの3億円以上の基金は高過ぎる。何としてでも手をつけていただかなければならない。」と言うことを訴えておきたいと思います。

一方で、国保が高過ぎて払えない世帯は、どんどんふえているわけですので、この点を十分にご検討いただかなければなりません。そこで、減免制度の充実こそ、今こそ必要ではないでしょ

うか。窓口に行って、申請減免という制度がありますが、何とかこの申請減免という制度を理解していただきたいのですけれども、分納しか認められない。国保の総額は、まったく引き下げていただけないということで、大変、苦勞しております。住民税非課税の世帯では、様々な7割、5割、2割とかの減免などはあるんですが、そういう制度から、制度にくみされないところでも苦勞されているのですから、そういう意味でも申請減免を確立して、創設していただきたい。それとともに、減免制度はあるわけですが、その町長が認めた場合引き下げできるという一項目がありますので、生活苦などの中でも、減免制度の中に組み入れるように制度の整理をしていただきたいと思います。基金はある程度整理し、国保加入者に返還すべきであるとともに、国保税の引き下げを要望いたしますが、どのように考えておられるでしょうか。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 引き下げを要望するということですが、これにつきましては、先ほど申しましたように平成24年度末で確定しております。また、返還金についても精査、精算されていきますので、実質どのくらいの基金として利用できる額かというのはわかるかと思えます。その段階で、当然、今、消費税の話しましたが、来年度の医療費支払いも含めて安定的な運営をしなくてはならないので、2年、3年程度でどうのこうのということではなくて、5年なり、国保会計の運営が円滑にいくように見据えた上で、国保運営協議会という委員会がありますので、そのところで論議してもらいたいと思います。以上です。

※川守田稔君 退席

○委員長（馬場又彦君） いいですか。ほかにございませんか。5番、夏堀文孝君。

○5番（夏堀文孝君） ページ数は197ページ。3項1目15節工事請負費、健康センター建設工事についてお訪ねをいたします。名川病院の方で聞こうかなと思ったんですけど、ここでも工事請負費がでてますので、こっちの方で聞きたいと思いますが。

前回の議会で医療健康センター建設工事の町内の下請け業者等の状況ということで、書類を提出していただきました。この書類によりますと、まだ今後に予定という部分もございまして、能

力の無い業者ということでも載っております。色々と聞き取りをしてみますと、町内の業者でもやはり、「見積もりは出させていただいた」と。商工会の工業部会の方でも、元請けさんの方に出向いて、「見積もりだけでもさせてほしい」ということで、お願いをして見積もりを提出したということがございますけども。ほとんどが、見積もりの半額以下ということで、「なかなか受注は難しい」という話を聞いております。落札率が85%で落札して、いざ、下請けに出るときには半額以下と。こういった現状があります。そういった中でですね、町も町内の業者をなるべく使ってほしいという要望はだしているとおもいますが、こういった現状について、町はどのような見解をお持ちでしょうか。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 今回、前回の臨時議会の方で資料、知りたいということで。私も元請け業者さんの方には、町内の業者さんをできれば参加させてもらいたいということで、元請けさんの方はそのまま、町内の業者さんを優先的に打診しているってことで話しは聞いております。その金額等については今知りましたが、先ほど委員おっしゃった落札率からいってそれ以上に低いということですが、この点については、落札の結果そのようになったと思いますし、そのことについて、落札の金額から言って、やむを得ない金額なのかもしれないですし、落札についてこちらの方でどうも言うことはできません。設計価格に基づいています。設計価格については、無駄を省いてできれば、なるべくランニングコストのかからない施設ということで、設計しましたし、金額自体は通常的设计価格よりは、大分、質素な形になっていると思います。その段階から、外部発注どの程度になるかというのは、依頼だけはお願いしましたが、金額についてどうしても合わなければ、それは合う業者さんがやっていくしかないのかなということになるかと思えます。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 5番、夏堀君。

○5番（夏堀文孝君） まさしく、そのとおりなんですよね。やはり、落札した業者に権限がありますので、何ぼ安い下請けを使おうが、それはしょうがない。これは、現実であります。ただ、やはりこういった大型工事が出た時にですね、できるだけやはり町内の利益、業者の利益に繋が

るのがあればいいなという思いで、町側も町長もそういう思いでお願いはしていると思いますし、それ以上の強制力を持つとなると法的にも問題が出てくると思います。ですけれども、そういった現状が実際、あるということを知っておいていただきたい。

それから、利益。結局、ゼネコンさんが頭で取ってしまうと利益が出ても本社こちらに無いものですので、法人税は町にも入らない。やはり、こういった大きい工事でも、入札の際の必ず大手さんでなくても分割すればできるのかなという思いもしています。実際見てみますと。そういったところも、今後こういった大型の工事は見通しはないわけではありますが、記憶に残しておいていただきたいなと思います。

それからですね、町内に能力の無い業者、鳶とか土工事とか様々ありますけども、現場見てみますと他県の車がすごく多いです。ということは、他県からこの現場に来てるわけですね。そうすると、宿泊をしています。ほとんどの職人さん達は、八戸市内の安い宿泊所に泊っています。こういったのも本当にもったいないんですよね。バーデ、チェリウス、宿泊施設がある中で、やはり、そういった工事関係者には少し安くして泊っていただくとか、あとはやはり、お願いに行なってなるべく使ってもらおうとか。そういった努力もしていただきたい。そういった申し入れをしたのかどうかをもう一度、お訪ねします。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 申し入れは行っておりません。ただ、町内の施設を使うことだけはお願いはしました。できればですね、私の希望とすれば連続した宿泊については何らかの安い方策とかがあればとは思っております。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 5番、夏堀君。

○5番（夏堀文孝君） 健康福祉課の問題だけではないと思うんですけれども。こういったものがやっぱり、大きい20億もの工事になると、様々、付帯するものが出てくると思うんですよ。そういったものをやはり、有効に町内の利益に繋げていく努力を町側もしてほしいなと要望して終わります。

※川守田稔君 着席

○委員長（馬場又彦君） ほかにございませんか。2番、八木田憲司君。

○2番（八木田憲司君） ページ数193ページ。2款、節で19節ですね。負担金補助及び交付金のところで500万。金額で出てます。それで、支出済額が235万とありますが、こちら利用する制度の内容をちょっとお知らせいただければと思います。執行状況ですか。その辺をちょっと説明いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 委員おっしゃった葬祭費ですよね。葬祭費につきましては、5万円被保険者のほうの方にお支払いしております。結果的にはこれを5で割れば出てくることとなりますけども。以上です。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。2番、八木田君。

○2番（八木田憲司君） 単純にこれは、1人あたり5万円の支給ということでしょうか。

○健康福祉課長（高森正義君） 委員お察しのとおりでございます。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。ほかに質疑ございませんか。

（「質疑なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

討論を行います。討論ありませんか。14番、立花寛子君。

（14番 立花寛子君 登壇）

○14番（立花寛子君） 2012年度南部町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について討論を

行います。

低所得者が多く加入し、保険料に事業主負担も無い国保は、適切な国庫負担無しには成り立ちません。国の責任で、国保税を一人1万円引き下げを提案しています。

町の努力として、国保加入者への負担軽減はやろうと思えば、できることであります。国保税引き下げなど、国保加入者の負担軽減を訴え、反対討論といたします。反対討論を終わります。

○委員長（馬場又彦君） ほかに討論はありませんか。

（「討論なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

議案第86号を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

（起立多数）

○委員長（馬場又彦君） ご着席ください。起立多数です。

よって、議案第86号は原案のとおり認定されました。

ここで11時20分まで休憩いたします。

（午前11時08分）

.....
○委員長（馬場又彦君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

※根市久夫君 退席

※工藤久夫君 退席

※川井健雄君 着席

（午前11時20分）

.....
◎議案第87号の上程、説明、質疑、討論、採決

○委員長（馬場又彦君） 議案第87号、平成24年度南部町介護保険特別会計歳入歳出決算認定についてを議題とします。

本案について説明を求めます。健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 203ページになります。議案第87号、平成24年度南部町介護保険特別会計歳入歳出決算認定についてご説明いたします。

初めに、208ページ、209ページをお開きください。歳入の主なものからご説明いたします。上段の1款保険料になります。1項介護保険料、収入済額が3億6,571万9,387円となっております。1目の第1号被保険者保険料は、現年度分で3億3,259万9,775円、100.1%の収納率となっております。2節の現年度分普通徴収保険料は、3,132万4,900円の収入済額で、これは89.1%の徴収率となっております。

次に、中段になります。3款の国庫支出金、1項国庫負担金、1目の介護給付費負担金は4億954万7,000円の収入済額となっております。これは、介護サービス給付費の国の負担金であります施設サービスの分が15%。その他、居宅にかかわる部分が20%の負担分に相当する額となっております。

次に、2項国庫補助金、1目の調整交付金。収入済額が、現年度分が1億9,841万7,000円となっております。調整交付率は、平成24年度は9.07%となっております。介護給付費の9.07%の相当額となっているものです。

次に、210ページ、211ページをお開きください。一番上になりますが、4款の支払基金交付金、1項1目介護給付費交付金は6億5,819万3,571円で、社会保険診療報酬支払基金より基金の負担分の29%に相当する額となっております。

5款の県支出金、1項1目の介護給付費負担金になりますが、収入済額が3億2,412万3,480円。これは、介護給付費の施設費に関する部分の17.5%、居宅のサービスに関する部分の12.5%に相当する額となっております。

次に212ページ、213ページをお開きください。一番上段になります。7款繰入金、1項1目の介護給付費繰入金。収入済額が2億7,986万256円となっております。現年度分で、介護給付費繰入金は町負担分の12.5%に相当する額となっております。

下段になります。8款繰越金1項1目の繰越金は1,320万4,345円となっております。

次に、218ページ、219ページをお開きください。歳出の主なものからご説明します。2款保険給

付費、1項1目の介護サービス等諸費となりますが、これは要介護度の1から5の認定者のサービスに資する歳出でございます。支出済額は20億3,789万467円となっております。前年度に比較して6.1%の伸びを示しております。それから中段より若干下ですが、6目の介護予防サービス等諸費になります。支出済額が6,323万3,322円。これは要支援の1、2への認定者へのサービスとなります。7.9%の増となっております。

次のページをお開きください。次に、中段よりやや下の2項包括的支援事業・任意事業費というものがございしますが、これは介護予防に関する諸事業を行ったもので、1,664万3,355円の支出済額となっております。

次に226ページをお開きください。実質収支に関する調書となります。歳入総額は23億4,598万7,000円。歳出総額は23億3,198万7,000円。歳入歳出差引額は1,400万円。実質収支額1,400万円となっております。

以上で説明を終わります。

○委員長（馬場又彦君） 説明が終わりました。

質疑を行います。質疑ありますか。14番、立花寛子君。

○14番（立花寛子君） ページ数は208ページ。歳入のところですか。歳入1款1項1目1節から3節まで、国保と同じように不納欠損額と収入未済額があります。

この説明は、結構でございます。先ほど国保のところでも職員の皆さんも大変ご苦労して、いる状況もありますし、一方では、今は介護保険料の点で大変苦労されているお年寄りの皆さんが多いことを、この介護保険料が高くて、支払いきれないと多くの皆さんが言っていますが、その実態がここに表れているのではないのでしょうか。このやり取りについてお考えがあればお聞きするものです。その他、数点ありますのでよろしく願いいたします。

○委員長（馬場又彦君） 14番。

○14番（立花寛子君） 要するに介護保険料が高くて、支払いきれない現実を関係課の皆さんがきちんとお汲み取りになっているのかどうか、そういう介護保険制度そのもののやり取りをしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 保険料につきましては、国保税も同じなんですけども、ペナルティーもあります。現実的にありますし、保険料につきましても、介護保険につきましても6段階。所得なりに応じて定めております。委員ご質問のことは、低所得者に関するものだと思いますけども、かなり安い部分で適用になっているはずですよ。

そもそも、介護保険料決めて、基準額月額5,400円、それより高いものは25%増し、50%増しという設定ありますが、その方については、ごく少数の方です。多くの方は基準保険料より低い方になります。その中で、その大変だということで、こちらの方としましても、大変さという方につきましては、できるだけ滞納しないようお願いしている。滞納している理由の中で、事情があって、家族に病気がいる方等の事情にありましては、配慮していると。ただ、保険料として集めているわけですので、事情が無い限りはなるべく滞納の無いようお願いしているということで取り組んでおります。以上です。

○委員長（馬場又彦君） いいですか。14番、立花君。

○14番（立花寛子君） 現実には、低所得者の皆さんは低い保険料を納めていただいていると、そういう感覚でしょうが。これは、ある程度収入のある方のほうの介護保険料の割合は低く抑えられております。そういう現実もあるということを見ていただきたいと思います。

こういう払いきれないと苦労している一方で、サービスのことに関してですけど、218ページの歳出。先ほども説明がありました。2款1項保険給付費、1目介護サービス等諸費についてありますが、当初予算額は19億7,520万4,000円、その後、8,530万円補正しながら、不用額は2,261万3,533円という金額になっております。これは、どういうことを表しているのでしょうか。まず、1点質問いたします。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 当初予算について、かなり予算規模が予算というか、決算額が

大きいということですが、これにつきましては、震災の際にですね3月11日に起こったわけなんですけど、その後、通所事業所の閉鎖とか修理のために、かなり利用率が低くなりました。その分を含んだ予算を組んだために、起こったものとなります。

それから、不用額として出た2,200万円ですけど、これにつきましては率にして1%程度ですので、給付はですね、1カ月以上経ってから請求が来て払いますので、2か月遅れとなっておりますので、給付事業やっている以上、このパーセントは大きいものではないと考えております。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 14番、立花君。

○14番（立花寛子君） 様々な理由で予算も確保しなければならないのですが、その一方で、その介護サービスを利用される方はそのつど、介護利用料を支払ってサービスを受けるわけですが、利用料を払いきれないがためサービスを中止せざるを得ないそういう方もたくさん居られることをご認識なさっておられるでしょうか。

私はまず、不用額を過大に見積もって、それが介護保険料の金額に反映されているのかということでもとめたんですけども、やはりもともとの考えの介護保険料支払う金額が高いがための今のやり取りになっておりますけれども、介護サービスを受けられない。サービスを中止したり、少なくしているという現実をまず、認識なさっているのかどうかをお聞きしたいと思います。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） サービス制限をしておられる方がいるっていうことでしたけども、この件につきましては、これからですね一つ、利用者に、利用する家族について最初の月とか状態が変わった場合、要は要介護度が変わった場合ですね。以降、もっと利用したい。減らしたい。という調査とか、そのサービスに対して満足しているかということで、確認を取っていきたいと考えております。それが1点。

もう一つはですね、抑えてるかということですが、現実的に給付状態からいきますと認定審査を受けた方でサービスを受けていない方、今は一人いるかいないかだと思います。割合につきましては、県内で一番認定を受けた方の利用率は高いものとなっているのが現状ですので、直接

的な相談も来ていませんし、わからないんですけども、今後は利用者本人、介護者、家族からの意向も確認してまいりたいと思っております。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 立花君。

○14番（立花寛子君） また保険料の問題なんですけども、介護保険料の限りない引き上げで将来、介護サービスを受けられない人数、これは介護保険料は40歳から支払うことになっておりますが、その中で、滞納とか支払わない。支払えない。と相談受けるとか、こういうことが実際、数字上出ているのかどうか。現実の姿をお聞かせください。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 委員ご質問の40歳、65歳というのは介護保険が始まったのは平成12年度です。その時に国全体の高齢化率を元手に世界中で2番目位に制度を発足したわけなんですけど。この「支払える」「支払えない」につきましては、今現在南部町の高齢化率高くなっております。これの中の後期高齢者については今はピークに近くなっております。今後、7・8年は増加するものと思われませんが、そんなに多くはふえないと。そこら辺が町にとっての後期高齢者、一番介護保険サービスを使う人数が一番大きい時期がもう少しで来ると。ですので、今国が後期高齢者がふえていくということで、新聞・テレビ等で放映されていますが、当町はもうその段階にきていると。ピークの方に近付いているということで、今高齢者の介護サービスが必要な方にとって、供給している。できていれば、これは町にとって高齢者にとってすごくいいことではないのかなと思います。今後、減少に転ずる時期がいつかはくるわけなんですけど、その時期が見えてくるのは10年位先になると思われますけれども、その段階までどうなのかなと。町の高齢者に対するサービスの提供状況からいくと施設サービスも十分だと思いますし、在宅サービスもこれまで決して断ることのないよう供給体制をとってきていましたので、大丈夫かなと思います。委員おっしゃるとおり、その「払えない」ということにつきましては、生活保護の陳情もあったわけなんですけども。以前あった時にお答えしましたが、現実的に大変な人が本当に生活保護を受けているのかということに繋がるとは思いますけども。現実にはそういう方で、我慢している方もおられます。その方々に関して落ち度が無いように。切り詰めたすごい生活しないよう

な形ですくい上げていかないと委員おっしゃるとおり、大変なまま暮らすことになりかねないということで。介護保険に限らず、低所得者のある一部の人間で非常に落ちこぼれているというか制度に乗っかっていない人については、そんなことが発生しないように努めてまいりたいと考えております。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 立花君。

○14番（立花寛子君） 一見大変親切な答弁のように聞かれるのですが、実際はほとんど介護保険料、利用料の実態が反映されていない。「大変、残念な認識を持っている」としか言いようがありません。「多くの皆さんの介護保険料、利用料納めている生の声を聞いていただきたい」と言うしか訴えようがないようであります。

次に進みませんとあれですから。先ほど、説明がありました218ページと219ページにかけての2款保険給付費の6目介護予防サービス等諸費についてであります。備考を見ますと大変詳しく説明ありますけれども、「要介護1・2の皆さん方の介護サービスを中止する」と言いますか、「介護サービスから除ける」と言いますか。対象外にするという情報が流れておりますが、どういうことになるのでしょうか。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 今、委員しゃべっていることは間違いがあるかと思えます。要支援1・2。それから、これは介護予防事業に伴ってやってる対象者になります。それが切り捨てになるとかではなくて。昨年ですね、社会…。ちょっと名前忘れましたが。ある委員会に介護保険、これから都市部で後期高齢者がふえていきますので、大変なことになると。給付が間に合わない。ということで、その結果どういう結論になったかという低い介護度、軽いレベルの方については、市町村の方で責任もって対応してもらう。結果、介護保険制度から外すということですね。今現在、うちの町でその介護予防、要支援1・2に対しては、市町村の何らかの判断もあって、若干任せられてる部分もあります。その部分ですね、当初から介護予防については、市町村に任されることになるということが、そのままそのとおりになりそうです。確か17年度から全面的に市町村に任されるということが報道されていましたが。そのことについては、要はで

すね、介護保険が始まる制度前と同じことだと思います。市町村の考えで、恐らく補助金事業になるとは思いますけれども。国で考えているのは、人口規模、恐らく後期高齢者数の人数に応じて限度額を設けて、「その範囲の金額の中で対応してください。」というふうなやり方がとられるかだと思います。ですので、委員おっしゃるとおりたまたま財源が介護保険特別会計から分かれるということで、住民側にとってみれば、利用する側にとってはあまり変わらないのかなと考えております。以上です。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。立花君。

○14番（立花寛子君） どうも住民の皆さんが心配している気持ちが伝わっていないようなのですが。サービスをまったく下げないで今のままやって行けるのか。措置費として、国の支援が万が一無いとして、今のような状況で町が負うとなれば、また、財政問題でもやり取りがあるんでしょうけども。その点は、どういうふうにご理解なさっているのでしょうか。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 介護予防事業につきましてですね。前に戻る。介護保険制度前に戻るというのは、市町村独自の事業を考えてやっていけるということです。今までそれをやっても認めてもらえていませんでしたので。ですので、市町村の考え方によって大分、この事業については変えることができます。ですので、今、このように5項目載っていますけど、この部分についても工夫していくというのが一つ。

それから、これは介護保険利用する。利用しないようにするというので、介護予防になりますので、住民側にとってその違和感はないかとは思いますが。介護予防ですので。介護予防事業を町が責任持ってやっていくということで。国が考えた制度から外れるわけなんですけども。財源につきましてそれなりにこれまでどおり、福祉関係であれば4分の3補助が基本でしたので、そのようなやり方に変更になってくるのかなと考えております。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 立花君。

○14番（立花寛子君） これは、介護保険制度そのもののやり取りになっていくわけでありませうけど、介護保険料納めているのに正規の国の基準の介護サービスが受けられない。その前段階が今の要支援1・2のサービスの切り捨てだと私は考えております。これを訴えて、介護保険料の引き下げと利用者の利用料の減免を要望して私の質問は終わります。

○委員長（馬場又彦君） ほかにございませんか。15番、川守田君。

○15番（川守田稔君） 立花議員がおっしゃっていることがどういうことなのかというのは、具体的にはわからないんですけどね。具体的にどういう現場を目撃なさって、今のようなことを言っているのかというのはわからないんですけども。ただですね、こういうことあったんですよ。介護の認定を受けてですよ。受けてもう何年になるんでしょうかね。始まった当初、間もなく認定を受けてますから。1なのか2なのか、3なのか。最初の頃はですね、杖があったら楽に歩きやすいというような方だったんです。ところが、最近あれするとですね。杖ついてもですね、なかなか歩くのも面倒くさそうなそんな感じなんですよ。「いいのかこれで」という。「もう少し介護度上げてもらったらいいがえんせ。」って気楽なもんですよ。私、言うのはどうすね。ところがですね、「上げてもらえばよ、金かかるじゃね。」という話しされたことがあります。ついこの前でした。つまりですね、その人年金生活者ですわ。2か月で何万か国民年金が下りてくるんですよ。保険料なんてのは天引きでしたよね。天引きですよ。それで、「金にかかるし」というようなことをプツと言われたことがあります。ただですね、一人で歩いたりトイレに行ったりとかですね。そういったことが不可能なのかと言ったら、そうでもなかったりするんですけども。そういうふうに「金がかかるでしょ」と言う。そういうことを口にするというのはですね、近い将来そういったことになる。来るべき自分の姿というのを覚悟してるというか、意識してるというか、そういった部分があるんですよ。私はそういうふうに思ったんですよ。ですから、そういうふうにひと括りにしてですね、介護保険ですとか介護ですとかね広くこう、老人の福祉のことを考えるのではなくてですね。もっと細かなところを。ケースワーカーだけじゃなくてですね、現場をもっと知るようなそういうふうなことがあってもいいのかなと思いましたので、ひと言申したいと思いました。

○委員長（馬場又彦君） ほかに質疑ありませんか。

(「質疑なし」の声あり)

○委員長(馬場又彦君) 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

討論を行います。討論ありませんか。14番、立花寛子君。

(14番 立花寛子君 登壇)

○14番(立花寛子君) 2012年度南部町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について討論を行います。

多くの高齢者は、介護保険料、利用料の負担を強いられています。社会で支える介護の確立が求められております。恒久的財源を確保し、公的負担割合をふやすことこそが必要です。それとともに、当町での介護サービスの拡充を要望します。反対討論といたします。

反対討論を終わります。

○委員長(馬場又彦君) ほかに討論ありませんか。

(「討論なし」の声あり)

○委員長(馬場又彦君) 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

議案第87号を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方はご起立願います。

(起立多数)

○委員長(馬場又彦君) ご着席願います。起立多数です。

議案第87号は原案のとおり認定されました。

◎議案第88号の上程、説明、質疑、討論、採決

○委員長(馬場又彦君) 議案第88号、平成24年度南部町介護サービス事業特別会計歳入歳出決算認定についてを議題とします。

本案について説明を求めます。健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 229ページになります。議案第88号、平成24年度南部町介護サービス事業特別会計歳入歳出決算認定についてご説明申し上げます。

234ページ、235ページをお開きください。歳入の主なものをご説明申し上げます。1款1項1目の居宅介護支援サービス計画費としまして、1節の収入済額が723万4,000円となっております。この居宅介護支援サービスにつきましては、要介護1から5のケアプラン作成になっております。次の2目の介護予防支援計画費、収入済額が651万4,760円は要支援介護度の1から2の方々の介護サービス計画を策定した収入となっております。

3款1項1目の繰越金は、182万8,865円となっております、前年度からの繰越金となっております。

次のページをお開きください。歳出の説明になります。1款1項1目一般管理費の主なものは人件費、需用費、委託料に関する支出となります。需用費の207万7,080円は名川分庁舎の消耗品、光熱水費等に歳出したものであります。13節の委託料520万2,840円は、ケアプラン作成に当たり、ケアマネージャー1人に委託できるものが8名までとなっているところから、民間の居宅介護支援事業所等への委託になります。委託先は、社会福祉協議会を含め六つの法人に計画作成の事業委託を行っております。以上で説明を終わります。

○委員長（馬場又彦君） 説明が終わりました。

質疑を行います。質疑ありませんか。

（「質疑なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

討論を行います。討論ありませんか。

（「討論なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

議案第88号を採決します。本案は原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 異議なしと認めます。

議案第88号は原案のとおり認定されました。

ここで昼食のため、午後1時まで休憩いたします。

(午前11時54分)

○委員長（馬場又彦君） それでは、休憩を解きまして会議を再開いたします。

※工藤久夫君 着席

※根市勲君 着席

(午後1時00分)

◎議案第89号の上程、説明、質疑、討論、採決

○委員長（馬場又彦君） 議案第89号、平成24年度南部町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてを議題とします。

本案について説明を求めます。健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 239ページになります。議案第89号、平成24年度南部町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてご説明いたします。

初めに、244、245ページをお開きください。歳入の主なものとなります。1款1項の後期高齢者医療保険料は、1億603万6,000円の収入済額となっております。1目の特別徴収保険料は8,027万8,900円。2目の普通徴収保険料は2,575万7,100円となり、特別徴収は100.05%、普通徴収のほうは96.1%となっております。

次に、3款の繰入金、1項1目の一般会計繰入金は7,899万645円となっております。これは、事務費等繰入金と、保険基盤安定繰入金を繰り入れしたものであり、6,717万7,645円と備考欄に記載されているとおりであります。

次に、下段になりますが、5款2項1目の保険料還付金12万6,200円は、保険者の死亡等による還付となっております。

次にページ248、249をお開きください。歳出の主なものとなります。1款1項1目の13節委託料に789万5,791円は、システムの保守点検と特定健診の委託料ということになります。

2款1項1目後期高齢者医療広域連合納付金としまして1億8,174万7,145円は、備考欄にございます保険料負担の1億658万500円が主なものとなっております。保険基盤安定負担金ということで6,717万7,645円。これは、7割、5割、2割の軽減にかかわる部分の歳出となっております。

次の250ページをごらんください。実質収支に関する調書となります。歳入総額1億9,231万9,000円。歳出総額が1億9,097万6,000円。歳入歳出差引額が134万3,000円となっております。

以上で説明を終わります。

○委員長（馬場又彦君） 説明が終わりました。

質疑を行います。質疑ありませんか。14番、立花寛子君。

○14番（立花寛子君） 244ページ。歳入のところですか。後期高齢者医療保険料についてです。1款1項1目、2目保険料についてであります。納める方の保険料が引き下がる条件はあるのでしょうか。支払困難者が多くなることも予想されると思いますが、いかがでしょうか。1点質問いたします。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 保険料が引き下がることがあるのかというご質問でしたけど。これは、青森県広域連合を作りまして、全体の後期高齢者の医療費支出に伴う保険料として算定しております。当初、発足20年当初は若干の上がり下がりあんなんですが、現在は平成24年度一人当たりの調定額で2万9,239円。前々年度が3万503円となっております。このことからいくのが一つ。もう一つはですね、被保険者が3,634人いますけれども、軽減にかかわっている方が2,080名。率にして58.3%。およそ6割の方が軽減の対象者になっております。それなりに所得、収入が少ない人に関しましては、軽減がかかっていることでもありますし、必ずしもこの保険料につきましては、他県を見ましても高いものとはなっておりませんし、法律に基づいた負担割合を行っておりますので、うちの町で「下がる。下がる。」ということはいえないことになると思います。以上で説明を終わります。

○委員長（馬場又彦君） 14番、立花君。

○14番（立花寛子君） ところで、後期高齢者医療広域連合の議会の様子など直接関係機関の皆さん方が傍聴なさるとか、そういう機会はあるのでしょうか。今、どういってお話しがされているのか、説明していただければよろしく申し上げます。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） この後期高齢者の運営につきましては、県内市町村長、議員に基づいて議会もありますし、それからですね、運営につきましては県内実施町村が検討を重ねてきておりました。町長は昨年まで入っておりましたが、その中で、一つは医療費の支払い状況。もう一つは、後期高齢者の方が検診なりを受けて、サポートですね。保健指導なり、そういうことについて論議されております。そのことについては、町で現在、検診を受託されておりますので、それでもって、後期高齢者の方に関与する形になっております。以上です。

○委員長（馬場又彦君） いいですか。立花君。

○14番（立花寛子君） これも窓口業務だけやられていると後期高齢者医療制度そのものが見えにくい仕組みになっているのではないかと、常日頃から考えております。とりもなおさず、広域連合という形からしてかけ離れたところで話し合われていることこそが、問題ではないかなということ指摘しておきたいと思います。

ところで、高齢者がふえればふえるほど、また高齢者の医療費がふえればふえるほど納める保険料に連動して保険料が決まるわけです。結果的には後期高齢者の保険料の高騰を招くというのが、この後期高齢者医療保険の大きな問題ではないでしょうか。

ところで、高齢者がもう少し負担しなくてもよい保険制度にならないものなのかどうか、この点はどのように考えておられるでしょうか。

○委員長（馬場又彦君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（高森正義君） 保険料が低くならないかということでしたけれども。この制度も平成20年度に創設されておりました。その前は、老人保健制度という形で。その前は老人医療、無料の時代もありましたが。後期高齢者がふえて医療費がかさんできた。で、国・県・町の持ち出し分がふえてきましたと。今後、支出がふえるということで。議員おっしゃるとおり、確かに人口ふえているわけですから、後期高齢者の人口ふえれば当然、額自体は上がりますけども。単純に市町村になってきますと構成人数になるんですよ。75歳以上の人数に応じてそれなりの金額になります。だから先ほど申された、広域連合にしてどうしようもなくなるのではなくて。広域連合にした理由っていうのは小さい、弱小な自治体で後期高齢者の医療費が高額医療になった場合、非常に保険料が変動するということで2倍になったり、3倍になったりする。これは、国保と同様で、弱小自治体の保険料がかなりのばらつきがあるということで。その反省を踏まえた上で、変動をきたさないように県単位でやったものでありますので、必ずしも議員ご指摘のとおり大きくなったから上がるということではないかと理解しております。

それから、保険料が下がらないかということでしたけれども、今現在、広域連合でやっているのは、法律に基づいた負担割合に基づいて算出してありますし、所得に応じた負担軽減も行ってあります。今の医療費の支払い状況から言って。しばらくは、先ほど言った昨年度の2万9,239円になりますけれども、変動はないものと思っております。ただし、来月、消費税の増税がやるやらないが決まるそうですが、もしなった場合は、やはりそれなりに上がってくるものと推測されます。以上です。

○委員長（馬場又彦君） いいですか。ほかにございませんか。

（「質疑なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

討論を行います。討論はありませんか。14番。立花寛子君。

（14番 立花寛子君 登壇）

○14番（立花寛子君） 2012年度南部町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について討論を行います。

医療の抑制と終末期の高齢者を病院から追い出し、医療費を削減するというあまりにも卑劣な高齢者いじめの制度です。

制度がある限り一生苦しめられます。

制度そのものに反対ということを訴え反対討論といたします。

反対討論を終わります。

○委員長（馬場又彦君） ほかに討論はありませんか。

（「討論なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 討論なしと認め、これで討論を終わります。

議案第89号を採決いたします。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

（起立多数）

○委員長（馬場又彦君） ご着席願います。起立多数ですので、議案第89号は原案のとおり認定されました。

◎議案第90号の上程、説明、質疑、討論、採決

○委員長（馬場又彦君） 議案第90号、平成24年度南部町国民健康保険名川病院事業会計決算認定についてを議題とします。

本案について説明を求めます。名川病院事務長。

○名川病院事務長（佐藤正彦君） 議案第90号、平成24年度南部町国民健康保険名川病院事業会計決算についてご説明いたします。

258ページをお開き願います。初めに、損益計算書により収益的収入及び支出についてご説明申し上げます。

1の医業収益でございますが、（1）入院収益は5億1,393万1,818円で、年延べ入院患者数は2万2,900人、病床利用率は95.1%でございます。

(2) 外来収益は2億9,901万4,827円で、年延べ外来患者数は4万6,621人でございます。

(3) その他医業収益は1億2,012万3,476円で、主なものは居宅療養管理や訪問看護などの介護保険収益や特定健診、予防接種、他会計負担金でございます。

医業収益の合計は、9億3,307万121円で、前年度と比較して2,075万110円の減少となっております。

2の医業費用でございますが、(1)給与費は6億2,444万8,287円で、職員の給料及び手当、パート医師の報酬、臨時職員の賃金、共済組合負担金などでございます。

(2)材料費は1億762万132円で、医薬品や治療材料、給食材料費でございます。

(3)経費は1億3,351万7,615円で、主なものは光熱水費や燃料費、修繕費、委託料などでございます。

(4)減価償却費は4,469万9,491円で建物及び医療器械などの減価償却分でございます。

(5)資産減耗費は724万1,708円で固定資産除却に伴う残価分でございます。

(6)研究研修費は119万3,423円で医学書の購入費や医師等の研修旅費などでございます。

医業費用の合計は9億1,872万656円で、前年度と比較しまして662万3,215円の減少となっております。

医業利益は1,434万9,465円でございます。

3の医業外収益でございますが、(1)受取利息配当金は16万5,358円で、普通預金と定期預金の利息分でございます。

(2)他会計負担金2,873万5,000円と、(3)他会計補助金1,850万3,000円は、繰出基準に基づいて一般会計から繰り入れされたものでございます。

医業外収益の合計は5,208万9,812円でございます。

4の医業外費用でございますが、(1)支払利息及び企業債取扱諸費は416万8,248円で、病院事業債の利息支払い分でございます。

(4)雑損失は1,138万6,400円で、医業費用及び医業外費用の消費税のうち、控除対象外となる消費税分でございます。

医業外費用の合計は1,832万7,632円でございます。

経常利益は4,811万1,645円でございます。

5の特別損失でございますが、(1)過年度損益修正損は56万6,280円で、主に不納欠損処理に伴う修正損でございます。

この結果、経常利益から特別損失を差し引いた当年度純利益は4,754万5,365円でございます。前年度繰越利益剰余金3億7,488万3,158円に、当年度純利益を加えた当年度未処分利益剰余金は4億2,242万8,523円でございます。

次に260ページをお開き願います。次に貸借対照表の主なものについてご説明いたします。

資産の部、中段の2の流動資産、(1)現金預金でございますが8億7,661万8,673円でございます。

(2)未収金は1億4,179万9,373円で、主なものは国保や社保、後期高齢者医療などの保険請求分のほか、健診及び予防接種、医療費の一部負担金などでございます。

流動資産合計は10億2,214万6,911円でございます。

負債の部の4、流動負債(1)未払金は2,396万9,157円で、材料費や経費の未払い分となっております。

流動負債合計は2,786万7,211円でございます。

流動資産合計が流動負債合計を9億9,427万9,700円上回っていることから、資金が不足するなどの不良債務はございません。

次のページの資本の部、5の資本金、(2)借入資本金のイ、企業債の年度末残高は3億2,720万8,718円でございます。

268ページをお開き願います。次に資本的収入及び支出についてご説明いたします。

資本的収入の第1項企業債は2億1,030万円で、内訳は病院事業債が1億760万、過疎債が1億270万円でございます。2項出資金は2,023万6,000円で、企業債元金償還に要する経費として一般会計から繰り入れされたものでございます。第3項繰入金は210万4,000円で、人工呼吸器や医療機器などに対する国庫補助金でございます。

次のページをお願いします。資本的支出、第1項建設改良費、1目土地は、163万5,085円で医療センター外構実施設計でございます。2目建物1億9,449万7,428円でうち医療センター施工管理費が129万7,428円、建物建設工事は1億9,320万円となっております。3目医療機械及び備品は、702万5,000円で人工呼吸器や遠心機、スケールベッドなどの医療機器の更新の購入費でございます。第2項企業債償還金は、病院事業債の元金償還金で3,690万7,996円でございます。

以上で名川病院決算の説明を終わらせていただきます。

○委員長(馬場又彦君) 説明が終わりました。

質疑を行います。質疑ありませんか。15番、川守田君。

○15番（川守田稔君） 262ページです。総括事項をさっき読んでました。それでですね、これに係ることを何点か質問しようかなと思って、今読んでいたんですが。今、ここでうたってる包括ケアシステム。これの定義というのはどういうふうな範囲を指してますか。

○委員長（馬場又彦君） 名川病院事務長。

○名川病院事務長（佐藤正彦君） 包括ケアシステムは、医療、保健、福祉等と連携して、一体となって治療やら介護までの分をやっていこうというので。生まれてから、入院されてお亡くなりになるまでを全体と指しておりますけども。そういった中でどういった連携をとって、その方に合った、必要な医療やら介護をやっていくかというのをそういうふうな感じで包括ケアと言うように私は認識しております。

○委員長（馬場又彦君） いいですか。15番、川守田君。

○15番（川守田稔君） そうすると、包括医療システムというのが言われだして、ずいぶんになりますよね。20年になるのか30年ぐらいになるのか、そういったあれがですねこういった形で下々の病院まで行き渡るようになったっていうのは時代の流れを感じるのですが。ともするとですね、包括ケアシステムというボキャブラリーだけが独り歩きしているような、風潮を感じる瞬間があるんですよ。「一体全体、包括って何ぞや」っていう、「そういうとこって町民の方わかってるんでしょうか」っていう瞬間、あたりですね。そういった瞬間があります。よく町民の方にですね、そういったのを説明、改めて説明して差し上げるのは大事なことじゃないかと思って、この質問をいたした次第であります。

それともう一つ、「町民の医療ニーズに応じた良質な医療」とあります。これはこういったことを目指しているのか説明いただきたい。

○委員長（馬場又彦君） 名川病院事務長。

○名川病院事務長（佐藤正彦君）　ここで書いている「医療ニーズ」というのは、前にですね、現在、療養病床を平成15年に変更してございましたけども。それも一つの町民の医療ニーズに対応するために、一般病床を療養病床にしたという経緯がございます。なので、そういうことも含めてですね、今、町民にとって必要な医療サービスは何かというのをですね、変わっていくと思うので、それに対応できる医療体制をしていければなと思っております。以上です。

○委員長（馬場又彦君）　いいですか。川守田君。

○15番（川守田稔君）　やっぱり医療技術というのは、日々進歩しているようなところがあると思うんですね。そういうふうなものの方で見方であればですね。例えば、127ページ、研究研修費という項目があります。全部でいくらですか。図書費が52万だったり、旅費が四十何万だったり。これってというのはほとんど医師の、先生方のそういった部分のように感じるわけなんです。もっと看護師、そういった人たちの教育ですとか情報提供だとかそういったことをこと細やかにやるにはですね、非常にこの予算では不十分なんだろうと。多分、看護婦さん、対象は何人かいるかもしれませんが。この予算を執行対象になる方はですね。その辺はわかりませんが。「どう見てもこれじゃ足りないんじゃないでしょうか」ということを切実に思うわけですよ。何でこういって言うかって言いますと。町長、聞いていただきたいんですけどね。ある方からこういうこと言われたたんですよ。旦那さんが具合が悪くなって救急車呼んだか、何か自家用車でかかり付けの病院に行ったんだそうですよ。それも、病院に着いた時にはですね、非常に重篤になってしまっていて。そしたらその先生が「歳だからね」というような言い方したんだそうですよ。「肝焼けてね」という「残念でね」というような話し。そういった対応がですね、ある病院であったんだそうですよ。それでですね、そういったことっていうのは悪気がないだろうと思うんですけど、何ていうか、心無いひと言っていうのが患者の気持ちにえぐるような傷を作ってしまったような事例だと思うんですよ。ですから、そういったことっていうのはどこの病院でも起こりうることだと思うんですけど、名川病院だけはですねそういったことの無いように、もっと、医療の質がどうのこうのという以前にですね。家族に病人が出るとかということは、家庭の、家族の生活が変わる。心理状態も非常に不安定になる。そういったことを伴うことだと私は思うんです。そういったこと経験なさってる方は心当たりがあると思うんですけど。まだの方であってもいずれ経験することだと思うんですが。そういった家族から病人が出る

ということはですね、本人だけの問題ではなくて家族の問題であったりするわけなんですよ。片や医療の現場っていうのはですね、毎度毎度のこと。これはわかるんですよ。人が病院で死んでいくのも珍しいことじゃないでしょうし。「いちいちそういったことに感動してたんじゃ仕事にならないよ」ってそういう事情もわかるんですけどもね。受診する側にしてみるとですね、私たちが思ってることの10分の1でもいいからそういう気持ちを医療機関の方もですねわかって、理解して接してもらいたいなという気持ちがあるはずなんです。私の父親と母親が倒れた時、私はそう思いました。切実にそう思ったんですよ。そういったことを、そういう経験もあるものですから、その方から言われた時にですね、「やっぱり俺だけじゃないのかな」っていうふうな気持ちになってですね、この場でしたいと思います。そのためにはやはり、医療の技術っていうのも上げるのも大切だと思うんですが、患者の気持ち、患者の家族の気持ちを慮ってですね、対応するような人間づくりのようなことにもっと費用をかけるべきではないのか。医療技術だけではなくてですね。それは車の両輪のような医療スタッフの教育に必要な物の見方じゃないのかなと思ってですね、考えました。そういうわけですね、少し、病院自体の経営が黒字っていうことにこだわる気持ちもわからんではないんですけども、公立病院でありますからそういったところをですね、もう少し違う角度から見てですね、そういうお金の使い方をしてもらいたいなと思って質問しました。答弁してくださるのであれば、お願いします。無いのでしたらそれでもいいです。

○委員長（馬場又彦君） 町長。

○町長（工藤祐直君） いわゆる患者さんと接する。特に弱者的な病気を持って通っていくわけでございますので、常に今のお話しについては、御用始め、御用納め等々、同じこと申しております。研修費用をふやす、ふやさない。これは別に今言った対応の仕方というのは、研修旅費を増やす等、別の部分でも当然そうしていかなければならないことだと思ってございます。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。14番、立花寛子君。

○14番（立花寛子君） 決算書の中の平成24年度南部町国民健康保険名川病院事業報告書、263ページの業務、業務量。ここには区分とか入院、外来、増減など数字が載っておりますが、この表

からどのようなこととお読みになっておられるでしょうか。そして現在は、どういう状況になっているのかお聞きいたします。

○委員長（馬場又彦君） 名川病院事務長。

○名川病院事務長（佐藤正彦君） お答えします。業務量、263ページの業務その中の業務量のところですけども。入院では平成24年度、23年度の対比についてございます。対前年度に比べまして、24年度はマイナス654人と利用率もマイナス2.4%というマイナスがついてございます。これの方はですね、療養病棟の方はほぼ95%以上を確保してはいますが、一般病棟26床でございます。そちらの方の影響が大きくて、特に70歳以上の入院患者さんが減りました。そういう関係でこの方が減ってきたなと思ってございます。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 14番、立花君。

○14番（立花寛子君） 70歳以上の方は、自然減ということなのでしょうか。入院されたい方が、条件があって入られてこないとか、そういうことではないのでしょうか。また、外来の数は元気な患者さんがふえたので、病院利用しなくてもいいのか。何か対策が必要なのかどうか。どういふふうに分かって分析なさっているのでしょうか。

○委員長（馬場又彦君） 名川病院事務長。

○名川病院事務長（佐藤正彦君） 減少については、さっき言いました、結構年配の方が減の原因になっておりますので、ある程度、福祉施設とかですね、そちらの方に入所したと。そういった場合も想定されます。外来もマイナスということでも出ておりますけども、外来の方もですね、やっぱり70歳以上の患者さんの減少が大きいです。そういったことで、そういった施設に入ると、当然、通院も入院もできないということになりますけども。そういった施設に入っても、福祉施設とは連携している部分ありますので、入院が必要な場合はこちらの病院に入院されるということもしてございます。以上でございます。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。ほかに質疑ございませんか。
（「質疑なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。
討論を行います。討論ありませんか。
（「討論なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 討論なしと認め、これで討論を終わります。
議案第90号を採決します。本案は原案のとおり決定することにご異議ございませんか。
（「異議なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 異議なしと認め、議案第90号は原案のとおり認定されました。

.....

◎議案第91号から議案第93号の上程、説明、質疑、討論、採決

○委員長（馬場又彦君） お諮りいたします。

この際、議案第91号から議案第93号までの平成24年度南部町公共下水道事業、農業集落排水事業、簡易水道事業の特別会計歳入歳出決算認定についての議案3件を一括議題にしたいと思いません。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 異議なしと認め、議案第91号から議案第93号までの議案3件を一括議題とします。

本案について説明を求めます。建設課長。

○建設課長（工藤良夫君） それでは、最初に273ページをお願いいたします。議案第91号、平成24年度南部町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定についてご説明いたします。

278ページと279ページをお願いいたします。歳入について主なものを説明いたします。1款1

項1目1節の公共下水道使用料は、大字沖田面、大向地区の一部を供用開始している下水道使用料です。加入者は168人で、使用料が207万2,940円となっております。

2款1項1目1節の下水道国庫補助金の収入済額は、6,273万6,000円で、うち3,567万5,000円は前年度から繰り越した事業分の補助金であります。

3款1項1目1節の一般会計繰入金は3,786万5,000円です。4款1項1目1節の繰越金97万9,710円は、前年度繰越金と繰越明許費充当財源繰越金であります。

5款1項1目1節の雑入、677万1,971円は消費税の確定申告による還付金と下水道推進協議会返戻金であります。

次のページ、280と281ページをお願いいたします。6款1項1目1節の下水道事業債は6,270万円で、うち、3,560万円は前年度から繰り越した事業分であります。

歳入合計欄をごらんください。調定額2億6,901万661円に対して、収入済額が1億7,316万4,741円で、収入未済額は9,584万5,920円となり、主なものは翌年度に繰り越す事業分の補助金と、公共下水道事業債として平成25年度に繰り越して収入となるものです。

次のページ、282ページと283ページをお願いします。歳出の主なものについて説明いたします。1款1項2目の施設管理費の13節委託料、577万2,605円は浄化センターの維持管理関係業務委託料であります。

2款1項1目公共下水道建設費の13節委託料、5,729万1,150円は管渠詳細設計3件、地質調査1件、工事積算業務1件の3,099万4,950円で平成23年度からの繰り越し分は管渠基本詳細設計1件の2,629万6,200円であります。15節工事請負費、6,618万4,485円は管渠工事2件の2,110万5,885円と平成23年度からの繰り越し分は、管渠工事の2件の4,507万8,600円であります。なお、平成25年度への繰越明許費は、管渠工事4件の9,620万円であります。

次のページ、284と285ページをお願いします。3款1項2目23節償還金利子及び割引料、2,030万9,543円は公共下水道建設債借入金の利子を償還したものであります。

歳出合計欄をごらんください。予算現額2億7,111万8,000円に対して、支出済額が1億7,217万8,494円で、繰越明許費は9,620万円となっております。

次のページ、286ページ。実質収支に関する調書をごらんください。歳入総額から歳出総額を差し引いた額は98万6,000円となり、このうち、翌年度へ繰り越すべき財源の繰越明許費、36万1,000円を差し引いた実質収支額62万5,000円を翌年度に繰り越すものであります。

次のページの287ページ。財産に関する調書でございますが、公有財産の土地及び建物につき

ましては、浄化センターの土地と建物の面積で決算年度中の増減はございません。

以上が、公共下水道事業の特別会計の平成24年度の決算状況でございますが、平成23年4月から供用開始いたしまして、処理区域人口1,120人に対し168の方が加入し、加入率が15%となっております。

次に、289ページをお願いします。議案第92号、平成24年度南部町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定についてご説明いたします。

294ページと295ページをお願いいたします。歳入について主なものを説明いたします。1款1項1目1節の農業集落排水使用料は3,176万590円であります。加入者は3,665人となっております。2款1項1目1節の一般会計繰入金は2億2,572万3,000円であります。

歳入合計欄をごらんください。調定額2億5,853万5,580円に対して、収入済額は2億5,796万3,050円で、収入未済額は57万2,530円は使用料の滞納分であります。

次のページ、296と297ページをお願いいたします。歳出の主なものについて説明いたします。1款1項2目施設管理費の11節需用費の1,797万7,685円は、処理場また、マンホールポンプの光熱水費、修繕料等であります。12節役務費の344万1,149円は、処理場またマンホールポンプの通信運搬費、火災保険料等でございます。13節委託料、2,249万4,738円は、5処理施設の維持管理関係の業務でございます。27節公課費の消費税670万6,600円は、平成23年度確定分の消費税と、平成24年度中間申告分の消費税と重量税であります。

2款1項の公債費は、借入金の元金、利子を合わせて1億9,888万4,448円を償還したものであります。

次のページ、298と299ページをお願いいたします。歳出合計欄をごらんください。予算現額2億5,886万7,000円に対しまして、支出済額が2億5,796万2,225円で、不用額が90万4,775円となっております。

次のページの実質収支に関する調書をごらんください。歳入総額から歳出総額を差し引いた額は1,000円となり、実質収支額1,000円を翌年度に繰り越すものであります。

次のページ、301ページ。財産に関する調書ですが、公有財産の土地と建物の面積で、決算年度中の増減はございません。

以上が、農業集落排水特別会計の平成24年度の決算状況でございます。

農業集落排水施設の5処理区域の平成24年度末の加入状況は、処理区域6,690人に対して3,665人の加入者で、加入率が54.6%となっております。前年度は52.7%から1.9ポイントの増と

なっております。

最後に、303ページをお願いします。議案第93号、平成24年度南部町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定についてご説明いたします。

308ページと309ページをお願いいたします。歳入について主なものを説明いたします。1款1項1目1節の簡易水道使用料は、45万2,301円であります。二又地区の簡易水道加入戸数は17戸となっております。

2款1項1目1節の一般会計繰入金は、386万4,000円であります。

3款1項1目1節の繰越金929円は、前年度繰越金であります。

歳入合計欄をごらんください。調定額431万7,230円に対して収入済額も同額で、収入未済額はありません。

次のページ、310ページと311ページをお願いします。歳出の主なものについて説明いたします。1款1項1目一般管理費の13節委託料の112万200円は、青森県薬剤師会衛生検査センターへの水質検査と水道料検針の委託した経費であります。

2款1項1目利子の23節償還金利子及び割引料82万4,656円は、簡易水道事業に係る借入金を償還したものでございます。

歳出合計欄をごらんください。予算現額482万6,000円に対しまして、431万7,018円で、不用額が50万8,982円となっております。

次のページ、312ページ。お願いします。実質収支に関する調書をご覧ください。歳入総額から歳出総額を差し引いた額はゼロとなり、実質収支額もゼロであります。

次のページ、313ページ。財産に関する調書でございますが、公有財産の土地と建物面積で決算年度中の増減はございません。

以上が、簡易水道特別会計の平成24年度の決算状況でございます。以上で説明を終わります。

○委員長（馬場又彦君） 説明が終わりました。

質疑を行います。質疑ありませんか。5番、夏堀文孝君。

○5番（夏堀文孝君） ページ数は283ページ。下水道の関係でございますけども。2款1項1目15節の工事請負費です。23年度からの繰り越しが4,500万円余り、それでまた25年度への繰り越しが9,620万。工事が年度、年度で進まない理由というのはどういうことですか。

○委員長（馬場又彦君） 建設課長。

○建設課長（工藤良夫君） 繰り越しの9,620万円でございますけれども、この工事につきましては、主な工事として三戸駅前の泉山踏切というところがありますけれども、その下を暗渠工法、推進工法で計画しております、青い森鉄道管理事務所との協議に時間を要しましたので繰り越しとなっております。結構、変更等もございまして、1回でなかなか協議が終わりませんでしたので、何カ月もかけて協議を実施してございます。

○委員長（馬場又彦君） ほかに。3番、中舘文雄君。

○3番（中舘文雄君） 特に公共下水道の方は加入率はまだ今、工事中ですからこれからのことです。ただ、農業集落排水事業の方はですね、工事そのものは一応、計画したところは大体終わったという感じで運営されてると思いますけども。加入率ですね。さっき課長から報告ありました。まだ54.6%ということで、これに対する対策といいますか。どういう形で。例えば、何年度はこれぐらいのアップを目指していてこういう形で進めるとか。そういう運動といいますか。取り組みはこういうふうに進んでいるかお聞きします。

○委員長（馬場又彦君） 建設課長。

○建設課長（工藤良夫君） 先ほど申しました加入率が54.6%ということで、前年度と比較しますと、前年度は52.7%。微量ですけれども1.9%ですけれども加入率が増となっております。

この促進ですけれども、町としましては広報活動を通しまして加入の促進。加入金の一時免除等を実施して促進の方に努めております。ただ、加入率が低いのは、どうしても整備前にご自身で水洗化等を実施している方が多い訳で、なかなか加入率も大きくなれないと考えてございます。

○委員長（馬場又彦君） 3番、中舘君。

○3番（中舘文雄君） そうすればですね。当初計画した時の。恐らく計画始めるときはですね、

加入者はこれぐらいはあるだろうということで、恐らく事業採択して進んだと思うんですよ。ただ、今の課長だと工事が、計画から実施まで相当、年数かかった。まあ私、そこまでの調査してないで、こういう質問するのは失礼かもしれませんが。その間に、浄化槽とか何か普及して、加入率が下がったとなればその辺の対応の仕方がですね。事業する時に、前の議会でも問題にしたんですけども。一応、ここに下水道工事をやりますという時には、一応、意向としてね。加入するかしないかは。一応、調査した上で恐らく事業計画していると思うんですよ。それが途中で事業が進まないために待てなくて自分で浄化槽その他でやったっていう人あるかもしれませんが。この辺はですね、もう一度、一つ、本格的にやっついていかないと。ていうのは、一般会計からよほどつぎ込んだという形で、維持管理に相当かかっているわけですよ。加入率アップしないと、まだまだこういう一般会計からの繰り入れがどんどんどんどんやっついていかなければ維持していけない。ということになると思いますので、その辺についてもう少しはっきりした方針を示して、町全体といいますか、地域上げてやっついていかないと、加入率のアップにはそう簡単ではないような気がして。まあ、いくらでもつぎ込んでもいいということであればですけども。やはり、そこに対象になっていない町内もありますからね。六千六百何十人。南部町には二万人近い人口がいて、対象外の方から見ればですね、もうちょっとその地域は加入率アップのために「何してんだ」という気持ちが出てくるんですよ。そのためにはもう少し、対策というのは考えるべきだと思いますが、その辺について意向があったらお答えください。

○委員長（馬場又彦君） 建設課長。

○建設課長（工藤良夫君） 今現在の具体的な計画はございませんけども、加入促進に向けて、色々な機会を設けまして、皆さんの方に加入促進を図ってまいりたいと。今後、具体的な計画を検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。ほかに質疑ありませんか。

（「質疑なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

討論を行います。討論ありませんか。

(「討論なし」の声あり)

○委員長(馬場又彦君) 討論なしと認め、これで討論を終わります。

議案第91号から議案第93号までの議案3件を一括して採決します。本案は原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(馬場又彦君) 異議なしと認め、議案第91号から議案第93号は原案のとおり認定されました。

ここで2時15分まで休憩いたします。

(午後2時00分)

.....
○委員長(馬場又彦君) 休憩前に引き続き、会議を開きます。

(午後2時15分)

.....
◎議案第94号の上程、説明、質疑、討論、採決

○委員長(馬場又彦君) 議案第94号、平成24年度南部町営地方卸売市場特別会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

本案について説明を求めます。市場長。

○市場長(工藤敏彦君) それでは、平成24年度南部町営地方卸売市場特別会計歳入歳出決算認定についてご説明申し上げます。決算書320ページをお開き願います。

歳入の主なものについて収入済額でご説明いたします。1款1項(事業勘定)受託金でございますが、受託販売収入として買受人の方から納めていただく買上げ代金でございます。現年度分は24億2,346万9,829円となり、収入未済額はゼロ円となっております。

平成24年度の販売状況でございます。開花期の長雨と低温によりましてサクランボの着果が悪く平年の3割程度の出荷となったほか、リンゴもさび果が多くなったため品質が悪く単価が低迷

し、野菜全般につきましても夏場の高温から入荷量消費量とも伸びなかったため、販売実績はおよそ1万5,946トンとなり、平成23年度のおよそ1万4,476トンに対しまして量で1,470トン、率で10.1%の増加となったものの販売額につきましては、平成23年度のおよそ28億4,963万円と比較いたしまして、金額で4億2,616万9,000円、率で14.9%の減少となっております。減少の主な原因は、前年好調でありましたリンゴの価格が品質低下等の理由によりましておよそ3億7,400万円減のおよそ9億3,900円にとどまったことが主な原因となっております。

2節の過年度分調定額の部分ですが、不能欠損額387万9,832円につきましては、第49回定例会議案第41号で債権放棄の議決をいただきました平成12年度の収入未済額を不能欠損処理したものでございます。

2款1項の使用料966万5,684円、これは市場施設の仲卸売場、資材倉庫、駐車場などの利用者から納めていただいております使用料でございます。

2款2項の手数料1億6,926万4,361円、これは出荷されている生産者の方々からいただいております受託販売手数料でございます。

3款2項1目の他会計繰入金3,640万7,000円は、一般会計から繰り入れた額でございます。

3款2項2目の基金繰入金40万円は、買受人の廃止に伴う買受人保証金返還のため、買受人保証金管理基金から繰り入れした額でございます。

322ページになります。3款3項の繰越金45万6,948円は、前年度からの繰り越しでございます。

4項の諸収入でございますが277万4,548円となっております、基金からの利子、そのほか仲卸売場の電気料などの雑入となっております。

一番下の欄でございますが、歳入合計では予算現額28億3,047万9,000円に対し、収入済額は26億4,203万8,370円で、歳入全体の執行率は93.34%となっております。

続いて、324ページをお開きください。歳出の主なものについて支出済額でご説明をいたします。

1款1項事業勘定受託費、これは、受託販売代金として出荷者の皆様にお支払いする代金でございます。24億2,347万5,883円となっております。

2款1項の市場管理費、これは職員の給料、賃金、光熱費などの市場施設の維持管理に要する経費のほか、出荷団体並びに買受人への奨励金1,710万3,550円。

327ページになりますが、冷蔵コンテナ2台の交換工事1,365万円、市場用地4百平米の購入660万円など合計で1億8,985万8,629円となっております。

326ページから328ページにまたがっておりますが、3款1項の公債費でございますが、現在の卸売場、事務所等の施設整備に要しました借入金の元金と利子を合わせまして2,497万9,978円でございます。平成27年度で償還が終了となるものでございます。

338ページの一番下の欄でございます。歳出合計の予算規模28億3,047万9,000円に対しまして、支出済額は26億3,831万4,490円で歳出全体の執行率は93.21%となっております。

318ページにお戻り願います。欄外に記載されておりますが、歳入歳出差引残額は372万3,880円となりました。うち、地方自治法第233条の2の規定による基金への繰入額は301万円とし、翌年度への実質繰り越しとなる額は71万3,880円となるものです。これによりまして、市場財政調整基金の残高は1億3,639万4,000円となるものと見込んでおります。

以上で、平成24年度南部町営地方卸売市場特別会計歳入歳出決算について説明を終わります。

○委員長（馬場又彦君） 説明が終わりました。

質疑を行います。質疑ありませんか。3番、中舘文雄君。

○3番（中舘文雄君） 町営市場として長年地域に貢献されてきた施設であることは誰でも認めることですが、まず基本的に何点かありますけれども最初、実際にここで取り扱われている販売路と言いますか金額と言いますか、町内と町外の比率と言うのは出てますか。それをまず先に質問いたします。

○委員長（馬場又彦君） 市場長。

○市場長（工藤敏彦君） 町内と町外の比率でございますけれども、いま南部町自体が旧南部、名川、福地と合計になっておりますので大体半分半分の物になっております。ちゃんとした数字が手元にございませんで申しわけございません。

○委員長（馬場又彦君） 3番、中舘文雄君。

○3番（中舘文雄君） ただいま約半分位じゃないかと言いますけれども、町営卸売市場の特別会計ばかりではなくて、一般会計から各事業繰入金をどんどん続けながら事業が進められている

ことは、それぞれが目的があって町民に対する貢献があるものですから、それはそれとして認めて行かざるを得ないと思いますけれども。私はなぜここで問題にしたかと言うと、これは設置者の考えと実際に市場運営責任者として運営している方の考えは違うかもしれません。ただ、今3町内では産直も奨励されながら産直もどんどん進んでいる状況です。それから今政府でも県でも6次産業化をしよう。生産者が加工から販売までということで、実際にただ現物を市場に出すという事態をだんだん遠ざかるような傾向が実際にありますよね。ですからその中で実際に市場として例えば町内の今後の見通しについて、例えば農林課とか農業委員会も含めて実際に南部町の生産者の状況をどういう形で進めて行くのかということも前もって調査をしていかないと最後に全部6次産業化の加工に回る。産直がどんどんと。まあ、なぜ私がこういう質問するかと言うと議会の中でも「6次化を進めるべきだ」と強く言うんです。それが市場の出荷量にまともに影響して、町営市場として成り立たなくなるような現状になると、せっかく今まで南部町果樹の里農業を基幹とする町ですから。そういうことを奨励しながらも、逆に町営市場が成り立たなくなるような状況というのがひとつの問題として考えていかなければならないと思う立場から質問するものです。ですから実際に今後の見通しについて市場の運営責任者としてどういうふうな見方をしているのか。実際に農業後継者も無くなるということで問題になったわけです。ですから、先ほどなぜ「町内と町外がどういう数値ですか」と言ったのは、町営市場として運営しているわけですから実際にほかの他町村から負担金を貰いながらだと別なわけですがけれども、足りない分については一般会計から繰り入れながら市場を運営している状況の中で実際に今後、果たしてそれが農家後継者が減る、農業者が減るという時に町営市場として珍しい運営の仕方ですから、この辺について実際に運営責任者、設置管理者、町長の考えがあるかもしれませんけれども、すぐどうのこうのということではないです。ただ将来に対してそういう問題も考えていく必要があるのではないかなと思いますので質問いたします。お答えいただきます。

○委員長（馬場又彦君） 市場長。

○市場長（工藤敏彦君） 大変貴重なご意見でございます。耳が痛いお話だと思います。

実際問題として、毎年出荷の世帯数というのは町内外の区分はともかくといたしまして、約3,000世帯の方がご利用になっているという実態があります。

毎年、毎日、新聞を見ますと死亡広告欄に目がいきませんが、登録のある方が載っている場合も

結構あるということで、ここ何年かのところを見ますと毎年20人から30人ずつ減っているということがあります。それで、減っている方が大きい農家の方もありますし、後継者のある方、無い方もあるんですが、今減っているというのは大体市場の出荷額から見ますと、大体40万円位の売上の方が減っているのが多いと感じております。まあ最終的にどの辺までいくのかということで試算をして見ますと、半分位まで落ちるのかなと考えております。ただ、一人当たりここ三、四年のことでございますけれども、一人当たりの利用額が逆に上がってございます。もちろん人数は減ってございますけれども、トータルでの売り上げから多い時も少ない時もあるわけですが、平均からいきますと一人当たり利用額が逆に上がっていると。五、六年前は70万円位だったものが現在90万円前後ということで、数字的にはそういうふうに出ておりますので、最終的には人数が半分位になって、町営市場の売り上げ自体がどこまで落ちるのかということになると以外と落ちないのかなと。もちろん努力はいたしますので、18億から20億の間位のところで下げ止まるのかなというのは見込みとしては思っております。

それから、6次産業化というお話でございましたが、これは栽培の方から販売まで全部おやりになられると、これはすごく良いことだと思いますけれども、それについていけない農家というのも相当数あると思いますので、私どもとしてはその部分を一緒懸命ケアしていきたいと考えております。もちろん運営は大変だと思います。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 3番、中館文雄君。

○3番（中館文雄君） ただ今場長から専業農家の利用が高まるだろうということですよ。南部市場は私が小さい時は「何でも少しでも持って行って、やった」と言う話を聞くものですから、そのこの前、南部まつりの時に場内で話してましたら、やっぱりなかなか苦しいような、働いている職員の方だと思いますね。その辺もちらっと話してましたから、あえて将来をですね、どういう見通しの中でやっているのかなと気になったものですから。それからもうひとつ、先程私話してましたけれど、例えば、南部町の農業の動きっていうのは農林課で把握しているもの、それから農業委員会とも色々な地域での情報を得ながら将来の南部町の農業に対していろいろ考えていると思います。その辺のとことのやっぱり協議会ってあれですけども、情報交換会。もちろん市場運営委員という方がいて、専門家の方々がその辺は充分に分かった上での運営はされていると思いますけれども。それとですねもうひとつ、近くの市場と言えば八戸の市場とか何かあ

りますけれども、そういうところはやっぱり時期になりますと生産者へ出向いて懇談会いろんなことをやっています。「出してください」とか、上げ膳、据え膳で飲ませ、食わせながら生産者に対してやっています実際に。特に家の奥の方に行きますとですね。そうしながら、出荷量を出せるだけ自分の所に「出してください」ということをやりながらやっています。その辺についての動きと申しますか、活動はどの程度やられているのですか。お聞きします。出荷量を集めるための生産者に対する対応の仕方。

○委員長（馬場又彦君） 市場長。

○市場長（工藤敏彦君） まあ、八戸の市場ばかりでなく、最近、十和田はまあ、五戸かいわいがありますので、もちろん歩いていると思いますが、最近では青森の市場さんもお出でになっているということで、気にはなっております。それで、ただ、うちの方で八戸の市場さんのようにですね、まず集めて懇談会のように「飲ませ、食わせ」というところまではちょっと出来ないかと思っておりますけれども、昨年度、23年度からですか、渉外のこれは臨時の方ですが1名担当はふやしているということでございます。最近では、まあ2台で歩いているわけですがけれども、実際に八戸さんあたりと兼合するという部分は結構ありますけれども、向こうさんはお値段を決めて持っていくということがあります。私どもはそこまで今のところは出来ていけませんので、対策としては仲買さんといろいろ話しをしながら「これ位だったら、どうでしょうか」とか、そういう注文を受けるようにして、実際に電話を掛けて品物を一部は取りに行ったりしている時はあるようですけれども、そういうふうなのでやっていくしかないのではないかと申すように考えております。

以上です。

○委員長（馬場又彦君） 中館君。

○3番（中館文雄君） さっき言った、たとえば町の農業に関わる行政の責任者、団体と言いますか、そこらの情報交換というのは、私はやはり定期的にでも実際の町内の流れがどうなっているのか、いろんな方々の情報を得て運営していくことが必要だと思いますので、その辺はひとつ検討していただくことをお願いして質問を終わります。

○委員長（馬場又彦君） ほかに質疑ございませんか。

（「質疑なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

討論を行います。討論はありませんか。

（「討論なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 討論なしと認め、これで討論を終わります。

議案第94号を採決します。本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） ご異議なしと認め、議案第94号は原案のとおり認定されました。

◎議案第95号の上程、説明、質疑、討論、採決

○委員長（馬場又彦君） 議案第95号、平成24年度南部町工業団地造成事業特別会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

本案について説明を求めます。商工観光課長。

○商工観光課長（福田修君） それでは、333ページをお願いいたします。議案第95号、平成24年度南部町工業団地造成事業特別会計歳入歳出決算認定について内容をご説明いたします。

ページ、338ページ、339ページの歳入からご説明いたします。歳入でございますけれども、1款1項1目不動産売払収入でございますけれども、売却がないということでゼロでございます。

2項1目土地貸付収入につきまして、1節の土地貸付収入4万円。これは、八戸市森林組合に貸し付けている土地の貸付料です。

2款1項1目一般会計繰入金の一般会計繰入金は20万4,000円となっております。

3款1項1目繰越金につきましては200円ということで前年度繰越金でございます。

歳入合計は、調定額24万4,200円に対しまして、収入済額24万4,200円となっております。

次のページ。340ページ、341ページをお願いいたします。歳出でございます。1款1項1目一般管理費でございます。支出済額24万3,790円となっております。9節の旅費、これは県の企業誘致推進協議会等が開催しております工業団地の売り込みのPRなどに参加しております。これは、東京都と名古屋圏ですか、そこで行われました。それから、11節の需用費でございますけれども、1万1,190円、これは光熱水費ということで、工業団地内にあります街路灯の電気料ということになっております。

歳出合計は支出済額24万3,790円、不用額として7万3,210円となっております。

次のページをお願いいたします。実質収支に関する調書でございます。歳入総額から歳出総額を差し引き、歳入歳出差引額が1,000円となっております。実質収支額が1,000円でございます。

次のページ。財産に関する調書でございますけれども、宅地といたしまして7万7,091平方メートルでございますけれども、年度においても増減がございませんのでそのまま繰り越しという形になっております。

以上で、説明を終わります。

○委員長（馬場又彦君） 説明が終わりました。

質疑を行います。質疑ありませんか。16番、工藤久夫君。

○16番（工藤久夫君） まあ、工業団地のことで伺いますけれども、今、ソーラー発電やるためかどうかわかりませんが、「しばらくほっぽって葉の樹が大分おがってて」、パネルの設置工事に入るのかなと思っていただけてけれども。あれは、全体の用地の何割を年間何ぼ位のお金で貸すような契約になって、その貸し賃がいつから入る予定なのか、大体大ざっぱに説明してください。

○委員長（馬場又彦君） 商工観光課長。

○商工観光課長（福田修君） 貸し付ける面積でございますけれども、今、実際あの雑木を伐採しまして、使える面積等をこれから決めることになります。そして、どの位の面積になるかと、

大体ですけども、平たい部分は3万九千、3.9ヘクタール位ありますので、その三・三位になるのかなと思っておりますけども、これはまだ実際に木を切ってみてですね、平場として使えてパネルを設置する状況を勘案しながら決めることになると思います。一応、貸し付ける時の単価でございまして、条例上からいけば40円以上という形になりますけれども、今は48円。1平米当たりということで考えておまして、おおよそ年間150万円位が見込めるのかなと、いうふうに考えております。以上です。

○委員長（馬場又彦君） 16番、工藤久夫君。

○16番（工藤久夫君） あの、いわゆる工業団地の用地として造成して、分譲出来るような面積が確か造成した時は6町歩か7町歩。まあ、2万坪前後あったと思うんですね。脇にやや傾斜があるけども、そのパネルを設置するには、ここも可能じゃないかとまだ、私がぱっと見検討で2町歩位あるのではないかと感ずる部分があるんですよ。

財産の処分でも貸付でも、協定を結んだということがだいぶ前にあるわけですけども、具体的な説明がなかったものですから、私らは蚊帳の外というか良くわからない。ただ、何ぼでもその使える面積を余計使ってください。そして家賃を余計貰いましょう。地代を余計取りましょうということは商売としてはあたりまえの話しだけですよ。今の説明を聞くと木を切ってみないとわかりません。では、木を切るのは誰がやっているのか、その最終の契約がわからないのに契約は、貸す契約はやりましたという。私たちはその説明を聞いていなかったからわからないですけども。ちょっと疑問を感ずる部分があるわけです。その辺をその誰が独自でどういう、相手が誰でどういう、最低の条件があって貸すことにしているのか、本当は早めに説明あってしかるべきことだったと思うんですよ。例えば、その木を切るのにしても、借りる方が切っているのか、借りる方が仮に「切って条件が良いところは借りましょう。日陰になるからここはいりません。」って。だとすれば、「斜面でも何でもここはまだ使える。こっちも使うのが条件だ。」って、駆け引きして交渉するのが当然ではないかと思う。その辺をもう少し詳しく。

○委員長（馬場又彦君） 商工観光課長。

○商工観光課長（福田修君） 説明不足で申し訳ありませんでした。今、木を伐採しているのは

事業主の方で全部伐採をしております。当然、抜根等も必要になってきますので、それは全部事業主の方でやることになっております。それから、法面の件でございますけれども、私もこういう部分も使えるのではないかなという提案はいたしましたけれども。やはり基礎工事とか色々な部分がございます、パネルを据え付ける角度とかそういう部分が絡んできますので、ちょっと法面を利用した発電は無理というような考え方を示されております。後は、隣に民地もございます。その民地も出来れば借りたいというお話がありましたので、「交渉してみてください」というふうに話してあります。まあ、いろいろ使える部分については、貸して使ってもらって土地の使用料を頂ければと考えております。後は、森林組合に貸している部分がございますけれども、それについても今、太陽光方でお借りしたいというお話しがきておまして、では、森林組合に今貸している部分はどうかとなりますけれども、取りあえずその条件が悪いほうへ事業主の方で全部移転してもらおうという形で進めております。以上です

○委員長（馬場又彦君） 16番、工藤久夫君。

○16番（工藤久夫君） 私は途中の経過がわからないものですから好きな口きけば、きかせてもらえれば。森林組合へはただみたいにあそこ貸していたはずだから、木を切って寄せるぐらいは林組合へやれば、役場でいくらか金が貰えるのではないのかなという発想で見ていたのですけどね。その辺全然、今まで説明がないというのが、私はひとつまず不満を感じる。

それから、具体的にどういう交渉の経過でなったかというのをもう少し文章化して、後で、あしたでも出してくれれば良いなと思います。あそこの八戸側といいますか、北側と言うか東、東北側と言いますか、奥のほうの。造成した上になだらかな原野みたいのがあるんですよね。あの辺も本当は、ソーラーとすれば適地だし、当然、そこは平米「何ぼ」で貸しましょうとか。そして、あれはたしか接続の連携の協議は今年の3月までに済んでいけば、今の平米単価というのは安すぎるので、倍家賃を取っても良かったのではないかなと感じがするんですね。だからその辺の経過をちょっと文章化して、後で議員のみなさんへお知らせくださればと思います。今まで全然私らの耳に入らなかったというのは残念だなとそういうことを言っております。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。15番、川守田稔君。

○15番（川守田稔君） 同じことについて伺いたいのですが、設置するのはまあ良いです。その後にごなたが管理して、ごなたが責任をもって管理なさって運営なさるのか。その辺のところを詳しく教えてください。

○委員長（馬場又彦君） 商工観光課長。

○商工観光課長（福田修君） パネルを設置する会社は、元は「田名部組」とそれから「二本木油店」さんの合同でひとつの会社を立ち上げます。そして、そこがまず管理して行くことになります。保証人といたしまして、「株式会社田名部組」それから「株式会社二本木油店」さんがつくということで進めることになります。以上です。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。川守田君。

○15番（川守田稔君） 悪く勘ぐるわけではないですけども、たとえば工業団地に「工場が建ちます」「何かを造る工場が建ちます」ということになると、それなりに雇用が発生しますよね。それなりの従業員の生活を企業が背負ってみたいな、そういう気持ちもあるのでしょうかから、努力して経営しましょうというような性質の方に行くんだと思うんですけど。よくよく考えてみますとソーラー発電というのは設置したらあと雇用がないんですよ。たぶん。まあ、一人いればよろしいんじゃないですかと。もしかすれば、大雪が降った時は少しずつ除雪するような作業があるのかもしれませんが基本的には雇用を生まないその事業ですよ。そういった時に、何回も申しますけれども設置する段階、設置する人は確実に儲かるんですよ。ですけどその後の運営というのが、経営というのが問題であって、これもその農業じゃないですけどもお天とうさま次第、どこのその製品を使うかわかりませんが、発電効率の問題があったりですね、本当に気候に左右されるですとか、そういった要素の中で果たしてどこまで責任をもって継続してくれるのかなというのと、前も申しましたけれども、終了した時点で誰が撤去しますかと、撤去してくれる保証があるのでしょうかっていうことを私は一番あれするんですよ。再度伺います。最後に撤去するのは誰ですか。誰が責任を持ちますか、その担保はどういうふうに決めてありますか。

○委員長（馬場又彦君） 商工観光課長。

○商工観光課長（福田修君） 最後に撤去するのは、設置して今会社が立ち上がる新しい「田名部組」、「二本木油店」さんの合同の会社が撤去することになります。これから、賃貸借の契約を結ぶこととなりますので、その辺できちんとうたっていくことになると思います。それから、確かに企業を誘致して工場を建てますと雇用が生まれてきますけれども、今のメガソーラーに関しては、本当に一人位の雇用しかございません。

当時、福地村で造成した時代からもう相当年数が経って、ようやく合併後に一区画、それも当初の値段よりは若干低めに売買された経緯がございますので、私たちも出来ればその会社を誘致したいということで、一生懸命頑張っては来ておりましたけれども、なかなか誘致して貰えない。

それで、今のように雑木が茂ってきて管理するのも大変になってきている状況でございますし、今、政権が変わりまして「アベノミクス」の効果が徐々に中央の方では出てはおりますけれども、その辺の効果がもうちょっと早ければ動きが出たのかなという気はしますけれども、今のところは地方に工場を建ててくるようなことはちょっと厳しいのではないかと。

一昨日でしたか、北インター工業団地の方にもメガソーラーが出来るといような形になっておりますので、本当にこれから新しい雇用を生めるような企業を誘致してくることは本当に厳しいところがございます。ただ同然で置くよりは、幾らかでも土地の管理をしていただきながら収入を得ていった方が良いのではないのかなということで、メガソーラーの話が来た時点で動き始めたという経緯がございます。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。川守田君。

○15番（川守田稔君） メガソーラーだからだめだとか、雇用がないからだめ、まあ、出来れば雇用があった方が良くと思うんですよ。そういう目的の造成地なわけですから。まあ、そういう事情は私もわかっていますので、ただその経営するマインドとしてですね、やはり従業員を抱えることと何人か抱えること、何十人か抱えることとですね。「ちょっと違うんじゃないのかな」というその取り組みのあれをもってですね。そのこのところをひとつ危惧するのとですね。その責任の明確化ということですね。ちゃんとやらないとですね。まあ、いつ、トンズラこく。トンズラこけない人たちですけど。いや、あるんですよ。非常に取って付けたような新会社をあれし

てですね。日本中を見渡せばですね。まことにその確信犯的な、その先ほども申しましたように、造るまでは確実に儲かりますから。融資が付けば。まあ、とってつけたような新会社、それが経営の母体ですとかいうようなことがいっぱいあるんですよ。日本国中にね。まあ、そういったことですね。轍を南部町で踏まないようにと思って申しておるものですから、その辺は理解していただきたいと。

○委員長（馬場又彦君） ほかに質疑ございませんか。
（「質疑なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。
討論を行います。討論ありませんか。
（「討論なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 討論なしと認め、これで討論を終わります。
議案第95号を採決します。本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。
（「異議なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） ご異議なしと認め、議案第95号は原案のとおり認定されました。

◎議案第96号の上程、説明、質疑、討論、採決

○委員長（馬場又彦君） 議案第96号、平成24年度南部町介護老人保健施設特別会計歳入歳出決算認定についてを議題とします。
本案について説明を求めます。老健なんぶ事務長。

○老健なんぶ事務長（麦沢正実君） それでは、決算書の345ページをご覧いただきたいと思えます。議案第96号、平成24年度南部町介護老人保健施設特別会計歳入歳出決算についてご説明い

たします。

まず、決算書の347ページの下段になりますけれども、歳入決算書の収入済額の合計は3億8,187万4,838円となり、次のページの下段になりますけれども、歳出決算書の支出済額の合計は3億7,647万9,044円で、歳入歳出差引額539万5,794円であります。これが、平成25年度への繰越金となります。

それでは、歳入決算の主なものをご説明いたします。決算書の350ページ、351ページをご覧くださいと思います。1款1項1目施設介護サービス費では2億5,151万9,017円となり、前年度と比較いたしまして0.6%の減となりまして、金額では161万3,000円の減額となりました。この減額の主なものは、施設サービス費の長期入所者の年間利用延べ人数ですけれども前年度と比較して110人減となり、金額では99万1,000円の減額となります。また、短期入所者の年間利用延べ人数が前年度と比較しますと136人の増となります。短期につきましては、金額で384万2,000円の増額となりました。さらに通所サービス費でございます。前年度と比較しまして年間利用延べ人数が361人減となります。金額的には446万4,000円の減額となり、この長期、短期の通所サービス費を差し引きしますと161万3,000円の減額となったものでございます。まず、この要因といたしましては、長期と通所利用者の減もありますけれども、その他に昨年4月からの介護報酬の会計に伴っての減額がその要因となっております。

次に、2款1項1目の負担金では5,671万8,565円となり、前年度と比較いたしますと6.5%の減となり、金額では393万3,000円の減となります。この減額の主なものは、先ほどの1款と同じように、サービスと同じように利用者の人数の減によるものと、それと長期の人数の減と、短期は先ほど申しましたとおり幾らか増になりましたけれども、通所はまた減ということで、金額的には393万3,000円の減となったものであります。

次に、4款1項1目の一般会計繰入金でございます。5,780万9,000円となり、前年度と比較いたしまして56.0%の増となりました。金額では2,760万1,000円の増額となり、この繰入金の増額は、歳入では支出サービス費及び利用者負担金の減によるものと、次にご説明する5款の繰越金も前年度と比較いたしまして減となったためでございます。また、さらに後で説明しますが歳出において一般管理費の支出が増となったため繰入金を増額したためでございます。

次は、5款1項1目の繰越金です。これは365万7,556円。前年度と比較いたしまして68%の減となりまして、金額では778万3,000円の減額となりました。以上で、歳入の決算説明を終わります。次に歳出決算書の明細についてご説明いたします。

決算書では、354ページ、355ページをご覧いただきたいと思います。1款1項1目の一般管理費では、2億7,519万2,452円となり、前年度と比較いたしますと3.1%の増となり、金額では828万8,000円の増額となります。この増額の主なものは、2節給料、3節職員手当等、4節共済費の人件費についてでございますが、前年度と比較いたしますと給料につきましては職員23名分で103万3,000円の増となり、職員手当等につきましては、若干、勤務手当165万1,000の増、共済費では社会保険料の71万8,000円の増となっております。

次に、7節賃金では、3,930万4,621円となり、前年度と比較しますと10.2%の増となっております。金額では、363万4,000円の増となっております、これは臨時職員で看護師を募集してございましたけれども、なかなか応募がなかったため、代わりに介護員1名を採用して、その年度途中において、看護師の応募があつて、看護師を採用したため、介護員と看護師が4ヶ月ほどでしたが重複したということになって、増額となったものでございます。また、昨年からの夜間勤務手当を支給したことにより、賃金が増額となったものでございます。

次に、11節の需用費です。883万9,233円となり、前年度と比較しますと10.2%の増となります。金額では100万8,000円の増額となっております。これは、光熱水費の増、燃料費の単価アップにより、36万2,000円の増。また、修繕料では床暖房器具等の修繕に71万2,000円の増額となっております。次に、13節の委託料では、支出済額が1,693万4,632円となり、前年度と比較いたしますと2.7%の増。金額では43万7,436円の増額となります。この増額は、主に暖房給湯業務の委託料でボイラーの高騰による増額となっております。

次に決算書の356ページと357ページをご覧いただきたいと思います。18節の備品購入費では59万4,425円となり、前年度と比較しますと金額では35万1,000円の増額となりました。この主なものは、介護用備品である吸引器とかセンサーマットなどを購入したため、増額となったものでございます。

次に、1款1項2目の療養費の11節の需用費では1,442万7,747円となり、前年度と比較して4.0%の減となり、金額では61万4,000円の減額となります。この減額は、主に医薬材料費で入所者の医療費、薬代等の減額であります。

次に、療養費の13節委託料では3,536万2,608円となり、前年度と比較して1.4%の減。金額では49万2,000円の減額となります。この減額の主なものは、給食業務の委託料の減額が主なものでございます。さらに2款1項1目公債費の元金の償還金では4,500万円となり、これは前年度と同額でございます。

また、2款1項2目公債費の利子の償還額では385万2,708円となり、前年度と比較して11.0%の減となり、金額では47万5,000円の減額となりました。

以上、簡単でございますが平成24年度の歳入歳出決算の概要説明を終わります。

○委員長（馬場又彦君） 説明が終わりました。

質疑を行います。質疑ありませんか。5番、夏堀文孝君。

○5番（夏堀文孝君） ページ数355ページ、1款総務費、1項1目2節の給料23人分の給料ですね。その下の職員の手当もこの23人分ですか。

○委員長（馬場又彦君） 老健なんぶ事務長。

○老健なんぶ事務長（麦沢正実君） はい、職員の給料23人と職員手当につきましても同じ23人のトータルです。

○委員長（馬場又彦君） 5番、夏堀文孝君。

○5番（夏堀文孝君） これを計算してみると一人当たり600万円になりますよね。一般会計から56%の増、2,000万円以上の増額をしながら、給料は一人当たり600万円以上の給料をもらっている。これは、異常と思うのですが、そもそも私はこの老健さんは前から民間でやるべきだと言っていますけれども、民間でも十分に利益を出してやれる施設なんですね。それで、この勤勉手当などさまざまな手当を付けて、一人当たり600万円以上の平均給料を払っている。誰が見てもこれは異常だと思うのですが、その辺はどう思っていますか。

○委員長（馬場又彦君） 老健事務長。

○老健なんぶ事務長（麦沢正実君） 一般職員で13名とありますけれども、この中に施設長の医師も含まれております。ですから、単純に一人600万円までまず先生の給料は高いです。その分を除けば、職員一律どの位になるのでしょうか。割って計算していなかったものですから。ま

ず先生の給料も入っているということです。

○委員長（馬場又彦君） 5番 夏堀文孝君。

○5番（夏堀文孝君） それでは、その先生は常勤ですか。それとも1回来て一日幾らとかそういう契約ですか。

○委員長（馬場又彦君） 老健事務長。

○老健なんぶ事務長（麦沢正実君） 先生は一般職員と同じく常勤です。

○委員長（馬場又彦君） 5番、夏堀君。

○5番（夏堀文孝君） そうだと思います。わかっていて聞いたんですけど。

まあ、どこの施設でも常勤。こうって施設では常勤は置かなければならないことになってるんですけど。普通は高齢になって引退したお医者さんとか、そういう方が大体付いていますので、本当の医者給料を払っているのかというと。ほかの施設はそんなにそんなに払っていませんよ。実際のところですね。それを取ってみても、その先生がいるからその分多いのも不自然だし。やはり、それでは先生を除いた職員の平均給料はいったいどの位になっているのかというのは、やはり施設を運営していく上で、経営者とすれば「じゃ、人件費一人当たりどの位かかっているんだ」というのも頭に入れて当然だと思うんですよ。しからば、単独でやってるのであれば「何ぼけても、一千万けでも、二千万けでも」いいんですけど、足りないから一般会計から「じゃー、くださいください」と、それで5,700万円ですよ。5,700万円はすごい金額だと思います。そのところをやはり認識していただきたいなって思うんですよ。ちょっと、怒っているんですけども。

そういうところを改善するというか、これを改善するには、多分役場がこう特別会計でやってたのでは、多分人件費を下げるにも、下げれないんですよ。やっぱり、もう極端な話し、指定管理するとか、民間に移譲するとかしないとやっぱりこれ給料は、役場の職員並みの給料査定になっていくと思うので、手当にしてもそのとおりです。

やはり、ここは民間に渡すという考え方をしていく、検討していくべきだと思うんですよ。そ

の辺についてはどうですか。

○委員長（馬場又彦君） 老健事務長。

○老健なんぶ事務長（麦沢正実君） 給与関係につきましては、福祉施設としてはある程度の一定上位の金額とかいうのも、民間ですとあるかもしれません。

ですが、我々町、町立の施設ですので、給料に関しては給料表に基づいて、一般職員もしくは技能職員がそれに基づいて支給されておりますので、上限とかそういうのは決めれないという形になろうかと思えます。

そして、後は民間委託ということですが、まず、今の段階で考えますと、まあ、隣の南部病院さんと共有して使っている施設があったりします。ですから、それを一たん民間に頼んで受ける所があればいいかなと思えますが、今のところ共有の部分がありますのでなかなか難しい点があるかなと思っております。ですから、直営で運営していくという考えでおります。以上です。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。はい、町長。

○町長（工藤祐直君） まあ、あの給料の分は公務員という中で、給料表に基づいて行っているわけでございます。ただ、それぞれ施設長なり事務長が経営者という感覚でいかないといけないわけですね。議員おっしゃるとおり足りなくなれば一般財源からという。町営ですので最終的には一般財源になるわけですがけれども、それを工夫していかないとはですね。一般財源いくらあっても足りないわけですし、まあ、そこは事務長はじめ老健に限らずですね、経営者という立場でやっっていかなければと思っております。

それから、将来的な部分でございますけれども、今、南部病院さんの方もいろいろ計画があるようございまして、まあ、その結果によって、今後、老健も町営でいくのか、指定管理に行くのか民間移譲するのかという部分は、この後、検討が出てくると思えます。永遠にいくという、まあ、ちょっとまあ事務長もそのつもりではなかったと思えますけれども。今後、そういう検討は出てくるということをつけ加えさせていただきます。

○委員長（馬場又彦君） ほかにございせんか。4番、工藤正孝君。

○4番（工藤正孝君） ページ数は357ページ、13節委託料の給食業務。まさしく今夏堀議員さんもおっしゃいました。そこまでいこうとお話し。そのとおりでしたので、3,431万5,000円。これは、今、町長さんもおっしゃいました説明もありましたとおり、南部病院さんからの給食を委託して「作ってもらって食っている」と申しますか。これは、歳入の方を見ましても漠然とですね。この介護サービス費というふうになっておりますので。

歳出は、南部病院さんにこの分払っておりますが、いわゆる一食、朝昼晩、ちょっと若干値段が違うのか、たとえば一律、一食いくらというものなのか。それと、そうであれば歳入、まず利用者さんからいただいているお金というのはどのくらいになるのでしょうか。

○委員長（馬場又彦君） 老健なんぶ事務長。

○老健なんぶ事務長（麦沢正実君） 給食業務のことですが、まず歳出で3,400万円これは南部病院に委託した金額がですね、朝昼晩その金額がちょっと端数がありますが1,700円ぐらいなんですよ。今、3食で。そして、歳入のこのサービス費の方に介護保険で含まれる金額というのが1,380円なんです。ですから、ちょっと差額は施設で支払いしているということになります。

○委員長（馬場又彦君） 工藤正孝君。

○4番（工藤正孝君） 勉強しました。それで、町長が総括したお話をしましたので、しゃべらないと思いましたが、いわゆるまあ今後、数年かけて、あるいは検討材料に入っていくだろうという話でした。しかし、南部病院さんも聞くところ民間だわけです。まさに社会医療法人を目指して取得をしました。そして、また、耐震に引かっている建物なので、すぐにでも取り壊して建築したいというふうに申し出があつて、近隣の土地を一生懸命に探している最中だそうです。そうなった時に建設をする。そして、古い所から民営化に移っていただいて取り壊すというふうになります。もし、早ければ一年したら着工、決着してしまうのかなと思うと、この給食業務を委託している建物も無くなるわけです。そうなった場合、我が町ではその業務を続けてまだ民間なのか、どうなのかという最中にそういったことが始まりますと新たに給食業務の場所を造らなければならなくなってくるという建設費が、多額の建設費が出てくると思います。人数もベッド

数も多いので。そうするとまた職員採用とかさまざまな金額が大きい数字が出ていくと思います。その辺も踏まえてやはり民間と協議をする。民間レベルなスピードがなければいざという時には、弱腰体系になっていくのではないのかなと思います。いかがでしょうか。

○委員長（馬場又彦君） 町長。

○町長（工藤祐直君） 今、議員の方からもありました南部病院さんの耐震の関係で、新築しなければならないと。まあ、そういう話はうちの方にも来てございます。まあ、今交渉中という段階でありまして、詳細にというのは南部病院さんの方にも失礼であつてもいけませんので、話せる部分というのは解体する場合に、今言った給食室。これはくっついているわけです。老健と南部病院さん、器械室の方もあります。電気系統ですか。まあ、そういう部分を解体の部分の部分は町の方で買い取りするという部分は、可能かどうかというのを今お互いに確認をしたりしているところでございます。ですから、その状況によって今後の町の方もまず変わってくるなど。まあ、そういうのがまた可能になっていけば、今度は当然、独自の給食提供とかというのも考えていかなければなりません。今、お互いに「こういうのはどういうふうになりますか」とかいうのは、町の方も確認したり、向こうさんの方も確認に来たりとかですね。そういう状況であるということになりますので。ですから先ほど私が今後、老健が直営で行くのか指定管理で行くのかというのは、そういう今回の南部病院さんとの新築にあたっての形がどういうふうになっていくのかということで、将来の方向というのが変わってくる部分があるということで申し上げたわけでございますので、もう少しまあ、お時間はいただかなければならないなとこう思っております。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。ほかに質疑ございませんか。

（「質疑なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

討論を行います。討論ありませんか。

（「討論なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 討論なしと認め、これで討論を終わります。

議案第96号を採決します。本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(馬場又彦君) 異議なしと認め、議案第96号は原案のとおり認定されました。

◎議案第97号から議案第101号の上程、説明、質疑、討論、採決

○委員長(馬場又彦君) お諮りします。

この際、議案第97号から議案第101号までの平成24年度南部町各財産区特別会計歳入歳出決算認定についての議案5件を一括議題にしたいと思います。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(馬場又彦君) 異議なしと認め、議案第97号から議案第101号までの議案5件を一括議題といたします。

本案について説明を求めます。総務課長。

○総務課長(小萩沢孝一君) それでは、最初に、議案第97号、平成24年度南部町大字上名久井財産区特別会計歳入歳出決算の認定について、ご説明申し上げます。

362ページをお開きください。362ページでございます。歳入についてであります。第2款財産収入、第1項財産運用収入ですが、予算額200万1,000円に対し、収入済額は252万2,186円で、チェリリン村及び電柱施設の土地貸付収入であります。

次に、第2項財産売払収入ですが、予算額1,000円に対し、青森県からの依頼で県営南部町地区中山間地域総合整備事業における鳥舌内集落道整備用地として及び名久井岳公園線道路改良工事用地としての売却代金でございまして、売払収入160万7,916円でございます。

次に、第3款繰越金、第1項繰越金ですが、予算額3,000万円に対し、収入済額は3,955万7,865円で前年度の繰越金であります。

次に、第4款諸収入、第1項雑入ですが、予算額1,000円に対し、収入済額は9万3,281円で預金利子及び立木伐採委託料の売却差額等でございます。

歳入合計は、予算額3,240万4,000円に対し、収入済額は4,378万1,248円となっております。

次に歳出ついてでございますが、次のページ364ページでございます。第1款総務費、第1項総務管理費ですが、予算額190万2,000円に対し、支出済額は934万401円で、内容としては管理委員報酬、交際費、旅費、町内各団体への助成金、森林火災保険料が主なものでございます。

次に、第2款財産費、第1項基本財産造成費ですが、予算額132万円に対して支出済額はございません。歳出合計は予算額3,250万4,000円に対し、支出済額は93万4,401円となり、歳入歳出差引残額は4,284万6,847円となりました。

次に、議案第98号、平成24年度南部町大字平財産区特別会計歳入歳出決算認定についてでございます。

376ページでございます。歳入についてありますが、第1款県支出金及び第2款財産収入とも収入はございませんでした。第3款繰越金、第1項繰越金ですが、予算額300万円に対し、収入済額は前年度繰越金として311万4,554円が収入済となっております。

歳入合計は、予算額301万円に対し、収入済額311万4,554円となりました。

次に、歳出であります。378ページ、次のページをお開きください。総務費の第1款総務管理費ですが、予算額127万1,000円に対して、支出済額は84万9,538円で、内容といたしましては管理委員の報酬、交際費、旅費、平公民館用地の借上料及び維持管理費、町内団体への助成金、森林及び建物火災保険料が主なものであります。

歳出合計は、予算額301万円に対して、支出済額は84万9,538円となり、歳入歳出の差引額は226万5,016円となりました。

次に議案第99号でございます。388ページをお開きください。平成24年度南部町大字平字下平外14字財産区特別会計歳入歳出決算認定についてでございます。歳入についてありますが、第2款財産収入、第1項財産運用収入ですが、予算額200万1,000円に対して、収入済額は208万9,461円で、チェリリン村ほか農用地として貸し付けている土地貸付収入でございます。次に2項財産売払収入ですが、予算額1,000円に対し、青森県からの依頼で県営南部町地区中山間地域総合整備事業における鳥舌内農道整備用地として、又、この他立木補償代等を含めまして、総額として93万3,167円でございます。

次に、第3款繰越金、第1項繰越金ですが、予算額1,500万円に対し、収入済額は前年度繰越金として1,755万3,536円となっております。

次に、第4款諸収入、第1項雑入ですが、予算額1,000円に対し、収入済額は4,800円で預金利

子でございます。

歳入合計は、予算額1,700万4,000円に対し、支出済額2,058万964円となりました。

次に歳出であります。390ページでございます。第1款総務費、第1項総務管理費ですが、予算額347万円に対して、支出済額は193万4,147円で、内容としましては管理委員報酬、交際費、旅費、町内各団体への助成金、管理事務所の維持管理経費、森林及び建物火災保険料が主なものでございます。

次に、第2款財産費、第1項基本財産造成費ですが、予算額151万円に対し、下刈り作業経費、立木伐採業務経費として15万9,676円が支出済となっております。

歳出合計は、予算額1,700万4,000円に対し、支出済額総額は209万3,823円となり、歳入歳出差引額は1,848万7,141円となりました。

次に、議案第100号でございます。402ページをお開きください。議案第100号、平成24年度南部町大字下名久井字田端外17字財産区特別会計歳入歳出決算の認定でございます。

歳入についてであります。第2款財産収入、第1項財産運用収入ですが、予算額170万1,000円に対し、収入済額は181万1,060円で、企業用地のほか農用地として貸し付けている土地貸付収入でございます。次に第2款財産収入第2項財産売却収入ですが、予算額1,000円に対し、売却収入は、今回はございませんでした。

次に、第3款繰越金、第1項繰越金ですが、予算額3,300万円に対し、収入済額は前年度繰越金として3,475万7,850円となっております。

次に、第4款諸収入、第1項雑入ですが、予算額15万1,000円に対し、預金利子及び下名久井公民館使用料、自動販売機、電気料等々でございます。

歳入合計は、予算額3,485万4,000円に対し、収入済額3,686万9,810円となりました。

次に歳出でございます。404ページ、次のページでございます。第1款総務費、第1項総務管理費ですが、予算額495万円に対し、支出済額は267万9,189円で、内容といたしましては管理委員報酬、交際費、旅費、公民館運営助成金、下名久井公民館の維持管理費、森林火災保険料、機械借上料等が主なものでございます。

次に、第2款財産費、第1項基本財産造成費ですが、予算額128万円に対し、支出済額は6万6,379円で下刈り作業業務経費となっております。

歳出合計は、予算額3,485万4,000円に対し、支出済総額は274万5,568円となり、歳入歳出差引額は3,412万4,242円となりました。

次に、議案第101号、416ページでございます。平成24年度南部町大平財産区特別会計歳入歳出決算の認定についてでございます。

歳入についてでございますが、第1款財産収入、第1項財産運用収入ですが、予算額36万円に対し、収入済額は36万円で、町に貸し付けている土地貸付収入であります。次に第1款財産収入第2項財産売払収入ですが、予算額1,000円に対して、売払収入はございませんでした。

次に、第2款繰越金、第1項繰越金ですが、予算額108万2,000円に対し、収入済額は前年度繰越金として111万8,140円となっております。

次に、第3款諸収入、第1項雑入ですが、予算額1,000円に対し、預金利子として146円が収入済となっております。

歳入合計は、予算額144万4,000円に対し、収入済額147万8,286円となりました。

次に歳出でございますが、次のページ、418ページをお開きください。第1款管理会費、第1項管理会費ですが、予算額9万6,000円に対して、支出済額は3万2,500円で、内容といたしましては管理委員報酬が主なものでございます。

次に、第2款農林水産業費、第1項林業費ですが、予算額37万9,000円に対し、支出済額は15万7,890円で、森林火災保険料、管理員報酬などの経費となっております。

歳出合計は、予算額144万4,000円に対し、支出済額の総額は19万390円となり、歳入歳出差引額は128万7,896円となったものでございます。

以上でございます。

○委員長（馬場又彦君） 説明が終わりました。

質疑を行います。質疑ありませんか。16番、工藤久夫君。

○16番（工藤久夫君） 一番最後の大平財産区の件でちょっと関連で聞きますが、この79ページの衛生費の中に、真ん中のあたりに不燃物の処理場の地下水検査発生ガス分析調査として150万円位の予算を取ったとついているのですが。この大平の財産区の今後の見通しといたしますか、どの程度どういうふうにやっていくのかというものの見通しがわかったらわかる範囲で説明をお願いしたいと思います。

○委員長（馬場又彦君） 住民生活課長。

○住民生活課長（極檀義昭君） これに関しては、前回の議会の後にご説明しておりましたが、大平不燃物処理場につきましては、5年計画で閉鎖すると。適正閉鎖に向かうということでお話をしておりました。

今年度につきましては、基本設計を造るということでもう入札も終わりました、業者が決まって今作業を進めているところでございます。今年度については、埋め立て歴の調査、測量調査、土質調査。あと、現況の実質構造の発生ガスの問題、色んな問題を解決して、県の方と協議をしながら基本計画を作成します。で、来年度につきましては、それを基にして実施計画を作ると。そして、3年後には埋め立て工事を実施すると。その後、2年間で水質検査などを行いまして、適正であれば閉鎖ということになります。

○委員長（馬場又彦君） よろしいですか。工藤久夫君。

○16番（工藤久夫君） そうすると、5年かけて特別問題がなければ閉鎖と。閉鎖になった場合は、この36万円だが、土地の使用料払っているのは、そこで打ち切りになる予定ですか。それともしばらく「ずーっと」36万円を払っていく予定か。その辺を総務課長の見解を伺います。

○委員長（馬場又彦君） 総務課長。

○総務課長（小萩沢孝一君） そこまではまだ話はしてございません。5年経って、その形状がどうなっているのか。その辺を管理会の皆さんとやはり町と一緒にあって、私たちも入って協議していくことになろうかと思えます。

○委員長（馬場又彦君） ほかに質疑ございませんか。

（「質疑なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 質疑なしと認め、これにて質疑を終わります。

討論を行います。討論ありませんか。

（「討論なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 討論なしと認め、これで討論を終わります。

議案第97号から議案第101号までの議案5件を一括して採決します。本案は原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（馬場又彦君） 異議なしと認め、議案第97号から議案第101号は原案のとおり認定されました。

◎閉会の宣告

○委員長（馬場又彦君） 以上で、本委員会に付託されました平成24年度各会計の決算審査は全部終了いたしました。

閉会に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。去る、8月30日に本委員会に付託されました平成24年度の南部町一般会計並びに各特別会計の歳入歳出決算認定につきまして、委員各位におかれましては、2日間にわたりまして終始熱心なご審査を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。

また、町長初め代表監査委員、各担当課長の皆様には審査の円滑な運営にご協力をいただきまして、ここに改めてお礼を申し上げます。

本日をもちまして、本委員会の日程は、全部終了したわけですが、その間、不慣れな私に対しまして、お与えいただきました温かいご指導、ご協力に対し感謝いたしますとともに、ご迷惑をお掛けしましたことにつきましては、深くお詫びを申し上げ、まことに簡単ですが、お礼のあいさつに代えさせていただきます。まことにありがとうございました。これをもって決算特別委員会を閉会いたします。大変ご苦勞さまでございました。

（午後3時38分）

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

決算特別委員会委員長 馬 場 又 彦